

アセンションBOOK 1

天の川銀河の物語 NO1

2013 年 8 月

Peace of Galactic Cluster

天の川銀河の物語 1

白鳥の六芒星物語



白鳥の六芒星物語 目次

第1章 旅の始まり

第2章 エンジェル・レイ 天使の星

第3章 ペガサス騎士団との出会い

第4章 ガイアの神殿

第5章 さそり座の仲間達

第6章 ベガ星へ 白鳥の六芒星

第7章 癒しの星 ラスアルハゲ星

第8章 白鳥座のフェアリー達

第9章 ペガサス座の傷ついたペガサス

第10章 ヘーラクレス座のアルケイデース

第11章 北極星の創造主

第12章 大天使ラジエル様と光の六芒星

第13章 白鳥座の北十字を輝かせる星々

第14章 偉大なるマスターと龍達

第15章 白鳥の六芒星の結束

第16章 アルタイル星のマスターの救出

第17章 アルタイル星への再生

第18章 アルタイル星の心臓に絡んだ闇の根

作者 瀬戸武志

アセンションブック

<https://www.k-suai.com/>

アメブロ光の世界 <http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール yume34@k-suai.com

イラスト えんじえる (佐藤弘之)

星座のイラストは 88 星座図鑑 自然学習館

http://www.study-style.com/index_seiza.html

第1章 旅の始まり

PART1 旅の始まり

私は「龍治」という名前で皆さんから呼ばれています。

私は数名の友人と共に 2006 年に「宇宙の光」というグループを作り、お互いを癒しあうためのヒーリングを行ったり、大地震や津波などで傷ついた人達や貧困や飢餓で苦しんでいる人達のために祈りを捧げてきました。私達は、地球人として、もっと愛に満ちた人間に成長していけるように願い活動してきたのです。

これから皆さんにお話しする事は、私達に起きた不思議な物語です。

それは 2013 年の初春の事、私達はいつも祈りを捧げている大天使ミカエル様の訪問を受ける事からはじまりました。

大天使ミカエル様は夢の中でこのように私に告げました。

「皆さんは、地球の人達のために祈り続けてきました。

地球の人々が飢餓や貧困、そして自然災害から救われ、愛に満ちた人類へ成長していけるように願ってきました。

その祈りは私達にしっかりと届いています。そしてこれから、皆さんの祈りを自ら実践する時が来たのです。

あなた方の新しい旅が始まります。」

私は、大天使と心をつにして大天使からのメッセージを受け取り、皆さんにご紹介する

事を行ってきましたので、この大天使ミカエル様の言葉も不思議には思いませんでした。ただ、「新しい旅」という言葉に、いったい何が始まるのだらうと、期待感が膨らんでいきます。

私はこの事を「宇宙の光」の仲間達にも伝えました。

「宇宙の光」の中心的なメンバーは、私の他にも3名います。

グループ自体は、日本全国に100名近くの仲間がいて、私がブログやメールで、祈りの会や活動のお知らせを行うと、インターネットを通して集まってきてくれます。

でも中心メンバーの3人とはいつも一緒に活動し、私達の活動のプランを作っていくのです。

物語を始める前に3人のご紹介をしましょう。

葵（あおい）さんは、メンバー達のまとめ役でとても落ち着いた女性です。

大天使や女神達からのメッセージを受け取り、私に教えてくれます。

彼女の語る言葉にはとても説得力があり、「宇宙の光」のメンバー達も彼女を信頼しています。

遥か（はるか）さんは、ユニコーンやフェアリー、そして草花や動物達の事が大好きな女性です。

どちらかというと夢見る少女といった方が良いかもしれません。

フェアリーやユニコーン達と話しをすることが得意です。

彼女の優しさや癒しの力は、私達にとってなくてはならない物です。

美緒（みお）さんは、とても活動的で一緒に行動していても、私達の先頭をいつも走っていきます。

勇気があり好奇心も旺盛で私達の活動をぐいぐいと引っ張ってしてくれます。

そして、困っている人を見ると助けずにはいられない性格ですが、涙もろいところもあります。

さて私が、大天使ミカエル様から、夢の中でメッセージをもらった話をする、葵さんも同じような夢を見たようです。

「私も、同じような夢を見たわ。

大天使ミカエル様は、私達に何かしてほしいことがあるような表情をしていたから、それが気になっていたの。」

「それってすごい事よね。

何が始まるのかしら、楽しみだね。」美緒さんは好奇心で胸が膨らんでいるようです。

数日後、私は眠れないでいると、日本の神様のような姿をしている人がふっと現れてくるのを感じました。

それも数日前に買った透明感のある大きなクリスタルから現れてきたように思えます。

私は起き上がり、クリスタルを前にして目を閉じます。

そして私の心に響いてくる声に耳を傾けます。

「龍治さん、私はあなたにお話ししたい事があります。

先日大天使様が、あなたにお話ししたように、あなた方に行ってもらいたい事があるので。」

私は心の中でその存在に語りかけます。

「あなたは誰ですか、どうして私達に関わってくるのですか。」

「私は、皆さんの言葉でいうと、日本の神々の元となった存在です。

皆さんには、まるで日本の神のような姿に見えるかもしれませんが、私達は遠い過去の時代に日本に降り立って皆さんを指導してきました。

もともとは、こと座のベガ星から来たスターピープルです。」

スターピープルとは、地球以外の星の人達で、地球人よりも精神的に進化していて地球人を指導するために、この地球にやっているとされている存在達です。

彼らの多くが肉体を持たず、スピリチュアルな存在のようですので、私達のように100年足らずで肉体を失って死ぬという事はあまりないようです。

私は少し驚きました。

今まで大天使や女神達とのコンタクトは行っていましたが、地球以外の星の人達とのコンタクトはあまり経験がなかったからです。

私の気持ちを察したのか、その存在は続けて話します。

「あなたが驚くことも不思議ではありません。

ただ、このように考えてください。

私達は、地球人の皆さんよりも少しばかり進化した存在です。

皆さんが、地球人として大切な進化を行う為に、遠い昔、他の星から地球にやってきて、皆さんを見守り導いてきたのです。

それが世界各地で残されている神話であったり、神々の姿なのです。」

確かにそうかもしれません。

地球人は類人猿の時代から急速に進化してきました。

地球人だけでは、私達もこれほど進化できなかったかもしれません。

「私達はこと座のベガ星からやってきました。

私達の仲間は、日本の神々である天照大御神や瓊瓊杵尊の姿を借りて、日本に住む人達を導いてきたのです。

あなたにそのことを理解してもらう為に、私達はこのような姿をしているのです。」

私は、この存在が、日本の神社で見る巫女さんのような姿をしている理由が分かりました。

自分達は、日本の神々と深い関係がある存在である事に気付いてもらいたかったようです。

私は、その存在に尋ねました。

「あなた方ベガ星の人達が、天照大御神や瓊瓊杵尊、大国主などの神様になったのですか？

あなたはどのような存在なのですか。」

その存在がにっこりと笑ったような気がします。

「そのように考えられて結構です。

私達は、日本の人達が成長するお手伝いをしてきました。

私達の種族がかつて日本に降り立ち、そこにすむ人々を指導していたのです。

人々は、私達の教えを守り実践していく間に、私達を信仰するようになってしまったのです。

それが天照大御神や瓊瓊杵尊への信仰とな
って、広く日本人に親しまれているのです。
私達は、とりわけ神になろうと思っていたわ
けではありませんが、そのような形を取った
方が皆さんにも理解してもらいやすかった
ようです。

どのような形であれ、私達、ベガ星のスターピ
ープルは、今でも皆さん達を見守り続けてい
ます。

そして必要に応じて皆さんにメッセージを
与えたりしているのです。」

「何故、あなたは私の前に現れたのですか。
まるで先日買ったクリスタルの中からあな
たが出てきたように私には見えたのです
が？」

私はクリスタルを手にしながらかねました。

「それは、あなたが私達を求めたからです。
自分達が成長して新たな人間として進化し
ていきたいと願ったから、私達はあなたの事
を見守り続けてきたのです。

あのクリスタルは、私があなたの前に出てく
るためには、あなたの意識や波長を高める必
要がありましたので、あのクリスタルをあな
たが手にするようにしたのです。」

そういわれれば、あのクリスタルを買った時
も不思議な事が起きました。

鹿児島に住んでいる私は、東京などに行く事
はめったになかったのですが、偶然東京で開
催されていたスピリチュアル関連の大きな
イベントに出かけて行ったのです。

そしてクリスタルを売っているブースで美
しいクリスタルに出会い、釘付けになってし
まいした。

しかしそのクリスタルは4万円もして私には買える値段ではありませんでした。一度はあきらめて他のブースを回っていたのですが、やはりあのクリスタルに心が引かれ戻っていきました。

私は、クリスタルをじっと見つめ、このクリスタルが4万円でなく2万円くらいになってくれたらなと考えていました。

するとお店の方が、私に声をかけてくれたのです。

「そのクリスタル、2万円でもいいから持っていきな。」

私はその言葉に驚いてしまいました。

勿論2万円を払ってクリスタルを頂きました。

「ということは、このクリスタルは、あなたが私のために用意してくれたのですか。」とそのクリスタルを手にとって尋ねました。

「そうですよ、そのクリスタルを持つ事で、私とも話がしやすくなりますから、そのクリスタルを大事にしてください。

これからは、このクリスタルだけでなく、たくさんのクリスタルとあなたは出会いますが、クリスタルはひとつずつ大切な役目を持っていますので、クリスタルとも心を同調させるようにしてくださいね。」

確かに、私は今まで自分が大きな転機を迎える時に新しいクリスタルを手にしていた事を思い出しました。

私は、その存在に向かってうなずきました。

「それで、あなたの事を何と呼んだらいいのですか。」

私には彼女の事が天照大御神のような威厳のある存在に見えていましたが、直接天照大御神と呼ぶ事はさすがにためられました。

「そうですね、私の事を天照大御神と考えられても結構です。

確かに、私達のグループは天照大御神として地球人を導いてきました。

しかし、あなたが私の事を正しい名前で呼びたいというのであれば、ベガ星のベガリタスと呼ばれると良いと思います。」

「ありがとう、ベガリタス様。
これであなたと話しをするときもしっくり
といきます。」

私はその時、ベガリタス様は、私達にとっても大切な話をしたいのだと思いました。

そうであれば、私だけでその話を聞くのではなく、仲間達と共に話しを聞こうと思いました。

「ベガリタス様、できれば、私だけでお話しを聞くのではなく、仲間達と共にあなたのお話しを聞きたいので、明日の夜にまたお会い
できますか。」

私は、ベガリタス様に尋ねました。

「もちろんです。
私もあなたのお友達にお会いできる事を
楽しみにしています。」

そうするとベガリタス様の意識は私の中から消えていきました。

私は早速3人の仲間達にメールを打ち、明日の夜10時にスカイプで話しをすることにしました。

PART2 地球人が滅びるか、生き残れるか

翌日の夜10時、スカイプで仲間を呼び出します。

真っ先に答えたのは、やはり好奇心旺盛な美緒さんです。

「龍治さん、何が起きたの、早く教えて。」と叫んでいます。

続いて葵さんとのんびり屋の遥さんがスカイプに応答しました。

これで4人全員そろいましたので、いつものようにスカイプ会議を始めることになりました。

皆さん、何が起きるか楽しみにしているようで、ワクワクとした気持ちが私にも伝わってきます。

「今夜は新しいゲストを迎えたいと思います。

彼女は、ベガ星のスターピープルで、日本の天照大御神様とも関係が深いようです。

私達に何か伝えたい事があるようなので、これから彼女と意識を一つにしてメッセージを伝えたいと思います。」

私は昨夜起こった事を女性達に伝えました。そして深呼吸をして昨夜会ったベガリタス様に意識を合わせます。

しばらくすると、彼女の意識や考えている事が私の心の中に入ってきます。

これは、私達が「チャネリング」あるいは「リーディング」と呼んでいる方法です。

今までも、大天使や女神達の意識と自分の意識をひとつに合わせる事でさまざまなメッセージやエネルギーを受け取ってきました。

そのメッセージは聞く人にとって様々な受け取り方ができるのですが、その人の心を癒し、元気づける事ができます。

私は深呼吸を繰り返しながら、心の中でベガリタス様の名前を数回呼びました。

すると心の中にほの温かいエネルギーが流れ込んできます。

葵さんもその暖かいエネルギーを感じたようです。

「このエネルギーはとても暖かく優しいエネルギーですね、それにとっても懐かしいわ。」美緒さんも遥さんもその言葉にうなずいています。

私は、心の中に流れ込んできた意識を言葉にしていきます。

「私はいつも皆さんの事を見守ってきました。

今皆さんとこのようにして交流できる事を心から嬉しく思います。

私はベガ星のベガリタス、皆さんの言葉でいうならば、日本の神々の元となったベガ星のスターピープルの1人です。

私がこれから伝える事は皆さんだけではなく地球の人達にも深く関わってくる話です。私達スターピープルは、今までの地球の現状を見て大変深い悲しみを持っています。

地球の人々は、自分の利益のために他人を利用したり、傷つける事を平気で行ってきました。

時には戦争を起こして多くの人達の生命を奪いました。

弱い国を侵略して、その国の人々や文化を平気で踏みにじってきたこともあります。

そして、地球の環境を汚染して多くの生命達の命も奪ってきました。

勿論、他の生命達を大切にしたり、地球の自然環境を保護しようとする人達もいましたが、地球人の多くが他人の事を顧みず自分の私欲のために動いています。

私達スターピープルはそのような地球人の意識を変え、地球人がもっと愛情深い存在になるように、地球に何度も優秀なスターピープルを送り込み指導してきましたが、それも成功しませんでした。

しかし、このままでは戦争や自然破壊だけでなく放射能汚染によって地球は滅びてしまうかもしれません。

私達スターピープルの中には、争いばかり行っている地球人は天の川銀河にとっても迷惑な存在だからこのまま滅びた方が良く考えるスターピープル達もたくさんいます。もし地球人が宇宙船を開発して他の星々に行くようになったら、地球で起こっている事を他の星でも繰り返すことになるでしょう。そうなると天の川銀河の星々も危険にさらされてしまいます。

しかし、今まで地球の人々を導いてきたいくつかの星のスターピープル達は、地球の人々は

とても豊かな愛の遺伝子を持っているので、このまま滅び去るのは残念だ、できうるならば地球人の意識を高めて地球という星を存続させたい、と考えています。

勿論、私達も、皆さんの事を大切な子供達のように思っていますので、地球人本来の愛に満ちた種族になって頂きたいと願っています。」

私はここで一息つきました。

それは、ベガリタス様の意識だけでなく、地球人の事を心配している多くのスターピープルや大天使達の意識も感じたからです。

今度はわたしに代わって葵さんがベガリタス様の意識をチャネリングしていきます。

「私達スターピープル達は、地球人がこのまま滅びていく事を見守るのか、それとも地球人の意識を変え、地球人を助けるためにさらに地球人に関わっていくのか討議を重ねました。

その結果、地球人がこの天の川銀河にとって必要な存在なのか、不要な存在なのかを見極めるために、地球人の中からいくつかのグループを選び出し、そのグループが天の川銀河の役に立つのか、どうか試してみようということになったのです。

実は天の川銀河の星々にはたくさんの問題が起こっています。

それも星々の物理的な世界で起きている問題が多いので、私達のように肉体を持たないスターピープル達は、星々の物理的な世界で働く事ができません。

そこで、物理世界とスピリチュアルな世界の両方に同時に存在できる地球人が、天の川銀河の問題を解決する事ができたら、地球人はまだ見込みがあるので、地球人が滅びていかないように地球人を助けよう、という事になったのです。

そしていくつか選び出されたグループの中の 하나가皆さんなのです。」

葵さんが、言葉を伝え終わるとしばらく沈黙が続きました。

その沈黙を破ったのはやはり美緒さんです。
「やだ！地球人が滅びていくか、生き残るか、
というテストを私達が受けるという事！
そんな事、あり得るわけじゃないの。」

確かに普通では考えられない事ですが、私達
も地球が破滅しないように、戦争などをやめ
て自然を保護する事や人間として成長して
いく事を長い間訴えてきましたので、ベガリ
タス様が言っている事は十分理解できます。

葵さんがベガリタス様に尋ねました。
今度は、私がベガリタス様の意識をチャネリ
ングします。

「あなたのお話しは、良くわかります。
私達も心の中では、同じように考えている部
分もあります。
でも何故、私達が選ばれたのですか。」

私は、ベガリタス様の意識と同調します。
「あなた達が選ばれたというよりも、本当の
所は、あなた方はこのために存在していると
いっても良いでしょう。
あなた方のスピリットや魂は、この地球と多
くの生命達をととても愛しています。
この地球と生命達が安らかに生きていける
ように活動する事であなた方は喜びを覚える
のです。」

それは、あなた方が地球と地球に生きる生命
を守る事に同意して、この地球に生まれてき
たからです。
あなた方は、気づいていないかもしれませんが、
自分の魂やスピリットの意思で仲間として
集い、このような活動を行っているのです。」

その言葉を聞いて遥さんが答えます。

「私は、心のどこかでその事に気付いていました。

自然や小さな植物や動物を大切にする事が、私が生きていく目的なんだと。

今までは、誰にもその事が言えなかったけれど、この仲間ができてから、私は今まで以上に、自分らしく生きられるようになりました。きっと私のような人も、地球にはまだたくさんいると思います。

私は、地球と地球人が生き残るためならば、頑張れると思います。」

「でも、私達にいったい何ができるのでしょうか。

特別の力も能力もない人間なのに。」と葵さんがつぶやきます。

「いいえ、あなた達だからこそできるのです。あなた方はとても素直であふれるばかりの愛を持っています。

これから、あなた方はいくつもの能力を身につけていきます。

星々を移動したり、いくつかの星の人々とテレパシーで語り合ったりする事もできるようになります。

皆さんは、様々な能力を持っている仲間達と出会うことでしょう。

その仲間達に助けられて多くの事を成し遂げていくのです。」

ベガリタス様はそう答えると、私達の意識からスーと離れていきました。

私達は、少し重苦しい雰囲気にも包まれていましたが、1人1人の心の中に、これから何が起きるか分からないけれど、やれるところまでやってみようという気持ちが生まれ始めているようです。

PART3 龍とひとつになって空を飛ぶ

私達はその翌日もスカイプ会議を行いました。

ベガリタス様を呼び出して、私達が具体的に何をしたらよいかを尋ねたかったのです。

私がベガリタス様の名前を数回呼ぶと、ベガリタス様の意識が私の中に入ってきました。私はベガリタス様に対して、私達はこれから何をすべきなのか、尋ねました。

勿論、美緒さんをはじめ女性達もどのような言葉が出てくるか、真剣に見つめています。

私は、ベガリタス様の意識に繋がって話し始めました。

「皆さん、こんにちは。

昨夜はどうもありがとうございました。

皆さんは、昨夜の私の話しを聞いて、いったい自分達はどうしたらいいんだろうとお考えになっているようですね。

でも何も心配する事はありません。

必要な事はすべて準備されていますし、皆さんのまわりで計画はすでに実行されつつあります。

ただ必要な事は、皆さんがその事を自ら選択するか、否か、という事です。

皆さんが、私達が予定している計画を実行しないという事を選択する事も自由です。」

その言葉を聞いて、遥さんが言いました。

「私や葵さん、美緒さんは、ベガリタス様達と一緒に働いてみようと思っていますが、私達のリーダーは龍治さんなので、龍治さんの考え次第だと思います。」

女性達が私の事を見えています。

このような状況で「私はやめます。」とはとても言えません。

「わかりました。

皆さんがそのように望むのならば、私達「宇宙の光」として全面的に取り組みたいと思います。」

女性達は、初めから私が断るはずはないと考えていますので、当然というような雰囲気です。

葵さんがベガリタス様に尋ねます。

「それで私達はいったい何をしたらよいのですか。」

ベガリタス様が、私の意識を通して答えます。

「まず必要な事は、皆さんの意識を一つにして、同じビジョンやメッセージを受け取る事ができるようになる事です。

皆さんは、より高い意識でこれから旅をする事になります。

皆さんの意識が、まとまらずにバラバラだと、1人1人が異なる世界に入っていって大変危険です。

皆さんの意識がひとつになって、同じ世界を体験できるようにしてください。」

「そのためにはどうしたいいのですか？」と美緒さんが尋ねました。

彼女はいつも1人で先に走り出してしまうので、ベガリタス様の言葉を聞いて、自分が迷子になってしまわないか心配しているのです。

ベガリタス様は、美緒さんの慌てぶりがおかしかったようで、笑いながら答えました。

「それは、自分が見ているビジョンの中に仲間達が常にいる事を確認することです。

もし周りに誰もいなければ、自分の気持ちと仲間達の気持ちが離れているという事です。

自分のビジョンの中で、常に仲間同士で会話をしながら、その会話が4人とも同じように受け取れているか、確認する事です。」

美緒さんは、遥さんと葵さんに、自分ひとりだけ迷子にならないように、ずっと手を握っていきましょうね、と言っています。
その頼りない言葉に遥さん達も苦笑しています。

「美緒さん、心配しなくても大丈夫です。皆さんの絆はとても強いので、いざというときはその絆が皆さんを守ってくれますよ。」

次は葵さんがベガリタス様に尋ねます。

「昨日ベガリタス様は、私達が天の川銀河のいくつかの星々に出かけて問題を解決するような事を言われていましたが、私達が他の星に出かけていく事など到底不可能のような気がするのですが、何か方法はあるのですか。」

まさに確信をついた質問です。

美緒さんが「さすが葵さん、突っ込みどころが違いますね。」と言っています。

するとそこに大天使ミカエル様の意識が入ってきました。

「そのことに関しては、私のほうから答えましょう。

皆さんは、物理的な肉体や意識では、到底地球の物理次元から出る事は出来ません。

しかし、皆さんの意識をもう少し高い次元にシフトするならば、天の川銀河の星々を訪れたり、そこで活動することは不可能な事ではありません。」

「それが簡単にできないから困っているじゃないの。」と美緒さんが言います。
実は美緒さんは葵さんや遥さんに比べて大天使からのメッセージを受け取ったり、ビジョンを見たりする事が苦手なのです。

大天使ミカエル様は美緒さんをなだめるように言います。

「もちろん、その事に対して得意な方や苦手な方もいらっしゃいます。

しかし、皆さんに関しては、自分の意識を高めて自由に天の川銀河の星々へと行けるような仕組みが作ってあるのです。」

「え、本当に！」と美緒さんがはしゃいだ声を出します。

「今、龍治さんが、大天使ミカエル様のヒーリングを行っていますよね。

その時に、皆さんの中から龍達が生まれてきていませんか。」

龍好きの美緒さんがはしゃいだ声を出しています。

「今皆さんの中から生まれてきている龍は、皆さんの癒しやパワーを高めるためだけに出てきているのではないのです。

この龍達は、皆さんのスピリットの一部なのです。

普通の人では、スピリットの一部が魂として存在し、皆さんにスピリットの意思や能力の一部を伝えます。

しかし、魂が伝えられる事はスピリットの1%にも満たない事だけです。

ほとんどの人が、魂と自分の意識の繋がりが薄いので、スピリットの使命や能力などを全く知らずに生きています。」

大天使ミカエル様のメッセージの内容が予想もしない事でしたので、私はここで一息つきましたが、美緒さん達の真剣なまなざしにすぐに話しを続けることにしました。

「しかし、皆さんの内側から生まれてきた「龍」は、スピリットの使命や能力などを10%程度持って生まれてきています。つまり、自分の内なる龍とつながれた人は自分のスピリットの能力の10%程度を使用することになります。そうすれば、スピリットの特質である空間を超えて旅することも可能となります。この龍と皆さんが深く繋がる事で、目的とした星にもいく事ができるようになるのです。」

私が大天使ミカエル様と共に「大天使ミカエルと神龍の心の扉と鍵」を昨年の末に作り上げてから、「宇宙の光」のメンバー達にこのアチューメントを行っていますが、確かに私達が心の扉を開いて大天使ミカエル様に会いに行くと、そこに龍も一緒に出てきてくれました。

私は、この龍は、その方のスピリットと深く関係しているという事はわかっていましたが、その人を癒して元気づけるために出てきているのだらうと思っていました。しかし、この龍達は、私達がこれから行う天の川銀河の星々への旅を可能にするために、大天使達が用意していた龍達だったのです。

私は、そうとも知らず、多くのメンバー達に「大天使ミカエルと神龍の心の扉と鍵」のアチューメントを施し、自分のスピリットの一部である龍と出会わせていたのです。

私は大天使ミカエル様に尋ねました。

「私は、多くのメンバーに「大天使ミカエルと神龍の心の扉と鍵」のアチューメントを施し、龍達を出してしまいました。

その中にはまだ、自分のスピリットと出会う準備ができていない人もいたのではないのでしょうか。」

私の質問に対して、大天使ミカエル様は葵さんの意識と同調して答えてくれます。

「龍治さん、大丈夫です。

「宇宙の光」のメンバーになった人は、魂レベルで今回の計画に同意しているので、皆さんと共に活躍することを楽しみにしています。

それに龍治さん、これから皆さんは、思っている以上に大変な冒険を続けていかなければなりません。

それをこの4人だけで行うつもりですか、もっとたくさんのメンバー達の協力が必要になってくるのです。

そのために、今まで以上に多くのメンバー達を育てておかなければ、皆さんの目的を達成することは出来ないのです。」

確かに、大天使ミカエル様の言うとおりです。私達には志を一つにするもっと多くの仲間達が必要です。

心配性の美緒さんが質問します。

「でもどうやって、私達は龍と一緒に旅をするの、その方法は、ましてや宇宙に飛び出すなんて・・・」

彼女の中では、急にいろんな事が起きてきたので十分に理解できていないようです。

葵さんを通して大天使ミカエル様が答えます。

「そんなに心配しなくてもきっとうまくいきます。

ただ練習は必要ですので、皆さんで集まって、龍と一体化して飛ぶ練習をしてください。

そしてもう一つ、今、龍治さんと大天使達で生み出している「エンジェル・レイ」というアチューメントは、皆さんがこの宇宙を自由に旅することを可能にするために作り出されるものですから、「エンジェル・レイ」のアチューメントを体験する事で、皆さんは天の川銀河の様々な星々に行く事が可能になります。」

この話を聞いて美緒さん達がびっくりしています。

実はこの「エンジェル・レイ」の事は誰にも話しをしていなかったのです。

のんびり屋の遥さんがいち早く反応します。

「龍治さん、本当ですか。

そんなすごいアチューメントが出来上がっているのですか、早くやってくださいよ。」

私達は新しいアチューメントができると、まずこの3人がそのエネルギーを受けとってそのエネルギーの質や効果を見極めながら、より良いものに作り替えていきます。

そして100人近くいるメンバー達にそのエネルギーを降ろして、みんなでアチューメントをし合うというシステムを「宇宙の光」は持っています。

これは、大天使や女神達のエネルギーを地上に降ろす事によって、地球の人々が癒され精神的に進化していく為におこなっている事なのです。

そして大天使や女神達は、自分のエネルギーを使って生み出されたアチューメントを受

けた人には物理世界で関わる事ができるようになりますので、大天使や女神達の守護を受ける事ができるようになるのです。

私は、大天使ミカエル様が教えてくれるまで、今作り上げている大天使達のアチューメントである「エンジェル・レイ」にそのような働きがあるとは知りませんでした。

私のなかで「エンジェル・レイ」の構想がさらに大きく膨らんでいきます。

その時、葵さんが仲間達に語りかけました。「遙さん、美緒さん、そんなに龍治さんを焦らせてもいいものは出来ませんよ。

それよりも、今私達にできる事をしっかり行って行きましょう。

まずは、私達4人がひとつになって龍と共に旅することができるようにすることです。

それも地球の中を移動していきましょう。

私達4人がしっかりできるようになったら、「宇宙の光」の他のメンバー達も一緒にトレーニングして1人でも多くの人達が、私達と一緒に旅をする事ができるようにしなくてははいけません。

大天使ミカエル様が言うように、これからの旅は何が起きるか分かりませんから、一緒に活動できる仲間達は1人でも多い方がいいわ。」

葵さんの言葉に他の仲間達もうなずいています。

私達は明日から、龍達と共に旅をする練習に入ることにしました。

PART4 龍達とのトレーニング

2日後の夜、私達はいつものように夜の10時にスカイプ会議を始めます。

私を除く3人はもうすでに集まっていて自分達で龍に乗る方法を考えているようです。

私が仲間に入ると、大天使ミカエル様もやってきます。

「さて、それでは龍と共に旅に出る練習を始めましょう。

大切な事は、自分の肉体や意識があなたの龍と一体化しているように想像することです。あなたの意識が龍の目を通して回りを見ているように想像してください。

そして仲間達を見失わないように。」

葵さん達は、大天使ミカエル様に言われたとおりにイメージしています。

私も自分の体と意識がスーと浮かび上がる様子を体感します。

美緒さんが、私に言います。

「龍治さん、私達がどこに行けばよいか教えてください。」

私はとっさに「富士山」と答えてしまいました。

別にどこでもよかったのですが、富士山という言葉が心の中に浮かんできたのです。

私達は目を閉じて龍と一体となって飛んでいきます。

私達の仲間はそれぞれ別々の場所に住んでいます。今、スカイプを通して話しをしていますので、心はひとつの場所にあるようです。

私達の仲間がそれぞれの色をした龍になって飛んでいるのが見えてきました。

美緒さんは深い青い色の龍、葵さんは少し赤みがかった龍、遥さんは柔らかいピンク色の龍です。

私の龍は力強い黒い色の龍のようです。

私達はお互いを見失わないように、注意深く飛んでいきます。

そしてやがて目の前に富士山の姿が見えてきました。

私達は、目を閉じたままお互いの事を感じながら、富士山の上でゆっくり旋回します。龍が通った後は白い気流のようなものが出ています。

そして私達は高度を下げ、富士山の近くを旋回します。

富士山にぶつからないように注意深く飛んで周りの様子を見ています。

雪に覆われた山肌やふもと近くの樹林なども視界に入ってきました。

私達は、この辺で戻る事にしました。

私が心の中で、もう戻りましょう、という私の心の中に「はい」という言葉が返ってきます。

私達は、スカイプ会議の場所に自分達を戻すと、龍の意識から離れ、自分の意識へと戻ってきます。

皆さん、大きく深呼吸しているようです。

美緒さんが、最初に口を開きます。

「私、迷子になっていなかった、大丈夫だった。」

遥さんが美緒さんをなだめるように言いました。

「美緒さん、大丈夫よ、みんな一緒にいたわ。」

美緒さんは安心したように言います。

「やってみれば、何とかなるもね、安心した。」
その言葉を聞いて、遥さんも葵さんも笑っています。

葵さんが、大天使ミカエル様に話しかけます。

「大天使ミカエル様、私達を指導してくださり大変ありがとうございます。

今のように龍と共に飛行する練習を「宇宙の光」のメンバー達と共に行いたいのですが、まだ慣れていない人も沢山いますが大丈夫でしょうか。」

「確かに、龍と共に飛ぶことに不安や恐怖を持つ人もいるでしょう。

そのような人はすぐには出来ないかもしれませんが、慣れてくればできるようになります。

「宇宙の光」のメンバーの多くが、皆さんと同様にこの地球と地球に生きる生命のために働くという事に同意して集まってきていますので、そのような人達は恐れや不安を感じるよりも喜びや楽しみを感じる事でしょう。

それに、私達がいつでも皆さんを守っているという事を忘れないでください。」

私達は大天使ミカエル様の言葉に安心感を覚えました。

私達「宇宙の光」は定期的に多くのメンバーさん達とスカイプで集い、祈りの会を行っていますので、いつも参加している人達に呼びかけて、龍と共に飛行する練習をすることにしました。

メンバー達にはすでに私のブログを通して、新しい「宇宙の光」の活動の事をお知らせし

ていますので、自分達も早く参加したいというメールが私の元に届き始めています。皆さん、期待に胸を膨らませているようです。

私達は、練習の日程を毎週土曜日の夜に行う事にしました。

仲間達の多くが会社員なので、土曜日が都合がよいのです。

また主婦の人も、何とか時間を合わせて参加してくれていますが、時間が合わない人は、昼間の時間帯に行う事になりました。

第 2 章 エンジェル・レイ

天使の星

PART1 「エンジェル・レイ」

私達は次第に自分のスピリットの一部である龍とひとつになって空を飛び、地球上のさまざまな場所に行く事ができるようになりました。

たとえばアメリカインディアンの聖地であるセドナや中南米のマヤの遺跡、もちろんエジプトのピラミッドなども、仲間と共に見に行きました。

その時は、私達の心の中に同じような映像が映し出されてきます。

そしてそのような場所に降り立ち、周りの遺跡やピラミッドを散策することもできるようになりました。

勿論、肉体をもってその場所に行っているわけではありませんから、私達の姿はその場所にいる人には見えませんし、私達もそこにある遺跡などに触ったりすることは出来ません。

まるで映画のように私達の心にその場所の様子が映し出されてくるのです。

その様な中、私は新しいアチューメントである「エンジェル・レイ」を完成させました。アチューメントとは、特定の女神や天使とアチューメントを受ける人を光によってつなぐことです。

そして、アチューメントを受ける人に対して大天使や女神の守護が受けられるようにしてあげます。

お互いが同じ場所においても、離れた場所においてもアチューメントを行う事ができます。

アチューメントは遠距離ヒーリングと言われることもありますが、大天使や女神にその方の守護や癒し、導きをお願いする事でその人に起こっている問題を解決し、より積極的に生きていく事を可能にします。

アチューメントを受けている時は、光が心の中に輝いている様子を感じたり幸福感に満たされたりします。

人によっては、天使や女神の姿が見えたり、メッセージを受け取ったりする事もあります。

私が行う時は、天使や女神からのメッセージを相手に伝えてあげる事もよくあります。

「宇宙の光」は、このようなアチューメントをいくつも生み出しています。

そして、お互いにアチューメントをしあうことで、お互いを癒し成長させるためのグループなのです。

アチューメントは、お互いが離れた場所においてもできるので、私達のメンバーは日本全国にいますし、海外に住んでいる日本人も参加しています。

今回生み出された「エンジェル・レイ」というアチューメントは、複数の大天使の光によってアチューメントを受ける人のエネルギーを高めることを目的に作られました。

また「エンジェル・レイ」では、その人に最も適した天使や守護天使の事も知る事ができるようになっています。

私は「エンジェル・レイ」の基本が出来上がったところで葵さんにこのアチューメントを受けてもらうことにしました。

このアチューメントがどのような働きがあるかを調べるためです。

もし、私達が求めている繋がりや効果がなければ、アチューメントで使用する祈りの言葉ややり方を変えなければなりません。

私は「エンジェル・レイ」を作ることに協力してくれている大天使ミカエル様やガブリエル様達にお願いして「エンジェル・レイ」のアチューメントを、スカイプを使用して葵さんに行います。

私と葵さんは、深く深呼吸して大天使のエネルギーとつながります。

そして、私は「エンジェル・レイ」の祈りの言葉をよみます。

「偉大なる大天使の皆さまよ。あなた方のすばらしい働きに感謝します。

大天使の神聖なる光は、私達の本質が天使であることに目覚めさせます。

大天使の神聖なる光は、私達を愛と勇気で満たし輝かせます。

大天使の神聖なる光は、私達に大天使達のすばらしき資質を与えます。

私達が、あなた方の守護を受け、いつまでも輝く天使でいられるようお守りください。」

エンジェル・レイ エンジェル・レイ

エンジェル・レイ

そして4大天使が私達のもとに現れ、私達を天使達の祝福の光に満たしてくれるようお願いしました。

そうすると思ってもいなかったことが起きました。

私達の目の前に白い光の渦が現れたのです。そして白い渦はやがて白いトンネルのような形になりました。

そして私達の龍も現れました。

大天使ミカエル様とガブリエル様が私達の左右に立ちます。

「龍治さん、葵さん、どうぞ龍とひとつになってこの白いトンネルの中に入ってください。」

私達は言われるままに、龍と一体になってそのトンネルの中に入っていました。

私達は、これから何が起きるのか、少しばかり不安でしたが、それ以上に新しい何かが始まるということに大きな期待を持っていました。

私達は龍と一体化してトンネルの中に入ると、トンネルの中にどんどん引き込まれていきます。

「私達、すごい速さで上昇しているみたいよ。回りは白い光に包まれて何も見えないけれど、すごい勢いで動いている感じがします。もしかしたら、私達、地球から出ていくんじゃないかしら。」と葵さんが言いました。

私も自分のエネルギーが光の中に吸い込まれていくような気がします。

大天使達は少し不安を持っている私達を勇気づけるように声をかけてくれます。

2分ほどたつと、私達を引っ張っている力が弱くなってきました。

トンネルの白い光の先が見えますが、真っ暗な感じです。

私達はポーンとトンネルの先に出ました。

そこは、何もない宇宙空間です。
私達は光のトンネルを通して宇宙を旅してきたようです。
さすがに私達は驚きました。
たとえ自分達の高次の意識が移動している
とはいえ、宇宙空間の中でも生きていると思
ったからです。

「龍治さん、葵さん、驚きましたか。
心配する事は一切ありません。
私達は皆さんを「天使の星」へとお連れした
のです。
目の前にある星をご覧ください。」

私達は龍とひとつになった意識で目の前を
見ると、白い靄（もや）に閉ざされた星が見
えてきました。
靄（もや）がずっと晴れてくると、美しい緑
色に輝く星が見えてきます。
もしかしたら地球と同じように植物が生え
ているのかもしれませんが。

大天使ミカエル様は私達をこの星へと導い
ていきます。
「この「天使の星」は、私達天使以外には見
えないように隠されています。
「エンジェル・レイ」のアチューメントはこ
の「天使の星」に皆さんをご案内するために
作られたのです。」

目の前の星がどんどん大きくなっていきま
す。
遠くから見ていた「天使の星」に降り立つよ
うです。
近づくにつれ豊かな森や海、川なども見えて
きました。
そして空からすーっと降りると、花が咲きほ
こる広い野原に降り立ちました。

私達がこの場所に降り立つと、葵さんが、周りの花々や遠くにある森などみて言いました。

「「天使の星」がこんなに素敵な場所だとは思いませんでした。

まるで地球の美しさをそのまま表現しているようですね。」

私も「エンジェル・レイ」のアチューメントを作る時に、大天使ミカエル様から「天使の星」の事は聞いていましたが、まさかこのような形で「天使の星」に来るとは思っていませんでした。

「皆さんが驚かれることも当然です。

この場所は、物理的な世界ではないので、本当は森や野原はないのですが、皆さんが「天使の星」になじめるように、このような姿を取っています。」と大天使ガブリエル様は言いました。

私も葵さんもおそらくこの星は、私達の中にある「美しい星」「天使がすんでいる天上界」というようなイメージを具体的に反映して作られているのだろーなと思いましたが、それはこれから連れてくるメンバー達には言わないでおこうと考えました。

大天使ガブリエル様は、野原の間の道を進みながら私達に言いました。

「「天使の星」には、天使以外の者達が入る事ができません。

しかしながら、皆さんはこれから天の川銀河のいくつもの星を回る事になると思います。そうなると地球や太陽系を担当している天使達だけでは力がおよばない事になります。

この「天使の星」は、天の川銀河のそれぞれの場所を担当している大天使達が集まっている場所です。

そして、私達を守護し導いている天の川銀河の大天使様たちがいらっしゃるのです。」

私は大天使ガブリエル様に言いました。

「皆さんのような大天使でも、他の天使の指導を受ける事があるのですか？」

「もちろんです。

私達はまだまだ未熟です。

私達は地球や太陽系を見守っていますが、太陽系が属する天の川銀河の一部を担当していらっしゃる大天使様もいらっしゃいますし、更にそのような大天使様を指導している天の川銀河を統括する大天使様もいます。更にその上には、いくつも銀河を統括する大天使様もいらっしゃるとも聞いております。私達が、お会いできるのは天の川銀河を統括する大天使様までです。」

大天使ガブリエル様は少し立ち止まって私達の先にあるきれいな教会のような建物を指さしました。

「龍治さん、葵さん、向こうに教会のような建物が見えますね。

あそこに天の川銀河で働くたくさんの大天使達や天の川銀河を統括する大天使様がいらっしゃいます。

今日は、皆さんをお迎えするために、様々な星から大天使達も集まっているようです。」

私達は少しばかり緊張しています。

うまくいかなかったらどうしようという気持ちが私に沸いてきます。

葵さんが私の様子を見て元気づけてくれます。

「龍治さん、大丈夫、今までいろんな事に出会ってきたけどうまくいかなかった事なんてなかったわ。

きっとどうにかなるから、胸を張っていきましょう。」

葵さんの言葉で、私も気を取り直して教会に向かう事ができました。

葵さんは、私にとっても頼りがいのある女性です。

PART2 大天使の長老様

私達は、教会の重たいドアを両手で押して教会の中にはいりました

最初は、教会の中には誰もいない様に見えていました。

私と葵さんは、恐る恐る教会の中に入っていました。

両サイドにはお祈り用の椅子が整然とならべてあります。

私達は椅子と椅子の間の通路をすすんでいきます。

そうすると次第に私達が歩んでいる通路を左右から取り囲んでいる人達の姿が見えてきました。

正確にいうと、それは人ではなく大天使なのですが、私達が通常見ている天使達の姿とはだいぶかけはなれているようです。

中には身体の上半身が人で下半身が馬の姿をしたケンタウルス型の天使もいます。

あるいは、ライオンの姿をした天使やどこか魚を思わせるような天使達もいます。

足元には小さなホビットの姿をした天使達もいて、楽しそうに走り回っています。

葵さんがその様子を見てたのしそうにしています。

「やはり宇宙にはいろんな天使さんがいるものね。

私達が見ている天使の姿は、私達の理想の姿だけど、他の星ではその星の人達の姿が基準になるから、異なる姿の天使さんがいても不思議ではないのね。」

確かにそうかもしれません。

地球で見る天使の姿は、人間を理想化したものですから、他の星の人達も自分達にとって理想的な天使の姿を思い描き、天使がそのイメージに合わせて自分達の姿を見せているのかもしれません。

私達が教会の通路を歩いていくと正面の祭壇の前に、ひときわ大きく威厳のある大天使様がたっています。

そして、彼の横には、光輝く数名の大天使達もたっています。

私は横を歩いている大天使ガブリエル様に「あの方はどなたですか。」と尋ねました。大天使ガブリエル様は身をかがめ、私の耳元で答えます。

「あの方が天の川銀河で最も位の高い大天使様です。

私達は、大天使の長老様とよんでいます。そして周りにいらっしゃる方達が、天の川銀河全体を統治している大天使ミカエル様やガブリエル様、ラファエル様、ウリエル様です。」

確かに、私達と行動を共にしている大天使達に比べても身体は大きく貫録もあります。

地球の大天使様も私達から見れば光輝いていますが、彼らはさらに大きな光に包まれています。

私達は、大天使の長老様の前にでると、丁寧にお辞儀をして言いました。

「大天使の長老様、私達を天使の星へお招きいただき大変有難うございました。

私達はこれから天の川銀河の星を回る旅にでる予定ですが、皆さんとお会いできたことは、私達の心の励みになります。」

大天使の長老様はにこやかに笑いながらいいました。

「龍治さん、そんなにかしこまらなくても大丈夫ですよ。

皆さんの事は、私達大天使だけでなく多くの人達が見守っています。

皆さんがこれから行う事は、皆さんが思っている以上に天の川銀河にとって重要な事です。

その為に私達天使達は、皆さんのお手伝いをする事になっています。」

葵さんも長老様の言葉を聞いて、長老様に感謝の言葉を述べています。

「それで長老様、私達はここで何をしたらよいのですか。」

長老様はその言葉を聞いて笑います。

「龍治さん、あなたはここにエンジェル・レイを受けにきたのではないですか。

エンジェル・レイを始めましょう。」

「最初のエンジェル・レイですから、4大天使から始めることにしましょう。」

長老様がそのように言うと、私と葵さんの周りを4人の大天使が取り囲みます。

天の川銀河をつかさどる大天使ミカエル様、大天使ラファエル様、大天使ガブリエル様、そして大天使ウリエル様です。

4人の大天使は、大きく羽を広げると、私達を包み込み、美しくて豊かな光（レイ）で私達を満たします。

大天使ミカエル様は青い色、大天使ラファエル様は澄み渡った緑、大天使ガブリエル様はオレンジがかった紫、そして大天使ウリエル様は柔らかい黄金色の光で私達を包み込みます。

私達のハートや身体のあるいくつものチャクラが光に応じて広がったり縮んだりしながら、大天使達の光を取り込んでいるようです。

葵さんも大天使達のエネルギーに包まれて気持ちよさそうに目を閉じています。

私達の身体がふわーと宙に浮く感じがします。

私達の身体の一つ一つの細胞が活性化して輝いている感じです。

身体の内側からまるで噴水の様にエネルギーがあふれてきます。

どこかで天使達の歌声も聞こえてくるようです。

私達は、大天使達のエンジェル・レイを受けながら眠っていたのかもしれません。

心も体もととてもリラックスして安らいでいるようです。

私は目を覚ますと大天使の皆さんにお礼をいいました。

「大天使の皆さん、そして長老様、本当にありがとうございました。

今、私と葵さんの中で何が起きたのですか、おしえてください。」

長老様はにこやかに笑うと応えてくれました。

「大天使達の光は、皆さんの心と体を癒します。

そして皆さんが自分の使命を果たそうとするとき、その使命に見合った能力やパワーが皆さんの中からひきだされてくるのです。

それを大天使の守護や導きととらえる人もいますが、本来はあなたが自分の使命や生きる目的に目覚める事であなたに必要な事が起きてくるようになるのです。

大天使達の光は、あなたの中に寝っていた意志を目覚めさせます。

それが、エンジェル・レイの働きなのです。」

葵さんが長老様の言葉にうなずいています。

「私達は、今新しい使命にむかって動き始めています。

その様な時に、皆さんの光を受け取る事が出来てとても良かったと思います。」

さすがに葵さんです。

長老様の話の要点をしっかりとつかんでいます。

私は、エンジェル・レイを受ける事で自分が苦勞せずに関わることの出来る事だと思っていたのですが、自分の考えが恥ずかしくなって言うのをやめました。

そんな私の心を見透かしたのか長老様が言います。

「人間には「欲」というものがあります。自分が楽して沢山のものを手に入れたいと願うのも欲です。

しかし、その欲によって人間は成長してきた部分もありますので、欲を持つことは決して悪い事ではありません。

でも、エンジェル・レイをうけると大天使達の意識と同調していきますから、自分にとって必要な欲とそうでない欲、地球や宇宙の人にとって必要な欲とそうでない欲が分かってくるようになります。

これから皆さんが学ばなければならない事は、まさにそのことなのです。」

横で葵さんが、「また、あなたは変な事を考えたのでしょうか。」というような顔をして私をいたずら盛りの子供を見るような目で見ています。

「それから、」と長老様が言葉を続けます。「これから、大事な仕事をしてもらおう皆さんには、とても大切な光を手渡してあります。それは天の川銀河を統治する大天使達の光です。

あなた方はこれから天の川銀河を駆け巡って様々な問題を解決していく事になります。もちろん困難な事や危険な事も起こります。その時に、天の川銀河の全ての大天使達が、あなた達の事を見守り、あなた達だけでは解決できないことが起きたら、サポートを行う事になっていますので、いつでも助けを求めてください。

大天使達は、あなたの内側から輝いている光を見ると、あなた方が天の川銀河の大天使達の仲間である事がすぐにわかります。」

私は長老様の言葉に涙を流しそうになりました。

葵さんが私に代わって長老様にお礼をいってくれました。

「そして最も大切な事は、あなたがこれから会ういくつもの星の人達と上手くコミュニケーションを取れるようにする事です。地球以外の星の人達には、あなたが使用している言葉は通じませんし、皆さんのテレパシー能力は未熟ですので、出会ってもお互いの意思を伝えあう事は困難です。これでは、あなた方は天の川銀河の問題を解決する事は出来ませんので、大天使ガブリエルが、あなた方と他の種族がコミュニケーションを取ることを助けましょう。

特にここにいらっしゃる葵さんを初め、あなたの仲間の女性達は、他の種族とのコミュニケーションを取る事が今まで以上に得意になると思います。

何しろ、葵さん達は過去の人生でもいくつもの種族たちとコミュニケーションを取るような仕事をしてきたので、今回の役目にはぴったりです。

そして龍治さんを十分に助けてあげることが出来るでしょう。」

葵さんは、長老様に言われたことがとても嬉しかったようです。

「長老様、ありがとうございます。私も、異なる星の人々や今までに見たことない種族の人達とどのようにコミュニケーションを取ればいいのか、内心悩んでおりました。

しかし、大天使ガブリエル様がそのお手伝いをして下さるならば何の心配もいりません。自分の直感に従って活動していきます。」

長老様は、葵さんの言葉がとても気に入ったようです。

自分が首にかけていた首飾りを外し、葵さんにかけてあげています。

「長老様さま、宜しいのですか。
本当にありがとうございます。」

「その首飾りは、大天使達の光をやどしています。

皆さんが危険に合いそうになったり騙され
そうになるとネガティブなエネルギーを探
知して光る様になっているのです。

皆さんのリーダーはお人好しで騙されやす
いので、あなたがそれを持って守ってあげて
ください。」

葵さんは、私を見てにっこり笑っています。
長老様は、どうも私よりも葵さんの事を気に
入ったようです。

すると長老様はすかさず私にいいました。
「今回の旅は、龍治君でなければできないこ
とです。

あなたがこれから出会う多くの仲間達と共
に仕事を成し遂げることで、あなた達だけで
なく仲間達も大きく成長していく事でしょ
う。

今回のエンジェル・レイは、あなたがその任
務に適した行動が出来るようにする事も大
切な目的でした。」

本当に人の心を読むのが上手な長老様です。
大天使達のリーダーですからそれも当然の
ことですよね。

「長老様、有難うございます。
これから、エンジェル・レイを仲間達に行く
事になっていますが、仲間達をここに連れて
きてもよいですか。」

「もちろんです。
1人でも多くの人にエンジェル・レイを施し、
この宇宙で役に立つメンバーに育て上げる
のも私達の役目です。」

私達は長老様と大天使達にお礼を言って地球に帰ることにしました。

教会の扉を開けて外に出ると、そこには私達のスピリットの1部である龍が待っていました。

しかし、その龍は今までの龍とはけた違いに大きくパワフルになっていました。

葵さんも自分の龍を見ておどろいています。

私は大天使ガブリエル様に、私達の龍にいったい何が起きたのか、聞きました。

大天使ガブリエル様はさも当然と言わんばかりの顔で答えます。

「エンジェル・レイは、皆さんだけでなく皆さんの魂やスピリットに対しても光を送ります。

そうする事で、魂やスピリットも目覚め、自分にとって必要な能力をめざめさせます。

龍はあなたのスピリットの一部ですから、あなたのスピリットが目覚めてパワフルになれば、当然龍もさらにパワフルになります。」

葵さんが大天使ガブリエル様にたずねます。

「この龍は今までの龍とはどこがかわったのですか。」

「龍はそれぞれのスピリットの力の象徴です。

葵さんの龍であれば、龍そのものが他の種族、ケンタウルス族やペガサス族などの種族とのコミュニケーション力が高まりますので、他の種族が持っている情報を共有して、あなたに知らせることができます。

また龍治さんの龍は、行動力や判断力、統率力などが高まっていますのでより多くの仲間達とのチーム活動を円滑に行います。

他にも、皆さんの活動に加わる龍達は、移動する能力が高まります。」

「それって、私達が地球を出て、天の川銀河の中を自由に移動できるという事ですよ。」大天使ガブリエル様はうなずいて「もちろんです。」と答えました。

「それから、もう一つ大切なことは、物を見つけたり、目的の場所に行くために必要な探查能力が大幅にアップしています。」

「そうしなければ、宇宙の中で迷子になってしまう、からでしょう。」葵さんの言葉に大天使ガブリエル様はうなずきます。

私達は、そろそろ地球に帰る事にしました。私達は、新しくパワーアップした龍と意識をひとつにします。

そして「地球へ！」と言葉をかけます。

すると来るときは白い光のトンネルを抜けて来たのに、新しくなった龍はトンネルなど必要とせずに、まるで光のスピードを身に着けた如く、私達をあっという間に地球に連れてきてくれました。

龍のスピードも大幅にパワーアップしたみたいです。

大天使ガブリエル様が、私達に言いました。「皆さんの龍は、本当に素晴らしいスピードで移動できるようになりました。

そして一度行った場所との間に光のラインを作りますので、より簡単にそしてスピーディに行くことができます。

皆さんの龍もうすでに地球という一つの星の中だけにとどまる龍ではありませんので、新たに神龍（シェンロン）と呼ばれた方がよいでしょう。

神龍（シェンロン）とは宇宙規模で働く龍族の事をあらわした名前です。

これからも、さらに規模の大きい働きをする神龍（シェンロン）と皆さんは出会う事になるでしょうから。」

PART3 再び天使の星へ 大天使との約束

私と葵さんが天使の星に行った話はすぐに美緒さんと遥さんに知られることになりました。

彼女達から、自分達も連れて行ってくれと矢のような催促のメールが届いたのです。

私達は、2日後にスカイプ会議を行って、美緒さんと遥さんを天使の星に連れて行く事にしました。

夜の10時、待ちきれないという美緒さんと遥さんの興奮が私にも伝わってきます。

「龍治さん、どうして葵さんばかりひいきにするんですか。

私達も一緒に連れて行ってくださいよ。」と遥さんが駄々をこねる子供のような声で言いました。

「そうですよ、私達も早く大天使様たちの光を受けたいですよ。」と美緒さんも言いました。

私が困っていると葵さんが仲裁に入ってくれました。

「みんなの気持ちはよくわかるけれど、最初のアチューメントは何が起こるか分からないから、とても危険なの、あなた達を危険な目に合わせるわけにはいかないでしょう。」

「そんなこと、分かっていますけど・・・」
と美緒さんが答えました。

「さあ、それでは龍治さん、「エンジェル・レイ」のアチューメントをお願いします。」
さすがに葵さんは人の心をよく知っています。

私達は深く深呼吸して心を一つにして「エンジェル・レイ」を始めました。

私が「エンジェル・レイ」の祈りの言葉をよむと、先日と同じように私達の前に白い光のトンネルが現れました。

そして大天使ミカエル様とガブリエル様も現れてくれました。

私達は自分の龍と意識を一つにします。

私と葵さんの龍はすでに神龍（シェンロン）になっていますので、遥さん達の龍よりもはるかに大きくなっています。

私達は、神龍（シェンロン）を先頭にして光のトンネルの中を進んでいきます。

やはり神龍（シェンロン）のパワーは通常の龍とは比べ物にならないくらい大きいようです。

遥さんと美緒さんの龍が神龍（シェンロン）に引っ張られるようにして進んでいきます。それも今までよりもはるかに速いスピードで。

「葵さんと龍治さんの神龍（シェンロン）すごいです

私達もどんどん引っ張っていかれちゃいます。」美緒さんが上機嫌で言いました。

私達は光のトンネルを抜けると、直接天使の星の野原へと降り立ちました。

そこには子供の天使達が数人、野原でお花を摘んだりして遊んでいます。

遥さんがその様子を見て声を挙げました。

「私達、本当に天使の星に来たんだ、わあ、かわいい天使さんがいっぱい。」

遥さんを見て、かわいいちびっこ天使達も大喜び。

きっと自分達の仲間が来たんだと思ったようです。

手に花をもって遥さんに近づき、花を差し出しています。

「え、私にくれるの、ありがとう。」と言って遥さんは花を受け取っています。

ちびっこ天使の1人が言いました。

「お姉ちゃんたちは、大天使様の教会に行くの、私達が連れて行ってあげる。」と言って遥さんや美緒さんの手を取って、野原の間の道を進んでいきます。

美緒さんも素敵なお出迎えにご機嫌のようです。

私達の時はこのようなお出迎えはなかったのになーと考えると、横から大天使ガブリエル様が、「これも皆さんをリラックスさせるためです。」とささやいてくれました。

教会につくと、さすがに遥さんも美緒さんも少しばかり緊張しているようです。

それは葵さんから、様々な姿をした大天使様たちがいることを聞いていたからでしょう。遥さんと美緒さんが教会の扉を開けます。私達が、教会の通路を歩き始めると、前回と同じように様々な姿をした大天使達が現れ始めました。

美緒さんは大天使の姿を見て「すごい！」という言葉は何度も口にしています。

私達は、大天使の長老様の前に立ちました。ここでは、新しく来た人が長老様にご挨拶することになっています。

遥さんが最初にあいさつの言葉を述べます。

「長老様、大天使の皆様、はじめまして遥です。

今日はどうかよろしくお願いします。」

続いて美緒さんもあいさつします。

「長老様、大天使の皆様、はじめまして美緒です。

今日はどうかよろしくお願いします。」

2人のぎこちない挨拶に大天使の皆さんも微笑んでいます。

長老様は2人を見てにこやかに言いました。

「あなた達が来ることを私達は待っていました。

あなた達も、龍治さんと共に、この天の川銀河で大切な仕事をするために地球に生まれてきたのです。

あなた達はかつて、私達大天使と共に働いていたこともありました。

皆さんのスピリットは、私達の事をよく知っていますし、私達も皆さんのスピリットの事をよく知っています。

あなた達が、再びここに来る事は、その時の約束だったのです。

私達は、その約束を果たす時が来たのです。」

長老様の思いがけない言葉に、遥さんや美緒さんだけでなく私達も驚かされました。

美緒さんが長老様に真剣な顔をして尋ねました。

「それはどんな約束だったのですか、教えてください。」

長老様は、はっはっはっと大きな声で笑うと語り始めました。

「私も今よりも若い頃、この天の川銀河が大きな危機を迎えた事がありました。

天の川銀河を統治する創造主の中にも、自己中心的な考え方をする創造主がいて、天の川銀河の他の創造主と対立してしまったのです。

自己中心的な考え方をする創造主に従う星の人々は、自分達が特別な存在だと思い込み、他の星の人々を従えようとしたのです。

そのために、いくつかの星で暴力的な行為を働きました。

本来創造主は平和を愛するものですから、幾人かの創造主は他の星の人々に対して侵略や抑圧的な行為をする星の人々を止めようとしてしました。

そして平和を愛する創造主の側に立つ星の人々は、暴力的な行為をうけている星の人達を守ろうとしたのです。

そのためにいくつかの星で争いが起きました。

大天使達も仲裁に入り、争いをやめさせようとしたのですが、すぐには解決しなかったのです。

あなた達は、その時平和を愛する創造主と共に働いていました。

それぞれの星は異なっていましたが、共に力を合わせて戦っていたのです。

争いが終わるまでには時間がかかりました。ようやく、暴力的な行為を行っていた星の人達は自分達の行為を改め、自分達の星に帰っていきました。

そして、自己中心的な考え方をする創造主も、その権限を制限されおとなしくなりました。

しかし問題は完全に終わったわけではないのです。

やはり自己中心的な創造主の考え方に同意して他の星々を支配したいと考えている星の人達はいつの時代にもいます。

皆さんは、その様な人によって天の川銀河に大きな危機が訪れた時、再び私達大天使と共に、天の川銀河の平和を守るために働くという約束をしたのです。

そして、今その時がやってきました。」

長老様の話を聞いて美緒さんや遥さんも啞然としています。

さすがに私も、私達にそのような過去があったことに驚きました。

しかし、その様な過去を私達が体験し、再び天の川銀河のために働くという約束をしたのであれば、私達に今起こっている事の理由が分かります。

そしてベガリタス様が、私達にメッセージをくれたときに、私達は天の川銀河の問題を解決するために生まれてきた、といった言葉の真意が分かります。

「長老様、私達はその約束を果たすために、この時代に生まれ、仲間として集ったのですね。

ベガリタス様が、私達を天の川銀河の問題を解決するために選んだのは、この約束があったから、ということでしょうか。」と私は言いました。

「もちろんです。

それは地球人がこれからも生き残るかどうか、ということは、この時期に起きた問題をこれから最終的に解決できるかどうか、という事にもかかっているのです。」

長老様は私達に向かって意味ありげに答えました。

「え、それはどういう事ですか。」と美緒さんが聞きました。

「今までの地球の様子を見てごらんなさい。力を持った人達が力を持たない人達を攻め、多くの人達が犠牲になって死んでいきました。

それが宗教的な理由であれ、国々を統治したいという思いであれ、もともになっているのは「自分は特別だ」という強いエゴです。そのために地球では多くの争いが行われました。

もし地球人の科学が発展して、地球人が宇宙に出るようになると、地球人のエゴの支配は宇宙レベルで広がっていきます。

そうなるとその当時に起きたことを再び繰り返してしまうことになるのです。

私達もスターピープル達も、そのことを懸念しているのです。」

「地球人はその当時の争いを作った星の人達と同じような事を行う可能性があるという事ですね。」葵さんが考え込みながら言いました。

「そのとおりです。

すでに天の川銀河にある多くの星が自己中心的なエゴの意識によって支配され、その星にすむ人達が他の星々に対して侵略的な行為を行っています。

その様な行為はある程度までは、人々に対して学びや成長を与えますが、限度を超えてしまうと天の川銀河全体のバランスを壊すこととなるのです。

地球もそうです。

今はまだ地球人は地球の外には出ていないので、地球の中だけの揉め事のように、皆さんは思っているかもしれません。

しかし、地球の自己中心的な波動は地球を超えていくつかの星にも影響を生み出し始めているのです。」

私達は、私達がこれから行おうとしている活動の本当の意味を長老様から聞かされたような気がしました。

それは、私達が考えているよりもさらに深刻で天の川銀河全体を視野に入れた話です。長老様の言葉を受け止めるにはもう少し時間がかかりそうです。

私達はその後、遥さんと美緒さんに、大天使達から直接「エンジェル・レイ」を行っていただけることになりました。

美緒さんも遥さんも、先ほどの長老様の言葉を忘れたかのようなはしゃぎぶりです。

彼女達が大天使達に囲まれると大きな光の渦が出来上がり、彼女達の体がふわりと浮かび上がりました。

光が彼女達を包んでいくと、体のチャクラや細胞の内側から光が輝き始めます。

そして、彼女達のエネルギーが周りに広がっていきます。

その様子を見ながら、私と葵さんは先ほどの長老様の言葉を思い返しています。

2人とも無言で自分達のこれからの事を考えているのです。

遥さんと美緒さんの「エンジェル・レイ」が終わりました。

勿論、彼女達のスピリットや魂がパワーアップした分、彼女達の龍も神龍（シェンロン）に生まれ変わりました。

美緒さんの神龍（シェンロン）は今まで以上に早く飛べるようになり力も強くなってとてもパワフルになっているようです。

遥さんの神龍（シェンロン）は今まで以上に優しく優雅になり、癒しの力や弱っている生命を活性化させるための特別な力が身についたようです。

2人は自分達の龍の変化に大喜びです。

私達は今夜の旅を終わり地球へと向かいます。

第3章 ペガサス騎士団との 出会い

PART 1 ペガサス騎士団との出会い

私と3人のメンバー達がスカイプ会議を行っている時に大天使ミカエル様の訪問を受けました。

大天使ミカエル様は、私達と一緒に来てもらいたい所があると言いました。

その言葉に最初に反応したのはやはり美緒さんです。

「今度はどこに連れて行ってくれるの、楽しみ。」

美緒さんは少しのんきなところがあってあまり先の事は考えていないようです。

大天使ミカエル様は笑いながら、言いました。

「とても楽しいところですよ。

あなた達を助けてくれる素敵な仲間達に会えるといいのですが。」

私達は、葵さんに促されて深呼吸をして神龍（シェンロン）とひとつになると気持ちを大天使ミカエル様に合わせます。

私達は地球の外に出たのは「天使の星」だけです。私達がどこに行くのか楽しみです。

私達は、大天使ミカエル様に導かれて神龍（シェンロン）と共に暗い宇宙の中をすすんでいきます。

どうやら大天使ミカエル様はペガサス座の方向に向かっているようです。

私達が、最初に着いたのは、ペガサス座の星ではなくその近くの空間のようです。

そこには美しい純白のペガサス達が数頭待っていました。

大天使ミカエル様は、私達に大切な話をしてくれました。

「龍治さん、そして皆さん、この宇宙は素晴らしいものですが、同時に多くの危険もあります。

特に皆さんは、自分の意識を神龍（シェンロン）に託して移動していますので、この宇宙の事はほとんど理解していません。

天の川銀河の決まり事やどのような星があってそこにすむ人達がどのような存在なのかも全く知りません。

そのために、皆さんを陰ながら守護する存在が必要です。

皆さんは重要な任務を持って活動していますので、天の川銀河でも、最も優秀なペガサス騎士団に皆さんを守って頂く事にしました。」

私の前に、一頭の大きな白いペガサスが現れます。

もちろん背中には美しく屈強な羽がついています。

「私は、ペガサス騎士団のアトスです。私のグループは、これから皆さんを守護する為に、皆さんと共に行動いたしますのでよろしくお願いします。」

私はこの話に驚きました。

「いえ、こちらこそよろしくお願いします。私達こそ、大天使ミカエル様が言うように、星々の事もこの宇宙の事も何も知らないのです。

ましてや、どのような危険性があるかなど、全く分かりません。

どうかよろしくお願いします。」

ペガサス騎士団のアトス様は、私を背中に乗せて、ペガサス騎士団の聖地があるシェアト星へ案内してくれました。

勿論3人の女性達もそれぞれペガサスの背中に乗せてもらい夢心地です。

特に遥さんはペガサスやユニコーンが大好きなので、ペガサスに乗れて嬉しいようです。

私達が最初に連れてこられた場所は、ペガサス座のシェアト星です。

シェアト星は美しい草原が広がる星で、たくさんの若いペガサス達が、空を飛んだり大地を駆け巡っています。

遥さんはその様子を見ると懐かしいのか涙を流しています。

横にいた美緒さんが遥さんをからかって言います。

「遥さん、素敵なペガサスを見つけて、私、もうここから帰らない、なんて言わないでね。」

すると遥さんは「私、本当にこの星から帰りたくないわ、この星にずっといるわ。」と言いました。

その言葉を聞いて美緒さんが慌てています。

「ちょっと、何言ってるの遥さん、一緒に帰ろうよ。」

葵さんが2人を見て「アトス様が困っているから静かにしなさい。」とたしなめています。

ペガサス騎士団のリーダーであるアトス様も美緒さんたちの会話を聞きながら笑っています。

「皆さん、ここはペガサス騎士団に入った若者達が教育を受ける星です。

ペガサス騎士団は、この星を神聖な星と呼んでいます。

私達の「契りの泉」と呼ばれる場所にご案内しましょう。」

葵さんが「宜しくお願いします。」とにっこりと笑って答えました。

ペガサス騎士団のペガサス達は、私達を背中に乗せたまま、小高い山の木々の間をくぐり抜け、小さな泉へと着きました。

泉の中央には、大きなクリスタルが大地から突き出し、その周りから、どんどん水が沸き起こっています。

このクリスタルによって泉の水が清められて、とても神聖でパワフルな波動に満ちています。

葵さんはクリスタルを見ながら深呼吸しています。

「ここの泉の水はとてもきれいで純粋な光のエネルギーをたたえているわ。

本当に素晴らしい泉ね。」

美緒さんも遥さんも深呼吸して泉のエネルギーを感じ取っているようです。

「さあ、皆さんもこの泉に入ってください。」とアトス様が言いました。

その言葉を聞いて遥さんが恐る恐る聞きました。

「あの洋服は着たままでいいですか？」

アトス様がにこやかに笑いながら「もちろんです。実際にぬれるわけではないので、」と答えました。

確かに、私達は、自分達の高次の意識でここにきていますから、私達が来ている物はぬれるような感覚はあっても実際濡れるわけではないようです。

私達が泉の中に入ると、胸のあたりまで水の中に沈みます。

特に体が小さな遥さんは、葵さんにしがみつきながら入っているようです。

ペガサス達にしてみれば、足の付け根あたりまでの深さですが、私達は小さいので、胸のあたりまで水につかります。

ペガサス騎士団のアトス様は、自分の羽で器用に水をすくい、私達の体にやさしく水をかけてくれます。

「この水は、私達ペガサス騎士団にとっては、神聖な水です。

私達が恐れを捨てて正義のために戦う事が出来るように、私達に勇気とパワーをくれるのです。

あなた達はこれから、地球と天の川銀河のために働く事になるでしょう。

あなた達は、私達も及ばないくらいに素晴らしい勇気とパワーを持っています。

どうかその勇気とパワーを目覚めさせてください。」

ペガサス騎士団のアトス様は、祈りの言葉を唱えながら何度も何度も、私達の体に水をかけます。

そして周りにいるペガサス達も何か歌のようなものを歌っているようです。

すると、私達の心から力強いパワーが次第に生まれてきます。

「アトス様、本当にありがとうございます。私は1人の地球人ですが、皆さんと共に活動できる事を心から喜びとしております。そして、私は今、大きな自信と勇気を感じています。」

ペガサス騎士団のアトス様と私達の「神聖なる契り」は終了したようです。

私達にとって最初の騎士団となるペガサス騎士団は、これから私達を守護し、私達の活動の助けとなってくれる事になりました。私も、困った事があればすぐにアトス様に相談する事ができます。

私達が、天の川銀河の星々を回る時期も近づいてきているようです。大切な仲間を見つける事ができました。

ペガサス座のいくつかの星を見て回った後、私達は、神龍（シェンロン）と共に地球へと戻ってきました。

それからというもの、私達の目の前にペガサス騎士団がはっきりと姿を現すことが無くても、私達はペガサス騎士団と共にいるという安心感に包まれています。

私達は、神龍（シェンロン）と共に地球を出て、ペガサス座やプレアデイス星団、ベガ星などにも行けるようになりました。

そのような時は、必ずペガサス騎士団が、私達の前に姿を現して、私達を先導してくれます。

他の星の人達にすれば、私達のような地球人の姿を見ることは初めてのようですが、ペガサス騎士団が私達を先導してくれることで、いくつもの星の人達と友好的に交流することもできるようになりました。

私達は少しずつ地球以外の星にも慣れてきて、地球人とは異なる生活様式を持っている星々やそこにすむ人達の生活や文化を見ることができるようになってきたのです。

第4章 ギアの神殿

PART1 女神ガイア様の嘆き

私達は、久しぶりに富士山に行ってみることにしました。

誰かが私達を呼んでいるような気がしたからです。

私は、いつもの3人のメンバー達に声をかけ、富士山の周りをまわっています。

すると富士山の山頂に明るく輝く光が見えています。

その光を遥さんが見つけました。

「ねえ、富士山の山頂に不思議な光が輝いているのが見えませんか。

私達を呼んでいるような気がするの。」

私達は、富士山の山頂にある光のもとに集まりました。

するとその光は富士山の火口から、富士山の中へと沈んでいきます。

私達は一瞬ためらいましたが、神龍（シェンロン）と共に火口の中へと入って行きました。

すると私達の体は、火口の中にどんどんと吸い込まれていくのです。

まるで神龍（シェンロン）と共に深い穴の中に落ちていくような感覚です。

私達は深い闇の中を落ち続けました。

でも不思議に恐怖感は出てきません。

大天使達によって守られているという安心感が私達を守っていたのです。

しばらく落ち続けていると、やがてほのかに明るい場所が見えてきました。

最初にたどり着いたのは、葵さんです。
葵さんは、神龍（シェンロン）の体のままその場所に入ると、しばらくの間、心を澄ませてこの場所がどのような場所か調べているようです。

そして、私達にとって危険なエネルギーがないかを感じています。

しばらくすると、葵さんから、ここは大丈夫、というメッセージが届きました。

葵さんは、その場所の気配や初めて会う人の様子を調べる事ができる特殊な能力を持っているので、見知らぬ場所に降り立つ時は、葵さんの直観力が役に立ちます。

私達は、ほのかな明かりに照らされた場所に降り立つと神龍（シェンロン）の意識のまま周りを見渡していました。

安全とは思えても、やはり用心しておかなければなりません。

その時、遥さんが誰かの声をきいたようです。
「私には聞こえるわ、
この声は地球の意識とひとつになった声、
私達を優しく包み込むような声、
この声は、地球の意識そのものじゃないかしら。」

「それって、地球の女神ガイア様の意識じゃないの。」

美緒さんもつぶやきます。

私達は、神龍（シェンロン）の意識から自分の意識へと戻りました。

そしてこのほの明るい場所を見わたしています。

すると葵さんが女性のエネルギーを感じ取ったようです。

「やはり女神ガイア様の意識のようね。
女神ガイア様、どうか私達の前に姿を現してください。」

葵さんが祈り始めると美緒さんも遥さんも一緒に祈り始めました。

すると私達の前に、1人の女神の姿が映し出されてきます。

地球の大地にしっかりと根ざした力強いエネルギーは、地球の意識をつかさどる女神ガイア様に他なりません。

地球の意識である女神ガイア様は、私達にとっては親しい存在です。

2年ほど前に、私達は女神ガイア様のエネルギーによって人々を癒すためのヒーリングを作り上げ実践してきましたので、女神ガイア様の意識ともすぐに同調できるはずです。

葵さんが、女神ガイア様の意識とひとつになっていきます。

葵さんの声を使って、女神ガイア様が私達に語りかけてきます。

「私はガイアです。
皆さんがこの場所に来ていただけた事を心から待ち望んでおりました。
この場所は、私の意識が宿る「ガイアの神殿」です。
皆さんが、大天使やいくつもの星のスターピープル達と共に新たな活動に入られると聞いて私も嬉しく思います。」

私は、女神ガイア様に敬意を表して語ります。
「女神ガイア様、あなたの神殿にお招きくださって本当にありがとうございます。
でもこの神殿は思ったよりも暗く、あなたもとても孤独なように私には感じられます。」

女神ガイア様は少し困ったような表情をしました。

「確かにそうです。

私は本来地球の意識と地球に生きる生命達、特に人々の意識をつなぐために存在しています。

地球の意識と皆さんの意識が通じ合う事により、地球の意識も、皆さんの意識もさらに高まり豊かになっていくのです。

皆さんのように、私の事を理解して、私と繋がってくださる方もいらっしゃるのですが、多くの地球人は、地球の意識などには見向きもしないで自分の利益のためだけに生きています。

中には、皆さんにとって母親同然である地球の自然を破壊し、地球の子供達である動物や植物を傷つけてしまう人達もたくさんいるのです。

そのために、私の力が弱まってしまい、この神殿も暗いものになってしまったのです。」

女神ガイア様の言葉を聞いて、遥さんが涙を流しています。

遥さんは地球や地球に生きる動植物との共感力が人一倍強い女性なので、女神ガイア様の気持ちが痛いほどわかるようです。

「それは、人間が地球や地球に生きる多くの生命を大切にしないで、自分勝手に生きてきた事が原因なのですね。」と遥かさんは言いました。

「そうです、動物や植物たちの種族が理不尽な理由で絶滅するたびに、私の体は切り裂かれるような痛みが走ります。

自然が破壊され汚染されるたびに、私の体は力を失ってしまいます。

私はもう傷つきすぎてしまいました。

その様な状態を大天使様や創造主の皆様がご覧になられて、地球の人々がこれ以上地球を傷つけないように対処しなければならないと、私におっしゃいました。

今のままでは、地球も地球の生命もやがて滅んでしまうだろうと・・・」

私は、先日ベガリタス様が、地球の人類がこのまま生き残ってしまえば、地球のみならず天の川銀河にも悪い影響を及ぼすだろう、といった意味がはっきりと分かった気がします。

私は女神ガイア様に言いました。

「私達人類は、今まで地球と地球に生きる多くの生命達にたいして取り返しのつかない事をたくさんしてきました。

先日、私の前に現れたスターピープルもその事を深く悲しんでいました。

そして、地球人が天の川銀河のために役に立たなければ、人類が滅び去る事は仕方がないと言われたのです。」

女神ガイア様は弱弱しくうなずきました。

「しかし、スターピープルや大天使の皆さんは、私達が天の川銀河のいくつもの問題を解決して天の川銀河にとって役に立つ存在である事を証明できたならば、地球の人類が生き延びる事ができるようにお手伝いしますと言われました。

そのために、私達はいまトレーニングを行っています。」

「もちろん、私もそのお話しは伺っております。

そして、私も皆さんのお役にたてるように協力する事になっているのです。」

ガイア様の言葉を聞いて美緒さんが言いました。

「だから、私達をこのガイア様の神殿に呼んだのですね。

私達はここで何をしたらいいのですか。」

女神ガイア様もにっこりと笑って答えました。

「このガイアの神殿は、皆さん達がこれから活躍していくための基地となるのです。

これから多くの宇宙の仲間達が、皆さんを応援するために地球にやってきます。

そのとき、彼らが尋ねてくる場所がなければ不便なので、しばらくの間、このガイアの神殿を皆さんの活動する基地としてお使いください。

私も、地球を愛する人達がこのガイアの神殿に集ってくださる事はとても嬉しい事です。皆さんの愛の力でこのガイアの神殿も復興していく事でしょう。」

私達はその言葉を聞いてとても嬉しく思いました。

私達の活動を助けてくれる仲間達が増えたのです。

PART2 ガイアの神殿の祈り

私達は、「宇宙の光」の仲間達と2日後にガイアの神殿を尋ねました。

仲間達も次々と予期せぬ事が起こるので週に1回のスカイプ会議が待ちきれなくて週に2度3度行うようになっていました。

この頃にはすでに「宇宙の光」の活動によく参加しているメンバー達の多くが自由に神

龍（シェンロン）を操り飛べるようになっていました。

今日は「宇宙の光」の正式なスカイプ会議です。

この時はいつものメンバー以外にもたくさんの仲間達が集い、スカイプを使って中心メンバーと共に行動します。

中にはまだうまく意識を合わせられない人もいますが、その様な人も私達の会話やビジョンの様子を聞いているうちに少しずつ同じビジョンが見えてきたりします。

今回は30名近くのメンバーでガイアの神殿に向かいます。

30頭の神龍（シェンロン）が一斉に飛び立ち、富士山の火口からガイアの神殿に向かいます。

ガイアの神殿は前回来た時よりも明るくそして広くなっている感じがします。

中央では女神ガイア様が嬉しそうに、私達が来るのを待っています。

たくさんの神龍（シェンロン）がガイアの神殿に降り立ちました。

もともと神龍（シェンロン）は、大地や自然を守る存在ですので、女神ガイア様も神龍（シェンロン）達を自分の子供のように愛しています。

そして神龍（シェンロン）達もガイアの神殿ではゆっくりとくつろいでいるようです。

ガイア様の神殿も神龍（シェンロン）達のエネルギーによってさらに輝き始めました。

私は女神ガイア様に一つの提案をしました。

「女神ガイア様、私はあなたにお願いがあります。

私達は、この神殿であなたと共に、地球の意識と人々の意識が深く繋がり、地球に安らぎが訪れるように祈りたいのです。」

女神ガイア様は私の言葉を聞く前にすでに私の意思を感じ取っているようです。

「あなたの願いは私の願いでもあります。私こそよろしくお願いします。」

私達はいつものように祈り始めました。私が最初の祈りの言葉をよみ、メンバー達がその言葉を繰り返します。そして、その後、メンバー達は自由に自分の思いと言葉で祈るのです。

私は祈りの言葉をよみ始めます。

「偉大なる地球よ、偉大なる女神ガイア様よ、私達に多くの愛と癒しをお与えください。私達が皆さんの意識とひとつになって生きていく事ができるようにお導きください。」

メンバー達も私の言葉を繰り返し祈り始めました。

30名近くのメンバー達の祈りが、ガイアの神殿を光で満たしていきます。

女神ガイア様の姿が一段と明るく輝き、地球の優しいエネルギーが私達を包みます。

私達はしばらく祈りを捧げ、女神ガイア様の優しいエネルギーを受け取っていました。

祈りが終わると、私は女神ガイア様に、今日は何をすべきか尋ねました。

女神ガイア様はにっこりと笑って答えました。

「龍治さん達にお願いがあります。

それは、私の仲間であるさそり座の騎士団を迎えに行ってほしいのです。」

私は女神ガイア様の思いがけない言葉に驚きました。

「さそり座の騎士団ですか。」
葵さん達もきょとんとした顔をしています。
さそり座に騎士団があることに驚いているのです。
しかも サソリというと猛毒を持った恐ろしい虫というイメージがあり、美緒さんは怖そうな顔をしています。

女神ガイア様が笑って答えます。

「彼らは、さそり座の騎士団と言ってもサソリではありませんので皆さんを刺すことはありません。

彼らは非常に優秀な騎士団ですから、皆さんの活動にもお役にたつはずですよ。

それに騎士団というのはただ戦うための存在ではないのです。

騎士団のもっとも大切な役目は平和を守る事、争いのない世界を作る事が騎士団の目的です。

でもこの宇宙には、様々な考えを持った人達がいいます。

その様な人達から皆さんを守るのも騎士団の役目ですし、皆さんの活動を助けるのも騎士団の役目です。」

私達は女神ガイア様の言葉にうなずき、さそり座の騎士団を探し求める旅に出ることにしました。

第5章 さそり座の仲間達

PART 1 さそり座騎士団の儀式

私達は、さそり座の騎士団を探し求めて、さそり座まで旅立つ事にしました。

旅立ちにあたって、ガイア様に頼んで、さそり座までの光の通路を作ってくださいました。

私達は、ペガサス騎士団を護衛につけ、仲間達と共に神龍（シェンロン）となって旅立ちます。

女神ガイア様が作ってくれた光の道はさそり座のアンタレス星へと向かっています。アンタレス星はさそり座でも最も明るい中心的な星です。

霧の中を駆け抜けるようにして、アンタレス星に到着すると、ここは風吹きすさぶ荒野です。

このような場所に騎士団がいるのだろうか
と私達はきょろきょろと回りを見渡していました。

するとペガサス騎士団のアトス様が、こちらですと上空の1点を見つめながら言いました。

そこには霧に隠されるようにして大きな扉が存在しています。

アトス様は、羽を大きく羽ばたかせて飛び上がります。

そして扉の前に立ち、扉に羽を当ててなにか言っています。

すると大きな扉が音もなく開きました。

私達も神龍（シェンロン）を飛び立たせ扉の中に入ります。

すると扉の奥には立派なお城が見えてきます。

そのお城を見て、遥さんがワクワクしています。

「あのお城には誰がいるのかしら、プリンセスかしら、王様かしら。」

まるでディズニー映画を見ている子供のようです。

葵さんが遥さんに言っています。

「私達はさそり座の騎士団を探しに来たのよ、あなたの夢の話はまた今度ね。」

私達がお城に向かって進むと、城の前には、西洋風の重厚な鎧を身にまとった騎士団が勢ぞろいしていました。

赤い鎧をまとった騎士団は統制がとれ、しっかりとした武力を持った騎士団のようです。それも嬉しいことに、私達と同じ人間の姿をしています。

しかも後ろには、巨大な赤い龍がいて、この騎士団を守っています。

私とアトス様は、赤い鎧を身にまとった騎士団の前に立ちました。

すると騎士団の中から、1人の屈強そうな騎士が私達の前に歩み出しました。

「私はアンタレス騎士団の団長であるアトラスです。

皆さんがいらっしゃる事は地球にいらっしゃる女神ガイア様からお聞きしております。私達も皆さんとお会いできることを心から楽しみにしておりました。」

「私達は女神ガイア様の指示でさそり座の騎士団の方々を探しに来ました。

皆さんが、私達のお手伝いをしてくださると女神ガイア様からお聞きしたからです。私達はこの宇宙の事を全く知りません。皆さんのような素晴らしい方達と共に活動できるならば大変助かります。どうかよろしくお願いします。」と私は言いました。

「わかりました。私達もあなた方と共に働くことを願っております。しかし、その前にひとつ行って頂きたいことがあります。」私は一瞬、何が起きるのだろうかと不安に思いました。

この宇宙では様々な考え方をする人達がいると聞いているからです。もしかしたら、自分と戦って、自分に勝ったら仲間になる、とか言うんじゃないだろうか、でも到底私に勝ち目はないし・・・と考えていました。

私の不安な気持ちに気付いたのか、アトラス様がきっぱりとした声で言いました。

「龍治さん、心配はご無用です。私達は戦う必要はありません。私達は、あなたに歴代の騎士達の魂が眠る「聖なるアトラス」に一緒に行ってもらいたいのです。そして、私達と共に働くことを騎士達の魂に認めてもらいたいのです。」

私は安心して共にいく事をアトラス様に伝えました。その時、葵さんの言葉が胸に飛び込んできました。「龍治さん、あまり変な事考えないでください。」

彼らは平和を愛する騎士団ですから、力比べなんて子供がすることだと思っています。ここは地球ではないので、私達が考える事は、彼らにはすべてお見通しなんですよ。」

本当にそうです。

私は心の中で小さく「ごめん。」と答えました。

神龍（シェンロン）とひとつになって旅をする事で、私達の中にもテレパシー能力が育ってきたようです。

私達は中心メンバーの4人が神龍（シェンロン）とひとつになって、アトラス様が乗る赤い龍の後を追います。

ペガサス騎士団のアトス様も同行してくれます。

アトス様とアトラス様は昔からの友人のようです。

一緒に飛びながらテレパシーで話しをしているようです。

アトラス様の龍が高くそびえる山に向かって進んでいきます。

私達が降り立った場所は、その山頂近くの開けた場所です。

神龍（シェンロン）達は、山の上空に待機したまま、私達の意識がスーと山頂に降りていきます。

そこには大きな石がいくつも立っています。よく見ると、中心に立っている大きな水晶のような石を取り囲むように並んでいます。

アトラス様は、私達にその中心にある石の周りに立つように言いました。

アトス様は、石組みの外で私達の様子を見守っています。

アトラス様は跪き、赤い鎧を脱ぐと、手にした小枝の葉に火をつけ煙で石の周りをあぶっています。

私達も跪き、手を合わせて祈ります。

鎧を脱いだアトラス様は、筋肉質の赤黒い肌をしています。

ところどころに刺青のようなものが描かれているのが見えます。

彼が祈りを捧げる姿は、まるでアメリカインディアンのシャーマンのように見えます。

アトラス様が、私達とこの場所に眠る騎士達の魂に語りかけています。

「偉大なるアンタレスの騎士達よ、私達は皆さんの偉大なる働きを称賛し、あなたの子や孫にその偉業を伝えましょう。そして皆さんの魂に永遠の安らぎが宿るように祈ります。

私は、皆さんの魂を受け継ぐアトラスとして皆さんにお願いします。

今、ここに集った地球の者達は、私達の女神であるガイア様の使いです。

彼らは、これから天の川銀河のために働くことを誓い、私達と共に働くことを願っています。

私達も、それがガイア様の意思であれば、その定めに従いと思います。

私はアトラスとして、皆さんの許しを頂きたいと思います。」

アトラス様は目を閉じ祈っているようです。その時、アトラス様が持っていた小枝がパチパチと大きく音を立てて燃え上がりました。

「偉大なる騎士の魂よ、許しを頂きありがとうございます。

それでは、この者達と契りをかわしますので、皆さんのご加護をお願い致します。」

アトラス様は立ちあがると、私達の後ろに回り、私達の頭や体に小枝から出る煙をあてています。

まるでアメリカインディアンがホワイセージの煙で自分達の体を清める様子と同じです。

アトラス様は、私達に煙をあてながら祈りの言葉を捧げているようです。

彼らの言葉ですので私達には理解ができませんが、私達の安全と魂の使命を果たす勇気を願っているようです。

アトラス様の儀式が終わったようです。

アトラス様は、私達1人1人の手を取って立ちあがらせます。

「皆さん、本当にこの地に来てくださりありがとうございます。

わが魂の先祖達も皆さんをこの地に迎える事ができたことを心から喜んでおります。これで私達は神聖なる兄弟として共に見守り、共に助け合って働くことができるようになりました。」

「私達も皆さんの尊いお力を体の中に感じています。

どうかよろしくお願いします」と答えました。葵さんが横で感心したような表情で「深いわね。」と言つぶやきました。

PART 2 さそり座の仲間達－アクラブ星のシャーマン

私達はここで少し休憩をして周りの山々を見渡しています。

そこにアトラス様がやってきて私に言いました。

「ガイア様は、私達騎士団だけでなく他の者の事は何もおっしゃってはいませんでしたか。」

「いいえ、特には。」と私は答えました。
「そうでしたか、おそらくガイア様がおよびになりたいのは私達だけでなく他の仲間達も一緒に連れてくるように考えられているはずです。

私達は、共にガイア様のために働いてきた仲間ですので・・・」

私はアトラス様が何を言おうとしているのかわかりませんでした。が、「それはアトラス様にお任せします。」と私は答えました。
アトラス様は、山の頂に立つとテレパシーで仲間達に連絡を取っているようです。
私達はその姿を見ながら、私達もやがてこのような能力を授かるのだろうか、漠然と考えています。

アトラス様が、私達のもとに戻ると言いました。

「さあ、仲間達を迎えに来きましょう。彼らも、私達と一緒に行くようです。」

私達は神龍（シェンロン）の意識とひとつになってアトラス様の赤い龍の後を追って宇宙に出ました。
葵さん達はこれからどのような場所に行くのだろうか、と興奮しています。

最初に降り立った星は、さそり座の頭部にあるアクラブ星です。
この星は地球に似た自然豊かな星の様です。

私達は、ヤシの木によく似た木々が生い茂る中を歩いていくと、美しい海が広がる場所にたどり着きました。

そしてそこにはヤシの葉で編んだ屋根を持つ素朴の家が数件立っています。

どこからか太鼓の音と祈りを捧げる歌声が聞こえてきます。

私達が家の間を抜けていくと広場のような場所で20人ほどの男性達が太鼓を叩き歌っています。

そしてその音に合わせて女性達がゆったりと踊っています。

男性達は上半身裸で首飾りを身に着けています。

太鼓を叩く音に合わせて、彼らが後ろに束ねた髪も揺れ動いています。

男性達は目を閉じ、いくつもの音が作り出す響きに陶醉しているようです。

女性達は、白やベージュのゆったりとした服を着て踊っています。

手首や足首には貝殻で作った腕輪のような物を巻き、首にも貝殻や木の実で作った大きな首飾りをしています。

彼女達がゆっくりと手足を動かし踊るたびに、心地よい風が沸き起こり、彼女達の服と髪を揺らします。

美緒さんが、「私こんな世界大好きと言いました。」

今度は遥さんが美緒さんに「美緒さんは、この世界がお似合いだからずっといたら。」と言って笑っています。

私達は、彼らが歌い踊り終わるまでずっとその光景を見ていました。

太陽が優しく降り注ぎ、波が浜辺に押し寄せるリズムに、私達は心を奪われていました。しばらくして歌と踊りがやむと、アトラス様が最も年老いていると思われる方のもとに近づき、片膝をついてお辞儀をしています。

その方は、私達のほうを見ると頷いてアトラス様に答えました。

「ようやくその時が来たようですね。

これも天の定めです。

私達も喜んでご同行いたしましょう。

私はこの年なので十分に働けませんので私の息子達があなたと共にいく事にしましょう。

すぐに準備をさせますので、しばらくお待ちください。」

2人の会話を見守っていた男性達が数名、自分の家に戻り準備を始めました。

その間に私達はこの星の事について先ほどの長老様のような方から話しを聞きました。

「私達は、常にこの星の意識とひとつになって祈りを捧げています。

それは私達の星だけでなく、さそり座の仲間の星達やその星に生きる人々が安らかに生活できるように祈っています。

私達の体に様々な刺青のような絵が描かれています。

これは、私達が自然の力と同調することで、ある程度自然の力をコントロールすることができるように描かれているのです。」

美緒さんが長老様に言いました。

「地球にも、皆さんと同じように自然の力とひとつになって祈りを捧げる人達がいいます。私達は、その方達をシャーマンと呼んでいます。」

「そうですか、シャーマンと呼ばれているのですね。」と長老様はにっこりと笑いました。

「私達は、はるか以前、ガイア様と共に多くの者達が地球にわたったのです。

私達やアトラス様達のグループだけでなく魔法使いやホビット達も地球を素晴らしい星にする事を願い、ガイア様のお手伝いをするために地球へ行きました。

それは、私達の遥か昔の先祖です。

その様な方達が、子孫から子孫へと私達の思いをつないでくださり、今でも地球で活躍してくださっている事はとても嬉しい事です。」

「地球にいるシャーマン達は、もともと地球にやってきた皆さんの先祖から生まれたという事ですか。」美緒さんが驚いたような顔をして言いました。

「すべてのシャーマンがそうではないかもしれませんが、少なからず私達と同じ血をひくもの達がいるはずです。」

確かにこの村で行っている事を見れば、地球のシャーマンたちも同じ子孫だと思わずにはいられません。

地球のいくつかの地域では一昔前まではここと同じような光景を持つ場所がいくつもあったことでしょう。

「私達だけでなく、共に地球に行った魔法使いやホビット達もたくさんいました。

彼らの子孫はまだ生きているのでしょうか。」と長老様は私達に尋ねました。

遥さんが長老様を慰めるようにいました。

「長老様、ホビットの皆さんもたくさん地球に残っていますよ。」

地球にすむ人間達の分からない所で活躍していますし、魔法使いの人達が持っていた知恵や能力を多くの人達が伝承しています。」

長老様は安心したような表情を見せました。葵さんが長老様に尋ねました。

「長老様、ガイア様と一緒に地球に行かれた仲間達は、さそり座に戻ってくることは出来なかったのですか。」

長老様は悲しげにうなずきました。

「はるか以前は、私達の星と地球は自由に行き来ができたと聞いています。

いえ、地球だけでなく多くの星々が交流し合っていて、それぞれの星の人達がお互いの星を尋ねることもできていたと聞いています。しかし、ある時を境にしてそれができなくなり、地球に行った仲間達も、そしてガイア様もさそり座に戻ってくる事ができなくなったのです。」

私達は、そのような事を全く知りませんでしたので長老様の言葉に驚きました。

「その時に何が起きたのですか。」私は尋ねました。

「それは、私が生まれるはるか以前の事ですので、私も詳しくは知りませんが、天の川銀河の多くの星が闇にのまれて次元が落ちてしまったので、お互いが交流できないようにされてしまったと聞いております。

そして、いつの日か、そのことを解決し、再び天の川銀河の星々が自由に交流する事ができるように勇者の方が現れると聞いております。

それが、皆さんの事がどうか、私には分かりませんが、女神ガイア様が私達を迎えにきたという事は、その時のために私達も動き始めなければならない時が来たという事なのです。」

その時、長老様の息子達が、準備ができた事を伝えに来ました。

おそらく彼らの中では、自分達がここを離れたら、もう戻ってこれないかもしれない、という不安があるかもしれません。

愛する妻や子供達に別れを告げてきた者もいるかもしれません。

私達は自分達が行おうとしている事の責任の重さに沈みそうになりました。

アトラス様は、そのような事を理解したうえで、彼らと共に地球に行こうとしているようです。

私達と共に旅をするシャーマン達は鷹のような姿にその身を変えたようです。

私達は、アトラス様の赤い龍と共にアクラブ星を飛び立ちました。

PART3 さそり座の魔法使い

次に向かったのは、さそり座の頭部の中央にあるジュバ星です。

幾重もの霧に隠されたこの星は、なかなか降り立つことも、前に進むこともできません。しかしながら、アトラス様の導きで無事に星に降り立つ事ができました。

この星には、小さな部落に数名の人が住んでいるだけのようです。

部落はとても静かで、まるで時間が止まっているように見えます。

多くの者が年を取り、ただ滅び去っていく事を待っているだけのような雰囲気があります。

私達はアトラス様が、部落の中の1人と話しをしている間、ただ見守っています。

アトラス様が話しを終わると、今度は村人同士で話しをしているようです。

私達はその間、この村の事をアトラス様から教えてもらいました。

「このジュバ星は、昔は彼らを指導してくれる立派な魔法使いがいて、魔法使いの学校として栄えていました。

ここには、他の星々からも魔法を学びに来る人達もいて魔法を学ぶ人達にしてみれば、必ず訪れて学びを行う場所だったのです。

彼らは、私達アンタレス騎士団にとっても良き仲間でした。

星々で起こる問題は時として魔法を使わないと解決できない事もあるからです。

しかし、ある時、優秀な魔法使いの1人が、闇にとらわれてしまい、仲間達を自分の味方につけてこの星を支配しようとしたのです。

当然、この星を守ろうとする魔法使いとの間で大きな争いが起きました。

この星の魔法使いはどちらかの勢力につき、お互いを攻撃し合ったのです。

その結果、多くの魔法使いが傷つき死んでいきました。

残った者達もほとんどがこの星を去り、魔法使いの指導者がいなくなったこの星は荒廃した星になってしまいました。

ただ数名の者達がその当時地下に隠れ災いを逃れました。

それが今残っている者達の先祖だったので

す。彼らは、もともとの指導者の教えを忠実に守り、少人数でその伝統的な儀式や祈りを守ってきたそうですが、彼らは、魔法の素晴らし

さも恐ろしさも十分に知っていますので、魔法を余り使わずに生きる事にしましたのです。

しかし、時折優れた魔力を持つものが生まれてくるので、その血筋や伝統だけは絶やさずにいるようです。

これも女神ガイア様の指図です。

きっとその者がこの星を再興すると考えていたのでしょう。」

私は天使の星の長老様が言われた事を考えていました。

先ほどのシャーマン達の星の長老様が言われた事も、魔法使いの星で大きな争いが起きた事も、天の川銀河で起きた大きな争いとの関係があるのではないか、という事です。

しばらくすると1人の若者が、私達の前に姿を現しました。

「私はジュバ星の魔法使いの伝統を継ぐ者ですが、残念ながら魔法使いとしてはまだ未熟です。

しかし、かつて女神ガイア様が預言された時が来たのならば、私も皆さんに同行させてください。」

若者はしっかりとした顔つきで答えました。彼の中に、自分も1人前の魔法使いになって、この星を再興したいという強い思いがあるようです。

私達は彼を仲間に加えることにしました。

彼が私達と共に旅立つとき、村人達はこの星の伝統にならって私達のために儀式を行ってくれました。

村人達は、若き魔法使いと私達の周りに円を描いて座り、いくつものクリスタルや鳥の羽、木の枝、清らかな水などを並べ、それぞれの

精霊達が、私達を守護してくれるように祈りを捧げてくれたのです。
それはとても神々しく清らかな祈りでした。
私達は、その祈りを胸にこの星を飛び立ちました。

PART4 さそり座の小人たち

私達は最後にホビット達を迎えに行くためにウェイ星に向かいました。
このウェイ星には私達の心を惑わすような罠が仕掛けられており、容易には中に入る事ができないようになっています。
幻影によって神龍（シェンロン）達も迷わされてしまい、星に降りることが出来ません。

その時、先ほどのジュバ星の魔法使いが祈りの言葉を何度も唱えてくれました。
するとまるで霧が晴れるように幻影が消え去り、私達はこの星に降りる事ができるようになったのです。

星に降り立って神龍（シェンロン）で飛びながら星の様子を見ていました。
この星には植物などが育ってはおらず荒涼としています。
アトラス様に言わせると、通常の星は隕石の落下や不安定な大気のためにこのような荒野になっている星がほとんどで地球やアクラブ星のように樹木や海がある星のほうが珍しいようです。

私達は大きな岩の陰に地下に繋がる小さな道を見つけました。

体をかがめながら、その道を降りていくと、数10人のホビット達が忙しそうに働いています。

まるで、ホビット達の工房のようでした。私達が入っていくと、みんな驚いた顔をしていましたが、一緒に来たアクラブ星のシャーマン達の姿を見ると大喜び。

シャーマンに飛びついて甘えています。シャーマン達もホビットの事が大好きなようで、ホビット達を抱きかかえて遊んでいます。

きっと昔はお互いがもっと自由に交流し合えたのでしょう。

彼らは、ここで惑星にとって必要な物質を創造しているようです。

多くの原材料を組み合わせ、様々な物質や植物を生み出す研究をしています。

その様子を見た遥さんは大喜び、ホビット達も小柄な遥さんを見て自分達の仲間と思ったのか、近づいて抱きしめようとします。その姿に美緒さんも葵さんもほほえましく笑っています。

シャーマンの長老様の息子が、ホビット達に話しかけています。

「私達はこれから地球にいる女神ガイア様のもとに行きます。

ガイア様がこの地球の方達を私達のもとに送り、約束の時が始まった事を教えてくださいました。

私達はガイア様やこの地球の方達と共に働くために地球に行きますが、皆さんはどうしますか。」

ホビット達はお互い話し合うこともなく「行く。行く。」と言って喜んでいます。

これから起きることの危険性など、彼らには全く関係がないようです。

女神ガイア様と一緒にいられることが彼らにとって一番大切な事のようにです。

きっと、あの時を境にして、星々の行き来ができなくなってから、この星に残っていたホビット達は女神ガイア様に合う事ができなくなって、長い間寂しい思いをしていたのでしょう。

女神ガイア様に会えるというだけでホビット達は上機嫌です。

ホビット達の準備も整ったようです。

ホビット達はアトラス様の赤い龍やシャーマン達が姿を変えた鳥の背につかまり大喜びです。

アトラス様の赤い龍がウエイ星を飛び立つと、続いてわたしたちの神龍（シェンロン）やシャーマン達の鳥も飛び立ちます。

魔法使いは私の神龍（シェンロン）と共にいくようです。

私達は、「宇宙の光」の仲間を残しておいたアンタレス星へと戻りました。

かなり長い時間待たせておいたのですが、皆さんはスカイプを通して私達が何をしているのか話を聞くことができますので、退屈せずに待っていられたようです。

私達は地球に帰る準備をします。

アンタレス星の騎士団の方達も10名近くアトラス様に同行し、残りはアンタレス星とさそり座全体の警備を続けるようです。

出発前に遥さんが、アトラス様に近寄り聞いています。

「アトラス様、あのお城は誰がいらっしゃるのですか。」

アトラス様は少し悲しげな顔をして言いました。

「あのお城は女神ガイア様のお城です。本来はガイア様がいらっしゃるのですが、あの時以来、このお城に戻る事ができなくなったのです。」

私達は、女神ガイア様が待つ地球へと新しく仲間になったメンバー達と共に向かいます。しばらくして、ガイア様の神殿についたら今日のスカイプ会議はおしまいです。

本当はガイア様に聞きたい事がたくさんあるのですが、今日は長い時間、神龍（シェンロン）と意識をひとつにして旅をしていたので、皆さんお疲れになったようです。

時間ももう夜中の12時を回っています。この続きは次回行うことにして今日は終了です。

第6章 ベガ星へ 白鳥の六 芒星

PART1 ギアの神殿の新しい仲間達

私達は、前回のスカイプ会議の時に、女神ガイア様の指示でさそり座に行き、多くの仲間達と共にガイア様の神殿に戻ってきました。アトラス様が率いるアンタレス騎士団、自然の力を身につけたアクラブ星のシャーマン、そしてジュバ星の魔法使い、ウェイ星のホビット達。

女神ガイア様もそしてガイアの神殿にやってきた新しい仲間達も再会を喜んでいます。

主にシャーマンやホビット達はガイアの神殿にとどまり、ガイアの神殿がこれからたくさんの仲間達を受け入れる事ができるようにガイアの神殿を拡充し、高い波動に保つ事を行います。

またホビット達や魔法使いはこれから私達が活動するにあたって必要な道具なども作る事になっています。

そしてアンタレス騎士団はペガサス騎士団と共に私達に同行して星々を回ることになっています。

私達の活動に興味を持って新しく「宇宙の光」のメンバーになる人達もたくさん増えてきました。

その様な人達にたいして、私は「大天使ミカエルと神龍の心の扉と鍵」のアチューメントを行い、その人の心の内側にある扉を開き、その人の高次の意識で大天使ミカエル様に会えるようにしてあげます。

中には、初めから大天使ミカエル様からのメッセージを受け取ることができる人もいます。

そして大天使ミカエル様にお願いして、その人のスピリットの一部である龍を出してもらうのです。

そこまでできると、その人は龍と一体化して空間を自由に移動できるようになりますので、葵さんたちの指導で龍と共に旅をするトレーニングに入ります。

しばらくトレーニングを積んだら、再び私の「エンジェル・レイ」のアチューメントを受け天使の星に出かけます。

そこで天使の長老様からのメッセージをもらい、大天使達からの祝福の光を受けることでスピリットが強化され、龍もパワーアップして、神龍（シェンロン）となり、宇宙に出かけていく事ができるようになるのです。

勿論、私達が行っている事は地球の常識では考えられない事ですが、地球人をこれまで導いてきたスターピープルや大天使達の守護があればこそできる事なのです。

私達の活動は、地球人が天の川銀河にとっても役に立つ種族であるという事を証明するために始まりましたが、スターピープルや大天使達は、私達を使って天の川銀河の多くの問題を解決し天の川銀河を再度次元上昇させていこうと思っているのです。

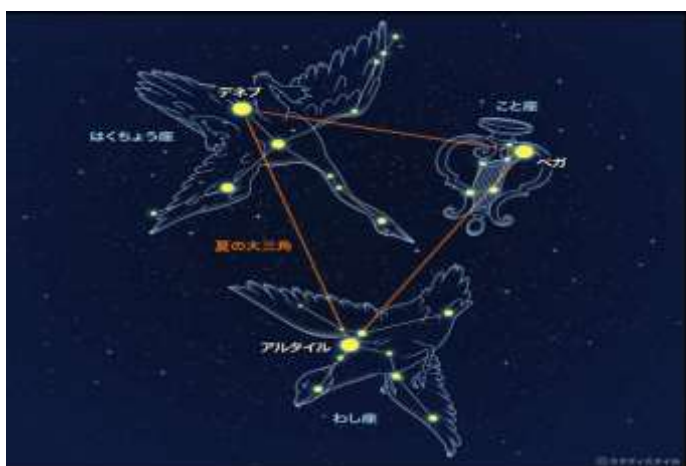
私達はまだ宇宙の事については何も知りませんが、私達が行おうとしている事が地球人の未来だけでなく天の川銀河全体の未来に大きく関わっているのだ、という事だけはわかります。

そうでなければ、私達がこのような特殊な能力を持って活動する事は出来ないはずですし、私達とは比べ物にならないほどの高い能力を持っている騎士団やマスター達が、私達と共に活動してくれるはずはないからです。

私達の新たな活動に対する準備もだいぶ進んできたようです。

6月も後半になると、多くのメンバー達が「エンジェル・レイ」のアチューメントをすませ、宇宙に出ていく準備が整ってきたようです。

そのような時、私達に最初のメッセージをくれたベガリタス様が、ガイアの神殿に現れました。



PART2 「白鳥の六芒星」

今日は、これからの活動やスカイプ会議をどのように行うか中心メンバー達で話し合う為に、私達はガイアの神殿に入りました。私達は、スカイプを使用して、みんなで地球以外の星に出かけることを「星のツアー」と呼ぶことにしました。

「星のツアー」は、行き先が決まっていることもあれば、ガイアの神殿に入ってから女神ガイア様の指示で行先が決まる時もありますし、ガイアの神殿に尋ねてきたマスター達の要請で行先が決まる時もあります。

今日は、ベガ星のベガリタス様が、ガイアの神殿で待っていました。

「龍治さん、そしてみなさんお久しぶりです。この半年の間に、皆さんはとても成長してくれました。

ペガサス騎士団やアンタレス騎士団をはじめ多くの仲間達が皆さんの活動を助けるために準備をしてくれています。

そして「宇宙の光」も新たに優秀なメンバー達も加わり頼もしいグループになってきました。

今日は皆さんに大切なお話しをしたいと思います。」

私と葵さんは心の中で「いよいよ始まるね。」と思い进行をかわしました。

「これから話す事は、皆さんの最初の活動のお話しです。

それは「白鳥の六芒星」についての話です。

「白鳥の六芒星」というのは、こと座のベガ星、白鳥座のデネブ星、そしてわし座のアルタイル星で構成される夏の大三角形と呼ばれる星座群の事です。

この星座群はさらに、ポラリス星（北極星）やラスアルハゲ星（へびつかい座）、エニフ星（ペガサス座）などの星々を巻き込んで、「大きな白鳥の六芒星」と呼ばれる星座群を作っています。

この星座群の中心であるベガ星とデネブ星は、天の川銀河の星々に偉大なる愛と神聖さ、そして覚醒をもたらす星です。

そして「大きな白鳥の六芒星」に属する星々がこの2つの星と協力し合いながら、天の川銀河の豊かな成長を作りだしてきました。

特に現在の北極星であるポラリス星には、偉大なる創造主様がいてベガ星とデネブ星の光の源となっています。

創造主様が持つ神聖な光は、この2つの星から天の川銀河全域へと流れ込んでいきます。

ベガ星とデネブ星は、創造主の光を2つに分かち合って、天の川銀河の星々にその光を満たす為に、自らの星へとその光を導きました。こと座のベガ星は、主に霊的な成長を起こす覚醒の光です。

自らの魂とスピリットを成長させ多くの生命のために奉仕できるような魂を生み出します。

白鳥座のデネブ星は、優雅さと美しさの光であり、創造の偉大さを伝える光です。

この宇宙が創造され、芸術的とも呼べるような美しい創造物が生み出されました。

その光は、私達の心とスピリットを安らがせ、創造主との統合を図っていきます。

デネブ星から大きく羽を開いた場所にあるのが、ペガサス座のエニフ星です。

このエニフ星にいるペガサス達は、天の川銀河の調和を守るために、愛をもって働いています。

調和と正義が求められる星には、彼らは惜しみなくサポートを行います。

ペガサス座の騎士団の事は皆さんもご存知ですね。

またベガ星から羽を開いた場所にあるのは、へびつかい座のラスアルハゲ星です。

言うまでもなく、天の川銀河の癒しと神聖さを保持する場所です。

この宇宙における癒しのエネルギーは、この星と深い関わりを持っています。

そしてこれらのすべてのエネルギーが集まる場所が、アルタイル星なのです。

大きな白鳥の足元に当たり、すべての光がここに繋がっています。

創造主の偉大な光を、それぞれの星が受け止め、覚醒の光、美しさの光、力強さの光、癒しの光として、アルタイル星に流し込んでいきます。

アルタイル星は、それらの光を一つにまとめて、新たな光に統合し、天の川銀河の星々へと送っていく働きがあるのです。

しかしながら、おごり高ぶったアルタイル星人によって、アルタイル星から送り出される光が変質してしまいました。

アルタイル星は、ほかの星を支配し自らの下部組織にしようと画策をしていましたので、彼らは闇の力と一つになり、自らの神聖さを失ってしまったのです。

そのためにこの「大きな白鳥の六芒星」の働きは十分に機能せず、天の川銀河の平和と神聖さも薄れてしまいました。

アルタイル星も荒廃し、その星の光は失われ、闇の世界に落ちてしまいました。

「大きな白鳥の六芒星」をつかさどる星達も、アルタイル星との通路が閉ざされてしまったために、その起点を失い、お互いがばらばらになってしまいました。

私達は再度、この「大きな白鳥の六芒星」の神聖でパワフルな光のエネルギーを取り戻さなければなりません。

それができるのは、地球の物理次元から多くの異なる星の次元に入れる皆さん達だけなのです。

「大きな白鳥の六芒星」の光が再びつながった時には、光の洪水が、地球のみならずこの天の川銀河の全域にもたらされるでしょう。そして多くの闇に取り込まれた星々やその影響を受けた星達も、自分達本来の光を取り戻すきっかけを作る事ができるのです。私達があなた方を育て、ここまで導いてきたのは、まさにこのためなのです。

この「大きな白鳥の六芒星」のエネルギーは、皆さんの太陽系にも向かいます。

まず太陽に入り、太陽によって、地球にふさわしい強さと質の光に変容されます。そして地球へと送られていくのです。

この太陽系の中心である太陽に、「大きな白鳥の六芒星」の光がもたらされるという事は、大変重要な意味があります。

現在この太陽系には「アディティーヤ神群」と呼ばれる神様達がありますが、彼らも「大きな白鳥の六芒星」の光と切り離されて孤独なのです。

アルタイル星が闇に落ちたために、アルタイル星から太陽、そして地球に送られていた創造主の力は失われてしまいました。

そのためにアディティーヤ神群が持つ「大いなる母性」の力も弱ってしまったのです。

その結果、地球においては、母性や女性性は傷つけられ、男性や男性性が有利となってしまったのです。

この「大きな白鳥の六芒星」から送られてくる創造主や星々のエネルギーによって、アディティーや神群も再び力を取り戻すでしょう。

そして皆さんが、この太陽から地球に「大きな白鳥の六芒星」のエネルギーをもたらす事ができる大きな光の通路を繋ぐ事によって、アディティーや神群の力は再び強まり、地球に母性としての太陽の愛をもたらす事でしよう。

それが、この地球と天の川銀河に大きな影響を与えている「闇」の力を乗り越えていくための大切な道筋であると思われます。

今回の仕事では、アルタイル星以外の星は、皆さんにとってとても友好的な星ですので、問題はありますが、アルタイル星だけは、注意して騎士団を共につれていってください。



PART3 ベガ星への訪問

2013年の7月、今日の星のツアーは、ベガ星とデネブ星を中心とした六芒星の光の通路を開くための旅の始まりです。

これから始まる「星のツアー」の目的は、闇の力の支配を受けるアルタイル星を光の星に戻す事によって、「大きな白鳥の六芒星」を再び光の六芒星に戻し、創造主の愛と調和の光を地球と天の川銀河全体に取り戻す事です。

地球は、現在さらに混迷を深め多くの事件が多発していますが、「大きな白鳥の六芒星」が甦り、光の通路ができる事により、とても大きな光が地球に送られる事でしょう。

そうすると、地球を取り囲む闇の力も弱まって、人々の心に愛の力が呼び戻される事となるのです。

今日は、定例の「星のツアー」でしたので30名を超えるメンバー達が参加することになりました。

私達はスカイプをつなぎ、全員が集まった事を確認すると深呼吸して祈りの言葉を読み、心をひとつにします。

そしてそれぞれの神龍（シェンロン）と意識をあわせて、私達の基地であるガイアの神殿に入りました。

「ガイアの神殿」では、女神ガイア様が、嬉しそうに待っています。

私達に、祝福の光を送り「勇気と自信をもって行動してください。」とメッセージを送ります。

私達を迎えに来てくれたベガリタス様を先頭にして、ペガサス騎士団と私達の仲間の神

龍（シェンロン）がガイア様の神殿を飛び立ちベガ星に向かいます。

そして後ろを見張るようにアンタレス騎士団の赤い神龍（シェンロン）が飛び立ちます。多くの神龍（シェンロン）とペガサス達が力を合わせてベガ星に向う光の通路を作っています。

一度光の通路ができてしまうと、同じ場所に行く事がとても簡単で早くなります。

まるで高速道路を車で走っているのと同じ感覚です。

しばらく飛んでいくと正面にベガ星が見えてきた事をベガリタス様が伝えてくれます。

ベガ星へ入るには、ベガ星のクリスタルのゲートを通らなければなりません。

これは宇宙空間からベガ星の空間に移るためのシステムのようなものです。

ゲートを通ると、そこは風が吹き抜けるような美しい草原です。

野原には花々が咲き乱れ、遠くに山も見えます。

私達は野原に降り立ちました。

心地よい風を感じながら、ベガ星に無事着いたことに感謝を感じています。

日本で見る事ができる花々と同じような花が咲いている様子を見てメンバー達は喜んでいきます。

私達は、ベガリタス様の後を追って小さな森の中を歩いていきます。

森の中では植物が太陽の木漏れ日に輝いて見えますし、小鳥達の声も聞こえ、私達をリラックスさせてくれます。

しばらく歩むと小さな泉が見えてきました。

ベガリタス様はここで歩みを止め、言いました。

「この泉は皆さんの心と体の疲れを癒します。

どうぞこの泉に入って皆さんの疲れを癒してください。」

私達と共に来たメンバー達、そのほとんどが女性ですが「わあー」と言って泉に入っていきます。

私と騎士団は少し離れたところでその様子を見えています。

女性のメンバー達は温泉気分で首までしっかりと使っている人もいればお互いに水をかけあってはしゃいでいる人もいます。

私達が見えていても、メンバー達の疲れが取れて輝きが増していくように見えます。

私はアトス様に聞きました。

「この泉はどのような仕組みになっているのですか。」

アトス様が泉を見ながら答えてくれました。

「地球では水に含まれる成分が体を癒しますが、宇宙ではその場所に密度の高いエネルギーが集まって古いエネルギーを代謝し、新しいエネルギーで満たすようになっているのです。

そのために短い時間でも疲労が回復し元気が出ます。

またそこに集まっているエネルギーによっては、その人の波長を高めスピリチュアルレベルでのクリアリングを行うこともあります。」

私はその説明になるほどと思いました。

「おそらくベガリタス様は、これから皆さんをベガ星の神殿へと連れて行かれると思います。

しかしそこに入るためには、ネガティブなエネルギーを除去して皆さんの波長を挙げておかなければならないので、この泉を使ってエネルギーのクリアリングを行っているのです。」

アトス様はさらに付け加えて教えてくれました。

確かにそうなのです。

私達は、毎日地球で仕事をして心も体も疲れ切っています。

その様な状態で「星のツアー」を行っていると、天の川銀河のために働く余裕もなくなりますので、スターピープルの皆さんは時々、私達をこのような場所に案内してくれて疲れを癒してくれるのです。

しばらくしてメンバー達が泉のエネルギーで癒されたところを見計らって、ベガリタス様は「そろそろ出かけましょう。」と言いました。

メンバー達は疲れも癒えて元気になっています。

「はい、行きましょう。」と美緒さんたちが言いました。

PART4 ベガ星の神殿

私達は、森を抜けていくと小高い丘の上に木材を組み合わせて作ったような清楚な建物が建っていることに気づきました。

まるで神社のような作りをした建物がベガ星の神殿のようです。

メンバー達は、この建物を見て「日本の神社みたい。」とか「神聖な感じがするわ。」などとおしゃべりをしながら建物の中に入っていきます。

建物の中に入ると数名のベガ星の人達が中で待っていました。

私達は準備されていた椅子に座ります。

アトス様達は後ろで私達の事を見守っています。

ベガリタス様は中央にある椅子に私達と向き合う形で座りました。

3人のベガ星の人が私達の前に立ち私達を歓迎してくれる言葉を述べました。

私達は以前、天使の星で大天使ガブリエル様から異なる種族の人達であっても言葉が通じるようにします、と言われたことを思い出しました。

きっと大天使ガブリエル様が、私達とベガ星の人達の間のコミュニケーションをとってくれているのだなと、感じました。

ベガ星の人の言葉は耳から入ってくるというよりも心に直接入ってくる感じです。

3人のベガ星の人達は2人が男性で1人が女性のようにです。

すこしぽっちゃりとした男性は、自分の事をベガルダという名前呼びました。

陽気でにっこりとしていて動くさまもとてもユーモラスです。

一緒にいるだけで悩みも忘れ心が豊かになっていく感じがします。

私達にしてみれば「大国主命（オオクニヌシノミコト）」様といった方がピッタリ来そうです。

もう一人の男性は背が高く勇ましい感じで腰には剣のようなものを下げています。そして威厳がある態度でこの神殿を守っていらっしゃるようです。とても正義感が強く厳しそうな雰囲気の方です。

この方は、「瓊瓊杵尊（ニギノミコト）」様のグループかもしれません。彼は自分のことをベガリオンと呼びました。

もう一人の女性は「天の鈿女（アメノウズメ）」のグループの方のようです。柔らかい絹のような衣装を身にまとい、動くたびに布が風に揺らめいています。優しい音がる鈴を手にして、癒しのエネルギーで周りを包んでいらっしゃる方です。彼女はベガリータであると名乗りました。

ベガリタス様が、私達に歓迎の言葉を述べてくれます。

「龍治さん、そして「宇宙の光」の皆さん。私達の神殿にお迎えできた事を心から嬉しく思います。

私達は、ずっと皆さんの活動を見守ってきました。

そして皆さんが、私達と共に、この宇宙で活躍していただける事を心から待ち望んでいたのです。

そしてようやくその時が来た事を、私達は嬉しく思います。」

ベガリタス様の目に涙がきらりと光ったような気がします。

「ベガリタス様、私達を迎えてくださりありがとうございます。

本当は、私達が、地球を出て、ベガ星に来ている事がまだ信じられないのです。

私達の体は、一体どうしてしまったんだろうという感じです。」

私は緊張して自分が思っている事もきちんと言えないでいます。

ベガリタス様達が一こやかにほほ笑んでいます。

「あなた方にとっては信じられない事でしょう。

あなた方をここに連れてきてくれたのは、宇宙船ではなく皆さんのスピリットである神龍（シェンロン）達なのです。

あなた方は、人間の肉体として、ここにきているのではなく高次の意識としてきているのです。

皆さんに神龍（シェンロン）達が現れた事により、皆さんは自分のスピリットの力を使用して好きな場所に行く事が出来るようになりました。

もちろん今はまだ、自由にコントロールできないかもしれませんが、宇宙の偉大なマスターや創造主様が、皆さんの事をしっかりサポートしてくれるから大丈夫ですよ。」

「しかしベガリタス様、どうして私達がこのような事が突然できるようになったのでしょうか、それも私達のグループのメンバーの多くが、自由に空を飛び、宇宙の星々に行けるようになりました。

私達は、特別の修行などもしていないのに、不思議です。」

ベガリタス様は、私達全員を見つめながら言います。

「皆さんがここに来ているという事が、その答えですよ。」

皆さんは、天の川銀河の事を知り、天の川銀河のために大切な役目をこれから担っていく事になります。

それは地球に生きている皆さんでなければできない事です。

この事は、天の川銀河の秘密がもっとわかってくれば、皆さんも理解してもらえるでしょう。

そのためにも、様々な星に出かけ、多くのマスター達に会って教えをいただいてください。」

ベガリータ様が、私達の新たな旅立ちのための儀式の準備ができている事を伝えてくれました。

「龍治さん、そして「宇宙の光」の皆さん。ベガリタス様はもちろん、私達も皆さんの事をととても頼もしく思っております。

私達が、地球の人々と共に活動できる最初の日なのです。

私達は皆さんのご無事と成長を祈って特別な儀式をご準備しましたので、ぜひ受け取ってください。」

ベガリータ様と陽気なベガルダ様に導かれて、中央に高々と燃え盛る炎の周りに私達は座ります。

ベガリタス様とベガリオン様が、私達を祝福するかのよう、私達の体を緑の葉がついた木の枝でさすっていきます。

おそらく、私達の不要なエネルギーを拭い去り、炎で燃やしているようです。

ベガリータ様は落ち着いた声で歌を歌っているようです。

ベガリータ様の声で、私達は更に深い瞑想へと導かれていきます。

そして私達は、一段と高く燃え上がる炎のエネルギーを、自分達のハートの中に受け入れるように言われます。

私達は、自分のハートに熱く燃える炎をしっかりと受け入れていきます。

私達のハートから体全体に熱いパワーが満ち溢れてきます。

これからの旅に向かって力強い意志と勇気が、私達の心に宿ります。

私達はしばらく、ベガリタス様達のパワーに酔いしれています。

この儀式の後、ベガリタス様が、私達に次の指示を与えてくれます。

「龍治さん、これから皆さんは、アルタイルのマスター達を救出するために、たくさんの仲間達を集めなければなりません。

まず、へびつかい座のラスアルハゲ星に向かってください。

そこには、この天の川銀河でも有名な医者であるアスクレピオス様が待っています。

彼は傷ついた人々や存在を助け癒す事が出来る方です。

これからのあなた方の旅には欠かせない存在ですので、まず彼の助けを求めなさい。」

私達はベガ星からへびつかい座のラスアルハゲ星へと新たな仲間達を求めて旅立つ事になりました。

第7章 癒しの星 ラスアル ハゲ星

PART1 癒しの星 ラスアルハゲ星



私達が星から星へと移動する時は、まだ慣れていないのであらかじめ、神龍(シェンロン)や騎士団達によって光の通路と呼ばれるものが作られます。

そしてメンバー全員がその通路の中を通る事で、迷う事なく目的地へと着く事が出来ます。

私達全員が、高次の意識で旅ができるようになったといっても、まだまだ上手下手がありますので安心して旅ができるように、私達は光の通路を作り、その中を移動します。

これは、列車の線路のようなもので、私達はその線路の上を神龍(シェンロン)にのって走っていくのです。

ベガ星から私達はへびつかい座のラスアルハゲ星へと光の通路を作りました。

光の通路の材料のひとつはクリスタル(水晶)のようです。

その頃、私の元には10kを超えるような巨大なクリスタルが次々と集まってきていました。

私達はクリスタルの中に隠されている情報によって新たな知識を身につけると共に自分の能力を高める事が出来ます。

そしてクリスタルは、スピリットの一部である神龍（シェンロン）を元気づけ、光の通路を作る事をサポートするためにも必要なのです。

ベガリタス様より、私のハートに光が送られます。

これが、ラスアルハゲ星へと行くための座標や道のりのようです。

私がその光にクリスタルのエネルギーを送り込むと光の通路が、どんどん作られていきます。

神龍（シェンロン）やペガサス達も一緒になって光の通路を作りあげています。

やがて、光の通路はラスアルハゲ星へと向かって伸びていきました。

今回から私達の星のツアーに同行しているジユバ星の魔法使いも、初めての事ばかりで驚きの声をいつもあげています。

「龍治さん、僕はこんな経験をしたのは初めてです。

いつもジユバ星の小さな村の中で暮らしていましたから、僕の知識は本から得られるものだけでした。

いつも本を読みながら外の世界にあこがれていたのです。

僕に自由を与えてくれた龍治さんたちに深く感謝しています。」

私達は彼の事を「ロイド」という名前で呼んでいます。彼が言っている事は私達も同じです。

私達も小さな日本の事しか知りません。今回ベガリタス様達によって天の川銀河を旅する能力を与えられた事は、たとえその後にどれほど大変な事が待っていようとも、幸運な事に違いありません。

私達は光の通路を通してラスアルハゲ星へとつきました。

へびつかい座のラスアルハゲ星にたどり着いた所、私達の前には、いくつもの道や景色が現れ、そこを辿っていくと、目的地とは異なる場所に出てしまいます。

あるいは道自体が霧や暗闇で隠され、私達のいく手を阻んでいるようです。

どうも、惑星自体がイリージョン（幻影）で守られ、不要な人は入れないようになっているようです。

魔法使いのロイドが様々な方法を試していますが、なかなか成功しません。

私達は、この星に入るために、どうしたらよいか考えました。

その時、私達のハートに浮かび上がったのは、へびつかい座のマスターである医師アスクレピオスの「アスクレピオスの杖」のイメージです。

私達は、ベガ星でベガリタス様からいただいた、ハートに宿る炎の光と共に「アスクレピオスの杖」のイメージを星に送ってみました。そうすると、「アスクレピオスの杖」のシンボルが大きく輝いたかと思うといくつもの幻影を作り出していたイリージョンはなくなりました。

そして晴れ渡った霧の後ろに現れたのが、まさに長老様のような姿をしたアスクレピオス様でした。

とても優しく静けさが漂うそのお姿は、癒しの天使「ラファエル」を想像させます。

その姿を見て大天使が大好きなメンバーである隆子さんは大喜びです。

「アスクレピオス様ってとても優しくて信頼感のある光を持っていらっしゃるのですね。

さすがに天の川銀河の名医の波長は違いますね。

こんなに素晴らしい方にお会いできて、私達は幸せです。」

いきなりのほめ言葉にアスクレピオス様も困惑していらっしゃるようです。

隆子さんは、私達「宇宙の光」の古くからのメンバーですが天使の事を語らせると叶う人は誰もいません。

神龍（シェンロン）の操作方法も上手で、星の人々と交流することも得意です。

時々、相手を持ち上げすぎて苦笑を買うことがあります。新しい活動が始まってやる気MAX という感じです。

最近は、葵さん達と同じように中心メンバーとなり、新しく入ってくる人達の面倒を見てもらっています。

アスクレピオス様がにこやかに笑いながら挨拶をしてくれます。

「龍治さん、「宇宙の光」の皆さん、お待ちしております。

詳しい事はベガリタス様より聞いておりますが、よくこの星までたどり着けましたね。地球の人々がこの星を訪れるのは、本当に珍しい事です。

それだけ大切な任務をお持ちになっているのですね。」

私はアスクレピオス様の前に進み出て挨拶をします。

「アスクレピオス様初めまして、私達は「宇宙の光」のメンバーです。

今回、ベガリタス様より、アルタイル星の問題を解決するために、皆さんに力になってもらうようにと、アスクレピオス様をご紹介いただきました。

私達に、何ができるか分かりませんが、よろしくお願いします。」

「なかなか正直者の様ですね。」とアスクレピオス様は笑います。

「もちろん、私で良ければ、いつでも力になってあげましょう。

これから、長い旅が続くでしょうから、まずは私の神殿において下さい。」

PART2 アスクレピオス様の癒しの神殿

私達はアスクレピオス様に誘導されてラスアルハゲ星に降り立ちます。

この星は今まで感じたことが無いほどの静かで優しい波動が満ちています。

やはり遥さんが、ため息をつきながら言います。

「私、こんな雰囲気大好き。

ここにいるだけでやさしくて落ち着いた気持ちになります。」

他のメンバー達も同じように考えているようです。

大きなため息のような声が聞こえてきます。

美しい野原のような場所を歩いていきます。樹木のもとには小さな小川も流れているようです。

小鳥達も、優しい声でさえずり、心が癒される星です。

私達は野原を抜けていくと、アスクレピオス様の癒しの神殿が見えてきました。

癒しの神殿に近づくにつれ、周りを数匹の黒猫達がついてきます。

その様子に、遥さんや美緒さんが「かわいい～」と言って抱き上げようとしてしました。

すると黒猫はするりと遥さん達の手をすり抜けて、2本足で立つと人間の姿に変わりました。

正確に言うと猫のしっぽが残っているので猫人間（キャットピープル）ということになるのでしょうか。

ここにいる黒猫達は、ふだんは4つ脚で歩いているようですが、アスクレピオス様と共に仕事をするときは人間のような姿に変わるようです。

猫の看護師さんの姿に「宇宙の光」のメンバー達も大喜びです。

「驚きましたか、この星の人達はもともと猫の姿をして暮らしていたのです。

私がここに癒しの神殿を作ったのも、この猫達の癒しの力がとても強かったからです。

そして、猫達も進化して私の仕事を手伝うときは、今ご覧になられたように人間のような姿になります。

このタイプの種族はいくつかの星にすんでいて、各地で癒しの仕事を手伝っていますから、皆さんもこれからどこかの星で出会うかもしれませんね。」

遙さんと美緒さんはしげしげと猫人間（キャット・ピープル）の姿を眺めています。地球でも猫達は癒しの象徴として活躍していますから、きっと同じなんでしょうね。

アスクレピオス様の癒しの神殿は、とても美しい柱が立ち並ぶギリシア神殿のようです。此処では、2本足で立って歩く猫人間（キャット・ピープル）達がアスクレピオス様の治療のお手伝いをしているようです。

私達は、まず神殿の中央付近にある温泉のような場所に案内されました。

「この場所は、傷を負った方や病気になられた方が、心と体を癒すための場所です。どうかこのプールで皆さんの疲れをお取りください。

皆さんと一緒に来られているさそり座の騎士団の方もよくいらっしゃいますよ。」と猫の看護師さんはアンタレス騎士団のほうを見て言いました。

アンタレス騎士団のアトラス様は、「私達も「宇宙の光」の皆さんが入ったあとに使わせていただきます。」と言いつて深々とお辞儀をしています。

騎士団の人達もこのプールが大好きなようです。

騎士団のメンバー達が、嬉しそうな声を上げています。

私達は、透き通った癒しのエネルギーが満ち溢れているプールに体を沈めると、心と体が癒されていく様子を感じます。

私達の身体の細胞ひとつひとつに、柔らかいエネルギーが満ち溢れ、心と体が元気になっていくようです。

このような癒しの場所が大好きな美緒さんは、まるで親父さながらにプールの中で大きくため息をついています。

そして葵さんも最近の活動で疲れきっているのか、目を閉じて自分の事を癒しています。

私達は、このプールをアンタレス騎士団の皆さんに譲って次の部屋に行く事にしました。神殿の奥には、クリスタルで囲まれた大きな部屋があります。

中央には緑色の大きな石が置いてあり、周りに優しい光を放っています。

そして部屋の周りには透明なクリスタルや紫色のアメジスト、黄金色のシトリントパーズ、深い藍色のラピスラズリー、ピンク色のローズクォーツなどが、規則正しく置いてあります。

それも、私達の腰くらいまでの高さがあるものばかりです。

私達のメンバーは、クリスタルが大好きです。皆さん喜んでそれぞれお気に入りのクリスタルの近くによって、クリスタルを触ったり、エネルギーを感じようと手をかざしたりしています。

そのあまりのはしゃぎぶりにアスクレピオス様が気を悪くしないかはらはらしています。

アスクレピオス様が、クリスタルのお部屋に入って来られました。

「皆さん、癒しのプールで疲れをとることができましたか。」

隆子さんが、元気な声で「はい、有難うございます。すっかり元気になりました。」と言いました。

「そうですか、それは良かった。

それでは、このクリスタルの部屋で一緒に瞑想していきましょう。

自分の好きな場所に座って目を閉じてください。」

私達のメンバーはクリスタルヒーリングの勉強をしているメンバーもいますから、これから何が起きるか興味深いようです。

そしてこの部屋はさまざまな種類のクリスタルが置かれている配置によって異なるエネルギーの磁場を生み出しているようです。

私は緑色の石の周りに座りました。

遥さんはローズクォーツの近く、葵さんと隆子さんはアメジストの近くです。

美緒さんは、シトリントパーズの近くに座っています。

目を閉じて、石の波動の中に入っていくと、とても大きなパワーが、胸の中に入ってきます。

キャットピープルの方が、クリスタルボールのような低温の響きを部屋に満たしています。

私達はしばらく目をとじ、クリスタルの波動を受け取っています。

心地よい波動に寝むたくなっている人もいます。

アスクレピオス様が、私達の後ろを回りながら、私達のハートに光を入れて下さっています。

アスクレピオス様が、私達の意識体の少し上の所に手を当ると、高次元の光がその手を通して私達のハートに送られてくるのです。

私達が、これから新たな体験をする時に、しっかりと対応できるようにハートの力を活性化させているようです。

「どうか地球で生きている皆さんが持っている力にとらわれないでください。

地球では、皆さんが持っている能力は十分に開花していないかもしれませんが、皆さんは素晴らしいパワーと能力に満ち溢れています。

自分自身を信じ不可能な事はないと考えてください。

そして、共に働く仲間達を信じる事です。皆さんの心の中には大きな希望の光がありますから、その光と共に歩んでください。」

このアスクレピオス様の癒しの神殿は、私達の体を癒すだけでなく、エネルギーをどんどんパワーアップさせていく働きもあるようです。

私達の仲間も、力強いエネルギーに満ち溢れていきます。

アンタレス騎士団やペガサス騎士団の人達も十分に癒されて元気になったようです。魔法使いのロイドも今まで自分の中で眠っていた魔法使いの力が目覚めていく様子を感じています。

ロイドはアスクレピオス様にお礼を言っています。

「この癒しとハートの活性化はすごい魔法ですね。

私も魔法使いとして、人々を癒したり、その人のパワーを活性化させていく方法を学びたいと思います。

でも、私は自分のパワーに溺れずに、アスクレピオス様みたいに人のために役に立つ事をしたいのです。

もし、私があなたの魔法を学ぶことが出来たらぜひ教えて下さい。」

アスクレピオス様はロイドの中に有る魔法使いとしての資質に気づいた様です。

「ロイドさん、あなた方は本来光の魔法使いとして活躍してきた家系です。

人を癒したり、その人の能力を目覚めさせるような魔法もあなた方はもうすでに知っているはずですよ。

自分を信頼して下さい。

そうするときっとあなたに学びを与えてくれる先生が現れる事でしょう。

それでは、あなたにはこのアメジストを上げましょう。

大切に持っていてください。」

そういってアスクレピオス様はロイドに手のこぶし位の大きさのアメジストを手渡しました。

ロイドはそのアメジストを手につくと嬉しさのあまり涙を流しています。

「アスクレピオス様、本当にありがとうございます。

僕はこんなにやさしくしてもらったことはないのです。」

と言って何度もアスクレピオス様に頭をさげていました。

その様子を見ていた私達も嬉しくなりました。

仲間を作るという事の大切さをしらされたようでした。

私達は、しばらくアスクレピオス様の癒しの神殿で飲み物を頂いたり、ハーブやお花が咲いているお庭を散歩して時間を過ごしました。

私達は、そろそろベガ星にもどる時間になりました。

アスクレピオス様にお別れの挨拶をするとアスクレピオス様はこのように言われました。

「龍治君、これから君達は今まで経験したことのない事を経験するでしょう。

その中には、おおくの傷ついた人達や生死の境にいる人達とも出会うでしょう。

その時は遠慮なく私の名前を心の中でよびなさい。

私はすぐにあなたの元に行きます。

これからの天の川銀河の未来があなた達にかかっているのです。

どうぞ、自分が正しいと思う事を、信念を持ってやり続けなさい。」

私達は、アスクレピオス様の言葉を深く胸に刻み、神龍（シェンロン）とひとつになってベガ星に戻りました。

ベガリタス様が、神殿で待っています。

「皆さん、ラスアルハゲ星には無事に行けたようですね。

ここから旅立つ時よりも、皆さんの心が光り輝いているのが私にはわかります。

大切な仲間を得るごとに、皆さんの心の輝きは増えていくものです。

自分達の可能性を信じて、さらに新しい仲間達を見つけてください。」

「ベガリタス様、ありがとうございます。アスクレピオス様は本当に素晴らしい方でした。

私達も皆さんの仲間になる事が出来てうれしく思います。

それでは、次はどの星に行ったらよいですか。」

「次に行く白鳥座のデネブ星は、皆さんにとってはとても大切な星です。

皆さんの中には、フェアリーの魂を持っている人もいますから、きっと故郷に帰ったような気がしますよ。」

私達は今夜のスカイプ会議、星のツアーはこれで終了する事にしました。

私達の活動が本格的に始まったのだという実感が私達に湧いてきます。

次回は、白鳥座のデネブ星へとむかうことにしました。

私達は、神龍（シェンロン）達とひとつになり地球へもどっていきました。

第8章 白鳥座のフェアリー達



PART1 フェアリーワールド白鳥座のデネブ星

私達は数日後、ガイアの神殿に集まり、白鳥座へと向かう事にしました。

今日はフェアリー達の星に行くという事で遙さんや隆子さんのテンションはいやがうえにも高まっています。

その他にも、私達のメンバーの中にはかつて過去世でフェアリーだった人もたくさんいますから、今日は大変なことが起きるかもしれません。

私達はガイアの神殿から白鳥座のデネブ星に光の通路を開き、神龍（シェンロン）と共にデネブ星へと向かいました。

今日はフェアリーの星に行くという事でガイアの神殿のホビット達もアンタレス騎士団の神龍（シェンロン）にのって一緒にお出かけします。

デネブ星に降り立つと、まるでアルプスの少女ハイジが出てきそうな美しい高原の村の様です。

周りには花々が咲き乱れ、遠くには美しい山々が連なり、静かで美しく荘厳な世界です。歩いていくと、半透明の姿の小さくてかわいいフェアリー達も現れてきます。

花の影からは、ホビット達ものぞいているようです。

ガイア様の神殿のホビット達は仲間を見つけると大喜びで一緒に遊びに行っていました。

まさにここはフェアリーランドです。

遥さんや隆子さんはフェアリー達が大好きです。

すごく興奮して、初めて見るフェアリー達をまじまじと観察しています。

目を離したらフェアリー達をポケットに入れて持って帰りそうです。

私達は、遥さんの手を引いて前に進みます。

デネブ星は、ディズニー映画の「ティンカーベル」に出てくるような輝くばかりの美しさ
と優しさに満ち溢れた世界です。

私達の前に、1人の大柄なフェアリーが現れました。

そのフェアリーは他のフェアリーと違ってしっかりとしたドレスのようなものを着ています。

青い色のドレスで手にはクリスタルがはめ込まれた杖を持っていますので、特別な役目を持ったフェアリーかもしれません。

そのフェアリーは私達の前に立ちました。

「私はデネブ星の女神様に仕えるフェアリーです。

皆さんの事をお待ちしておりました。

どうぞ私と共においでください。」
フェアリーが羽をはばたかせると、美しい金粉が舞い踊ります。

突然現れたフェアリーが私達の心に話しかけてきた事で、メンバー達も喜びと驚きの声を上げています。
すると突然、遥さんが泣き始めました。
彼女の心の中にあるフェアリーの魂が、デネブ星に戻ってきた事を喜んでいるようです。
遥さんの鳴き声につられて、隆子さんや数名のメンバー達も泣き始めました。

きっと自分自身がこの星と深い関係を持っている事が分かったのでしょう。
確かに、私達のメンバーのスピリットは純粹で優しいので、フェアリーのスピリットを持っている人達も多いと思われます。

私達は、フェアリー達に導かれて、美しい神殿に入りました。
樹木や美しい花々に彩られた石造りの神殿です。
私達は、石段を上り、両側を樹木で囲まれた通路を歩いていきます。
樹木から垂れ下がった枝に美しい花が咲いていて、私達を祝福しています。
私達の心を安らがせる心地よい香りは、通路の両脇に植えられた花々から香ってくるようです。

PART2 フェアリーの女神アルターニャ様

私達が通路を抜けて広間につくと、フェアリーの女神が気品あふれる姿で立っています。

光沢のある青いドレスですが金色の縁取りがあり、光があたるとキラキラと輝いています。

手にはアメジストのような紫色の石や黄金色のシトリントパーズが埋め込まれた杖を持ち、頭にはいくつもの天然石で飾られた黄金色のティアラをつけています。

見るからに美しく尊厳のあるお姿にメンバー達も言葉を失って見とれています。

フェアリーの女神が、私達を見て微笑みかけます。

「地球の人達よ、私達のフェアリーワールドにようこそ。

私は、この星を司る女神アルターニャです。多くのフェアリーやホビット、そして精霊達があなた方を喜びと共に迎えています。」

女神の言葉に、多くのフェアリー達が羽をはばたかせて喜びの気持ちを表しています。

私達のメンバーである葵さんが前に進み出て、私達を代表してあいさつをします。

「女神アルターニャ様、私達をこんな素晴らしい星へご招待して下さいありがとうございます。」

私達はここに来ただけでも、胸がいっぱいで感動の涙があふれて止まらないのです。

女神様の事も、懐かしくて仕方がないのです。」

いつもは涙を見せることが無い葵さんまでもが涙を流しています。

女神アルターニャ様は、葵さんの頬から涙を優しく拭っています。

他のメンバー達も数人が同じように涙を流しています。

女神アルターニャ様はその様子を見て、まるでわが子を見るかのようにうなずいています。

「私達は、天の川銀河の多くの星々に、この星からフェアリーやホビット達を送り出しています。

私達は、その星にあたらしい植物や動物達を生みだし育てるために、星々へ降り立つのです。

もちろん地球にも、私達の仲間はたくさん降り立っています。

あなた方は、このフェアリーの星から地球に使わされた大切なフェアリー達なのです。

地球の古い時代には、フェアリー達は地上にたくさん満ち溢れ、素晴らしい世界を作っていました。

その頃は、人もフェアリーも共に協力し合って仲良く暮らしていたのです。

しかし、文明が発達していくと、フェアリー達の姿が見えない人が増えてきました。

そして、フェアリー達が住んでいた野原や山々の自然を破壊していきました。

フェアリー達は、やがて森の奥深くに追いやられ、次第に生きる場所を失っていったのです。

フェアリー達は、地球で生き残るために、まだ純粹さを保っている人間の魂の一部となって生まれてくる事を選択しました。

それは決して簡単な事ではありません。

一度人間として生まれたなら、もうフェアリーには戻る事が出来なくなるからです。

しかし、フェアリー達は、自分達が生き残り、地球に生きる植物や動物達を守るために、そうするしかなかったのです。

そして、あなた方が、まさにフェアリーの魂を持った人々なのです。」

葵さんや遥さんをはじめ、多くのメンバー達が涙を流しています。

きっと彼女達の魂は、この星に戻る事を長い間、待ち望んでいたのでしょう。

フェアリーの女神アルターニャ様は、しばらく皆さんの事を抱きしめながら慰めていました。

フェアリーの魂を持つ人達は、人間の社会では器用に生きていく事が難しく、耐え難い苦労を経験している人達もたくさんいます。人として生きてきたフェアリー達の苦しみと悲しみが、どんどん溢れ出してくてきています。

しばらくしてメンバー達が落ち着くと、女神アルターニャ様は、私達を神殿の奥庭へと案内してくれました。

そこには、屋久島にある「聖老人」と呼ばれる縄文杉のような古くてどっしりとした樹木が立っていました。

「この木はこの星の命と繋がっています。私達1人1人はこの星の命を分かち合って生きているのです。

どうかあなた方も、この星の命とひとつになってください」

と女神アルターニャ様はおっしゃいました。

私達は、頭を木の方に向け、木を取り囲むようにして、横になります。

私達とその木の周りを多くのフェアリー達が大きく取り囲み、女神の祈りと共に歌い、踊り始めます。

フェアリー達の歌声は共鳴しあい風のように私達の体を揺さぶっていきます。

女神アルターニャ様の祈りの声は、私達の心の扉を優しく開き、今まで経験してきた辛い経験を癒して心を開放してくれます。

私達の体も揺れ、私達の中に波のように星の意識が入ってきます。

それは星だけでなくこの星に生きるフェアリーやホビット、精霊、樹木や動物達の意識もひとつになって、私たちの心を豊かなエネルギーで満たしていきます。

私達は、その暖かくてなつかしいエネルギーに身を任せていると、また涙があふれてきます。

そして、私達の意識の中に安らぎと力強さが広がっていくのです。

私達は、深く深く沈み、自分の意識が星の意識の中に溶けていく事を感じています。

「私達と星はひとつ、私達と星はつながり、共に満ち溢れる

私達は、星の子供となり光となる

星は、私達の中に満ち溢れ、更なる輝きを生みだす。

輝きは、仲間達と共に分かち合われ、大きな愛となる。」

星の力強い息吹、全ての物を生み育てる大地の愛が私達の意識の中にどっしりと根ざします。

そして、大地から生み出される植物達の意識も私達の体にも宿ります。

私達の体から、植物の芽が伸びてきて葉を茂らせ美しい花が咲き乱れます。

そして美しい花の周りには、蜂や蝶が飛び交い、昆虫達が動き回ります。

開いた花から、植物の種子が綿毛のように飛び立ち、風に乗って遠くまで旅します。

私達の意識も、綿毛と共にふわふわと風に乗って旅していきます。

野原を超え、小川を超え、たくさんの昆虫や動物達と出会いながら、私達の意識は旅します。

そして、綿毛は再び大地に落ち、大地に抱かれながら眠りにつくのです。

私達は、しばらく眠っていたようです。

眼を覚ますと女神アルターニャ様達が一かやかにほほ笑んでいます。

私達は、女神アルターニャ様によって、星の意識とひとつになるイニシエーションを受けとったようです。

今までと違って自分の意識がしっかりと大地に根差しているのが分かります。

自分の中で勇気と強さが目覚めてくるようです。

そして女神アルターニャ様は、私達の心に、愛と美を見失わないようにメッセージを伝えてくれます。

「私達の魂の内側にある美しさが、この星の美を想像します。

皆さんの心の中にある世界が、この世界を創造するのです。

皆さんの心の中にある美しい世界を失わないでください」

とメッセージをいただきました。

女神アルターニャ様とお別れの時がやってきました。

女神アルターニャ様は、まじめな顔で私達に告げます。

「皆さん次は、ペガサス座のエニフ星に行ってください。

そこには傷ついたペガサスがいますので、ア

スクレピオス様と一緒に、そのペガサスを助けていただけませんか。お願いいたします。そして、またここに戻ってきてくださいね。」

女神アルターニャ様と別れたくないのか、遥さんや隆子さんが、女神アルターニャ様に抱きついて離れようとしません。

葵さんが、遥さん達に「さあ、また会えるから、今日はこれでお別れしましょう。」と言って遥さんや隆子さんの手を引きます。

本当は葵さんだって別れたくはないのです。でも私達はやらなければならないことがあります。

第9章 ペガサス座の傷ついたペガサス



PART1 ペガサスとエルフの星 エニフ

ペガサス座のエニフ星は、今回、問題となっているわし座のアルタイル星のすぐ横に位置します。

ベガリタス様の話によると、闇の力の支配により荒廃させられたアルタイル星と同様に、このエニフ星にも闇のエネルギーが入ってきているようです。

しかし、この星の偉大なる意識であるペガサスが闇の力を自分の体で受け止め、必死に星を守っているとの事でした。

私達は、やっとの思いでデネブ星を出てペガサス座のエニフ星に向かいました。

ガイアの神殿のホビット達もデネブ星のホビット達と楽しく交流したようです。

お土産にいくつかの植物の種や私達にはガラクタとしか思えないような道具を大切に抱えてアンタレス騎士団の神龍(シェンロン)に上機嫌で乗っています。

デネブ星からエニフ星へは、やはりペガサス騎士団が私達を導いて行きますが、ペガサス騎士団のアトス様は非常に厳しい顔をしています。

エニフ星の状態は、私達が思っている以上に深刻なのかもしれません。

私達がエニフ星についたときは、深い渓谷の様子が映りました。

それは映画の「ロード・オブ・ザ・リング」で出てくる「エルフの裂け谷」によく似ています。

谷の崖沿いに、映画と同じようにエルフ達の宮殿がある事に、私達は驚きました。

空にはペガサスがたくさん飛んでいる事から、エルフ達とペガサス達が仲良く暮らしている星なのでしょう。

私達は、エルフの神殿に案内されました。エルフ達は「ロード・オブ・ザ・リング」の映画に出てくるエルフ達と同じように、耳がとがりスマートですが屈強な体型をしています。

女性達は美しく、しなやかな体を美しい布で隠しています。

もしかしたら、私達の心の中にあるエルフのイメージを再現して見せてくれているのかもしれません。

神殿の中の階段をいくつもわたっていくと、見晴らしがよい展望台のようなところにつきます。

そこには、赤い布で作られた緩やかなドレスを着たエルフの女王が、私達を待っています。彼女は、手に美しい石がはめ込まれた指輪をしています。

彼女からはとても清楚で気品のあるエネルギーを感じます。

「あなたが龍治さんですね。
あなたの事は、ペガサス騎士団のアトス様からも良くお聞きしています。
天の川銀河の危機を救うために、地球から派遣された方だと聞いております。
どうかこれからよろしくお願いします。」

私は、どうも皆さんから大きな期待をかけられているようです。

「エルフの女神さま、初めまして、これからよろしくお願いします。

私はこの宇宙の事を何も知らない地球人ですから、皆さんのお役に立てるのか、わかりませんが、出来る限りの事はしたいと思っています。」

エルフの女神は、自信なさそうに答える私を見て笑っています。

「あなたは本当に正直な方ですね。
フェアリーの星の女神アルターニャ様もそういっていましたよ。
でも、あなたの力が少しずつ目覚めてきますから心配はいりませんよ。」

この展望台から見る光景はとても美しいものです。

多くのペガサス達が空を飛び交っています。
エルフ達も大きな鳥の上に乗ってペガサス達と共に飛んでいます。

「この美しい星に何が起きているのだろう」
私は独り言を言います。

その言葉を聴いたエルフの女神もうなずきます。

「本当に、この星は美しい星でした。
アルタイル星が闇の力に支配されるまでは、全てが完全でした。

しかし、アルタイル星の人々が、自分達の欲望に負け、闇の力に犯されてしまった事で、この星にも闇の力が入り込んできたのです。今はまだ、この星を守護するペガサス様が、闇の力を必死で食い止めています。そのペガサス様が闇に飲み込まれてしまったら、この星も闇の力によって支配されてしまいます。

そうすると、今私達が見ているこの美しい光景もすべて失われてしまうでしょう。

どうか、この星を救ってください。」

女神の眼から涙が零れ落ちていきます。

PART2 傷ついたペガサス

展望台を出て、女神は、谷底で眠るヒュードラと呼ばれるペガサスのもとに、私達を案内してくれました。

エルフの神殿の階段をいくつも降りていくと、ちょうど谷底にあたるような場所にいくつもかがり火がたかれています。

かがり火の中には、巨大なペガサスが一頭横になっていますが、本来は真っ白いペガサスのようですが、まるでシマウマのように、体中が黒い闇の力でまだら模様になっています。

全身が衰弱して呼吸も弱り、体全身が冷え切っています。

そして苦しそうな声を出していますが、ペガサス自身が、周りの人達を気遣って、自分の苦しみの声を一生懸命に抑えようとしている事が分かります。

周りにはたくさんのペガサスやエルフ達が集まり、体を温めながら祈りを捧げています。

ペガサスやエルフ達も、自分の命を捧げようとするかのように真剣な顔つきで祈っています。

その姿を見た「宇宙の光」メンバー達は沈黙しました。

今までは旅をしていて楽しい事ばかりでしたが、私達は初めて闇の力によって苦しめられている者をまじかで見ただけです。

遥さんは、傷ついたペガサスを見て涙ながらに言いました。

「こんなひどい事ってあるのかしら。
ペガサスさんがかわいそう。」
葵さんも遥さんを抱き寄せながら言いました。

「私達は大変な相手に立ち向かおうとしているよね。

本当に私達の勇気と恐れを乗り越える力が試されることになりそうだわ。」

エルフの女神がヒュードラの体をさするようにして言います。

「もし、ヒュードラ様の全身が、闇の力によって黒く染まってしまえば、ヒュードラ様は息絶えてしまう事でしょう。

そうになると、この闇の力は私達の星を覆います。

私達は全力でこのヒュードラ様を守っているのですが、力が及びません。」

私はペガサス騎士団のアトス様に来てもらい、どうしたらよいか尋ねる事にしました。

「このヒュードラ様は、私達にとっても大切な方です。

何としてでも助けなければなりません。

最初に、アスクレピオス様をここに呼んでいただけないか、そして闇のエネルギーをは

らう力を持ったマスターにも手伝ってもらえると助かります。」

私は、ベガリタス様が、まずアスクレピオス様のもとに、私達を派遣した理由が分かりました。

これからこのような状況をたくさん迎える事になるために、アスクレピオス様の助けが必要となるのです。

でもどうしたら、アスクレピオス様を呼ぶ事が出来るのでしょうか、私にはわかりません。

「龍治さん、心の中でアスクレピオス様に呼びかけてください。

このような状況である事を心の中で伝えるのです。」

ペガサス騎士団のアトス様が、私の心を見抜くように伝えてくれます。

私は心の中で、私が見ている光景を強く思い浮かべ、アスクレピオス様の名前を何回も呼びます。

すると、私達の前に光が輝き、そこからアスクレピオス様がずっと出てこられました。私達は突然の事に、腰を抜かすぐらい驚いています。

「何も驚く事はないのですよ。

私は、龍治さん達の活動を手助けする約束をしたので、あなたが私の事を呼べば、私はすぐにあなたのもとに現れる事になっているのですよ。

これも宇宙の法則の一つです。

心と心をつなぎ合った者同士は、必要な時がきたら、瞬時にその者の元に助けに行く事になっています。

いつでも、私の助けが必要な時は、私の名前を呼んでください。」

アスクレピオス様はそういうとすぐにヒュードラ様の治療にかかりました。

ヒュードラ様のエネルギー状態を手で触りながら綿密に調べています。

そして、持ってきた薬草のようなものをヒュードラ様の体に擦りこんだり、口から飲ませています。

そして、アスクレピオス様の癒しの神殿に会った緑色の石と同じような石の玉を出してヒュードラ様の体の中にすーと入れました。

「体の中に入った闇のエネルギーはこれで少しずつ抜けていくと思いますが、常に闇のエネルギーがヒュードラ様を襲っているようです。

誰か、闇のエネルギーからヒュードラ様を防御できる者がいるとよいのですが。」

私は、ベガリタス様の名前を呼びながら、今の状況を伝え、ヒュードラ様を闇のエネルギーから守ってくれるマスターがいらないか尋ねました。

「龍治さん、ヒュードラ様の元まできちんとたどり着く事が出来ましたね、良かったです。そうですね、ヒュードラ様を闇のエネルギーから守るにはベガリオンが適切かもしれませんね、彼をすぐに送ります。」

ベガリタス様の言葉が終わると同時に、私達の前に光が現れ、そこからベガリオン様が現れました。

彼は、ヒュードラ様の様子を調べると、アルタイル星の方向に向かって、剣を抜き振り回しています。

まるでアルタイル星から来ているエネルギーを切り刻むような仕草です。

そして、彼の剣から光があふれてくると、ヒュードラ様とアルタイル星の間に大きな光の壁のようなものが出来ました。

そしてその光の壁は更に伸びてヒュードラ様を包んでいきます。

アスクレピオス様は、その仕事を見ながら満足げにうなずいています。

「これでヒュードラ様も闇の力から守られるでしょう。

しかし、アルタイル星の闇の力をなくさない事には問題は解決しません。

私も度々ここにきて様子を見ますので、皆さんでヒュードラ様に癒しのエネルギーを送ってあげてください。

それから龍治さん、後で私のところに来てください。」

そういうとアスクレピオス様はずっと光の中に消えていきました。

ベガリオン様もヒュードラ様の様子をしばらく見守ってから光の中に消えていきました。

私達は、しばらくエルフ達と共に、ヒュードラ様に癒しのエネルギーを送っています。

しばらくするとヒュードラ様は、癒しの効果が出てきたようです、静かに眠りに入りました。

エルフの女神が、私達に感謝の言葉を述べます。

「皆さんのおかげで、私達にも希望が芽生えてきました。

本当にありがとうございます。

アルタイル星の闇の力を攻略するときは、私達も全力でお手伝いしますので、どうかよろしく願います。」

私達は、エニフ星の女神やこの星のペガサス達と心をつないだ後、エニフ星を旅立ち、アスクレピオス様のもとに戻る事にしました。

しかし旅の途中においても、この重苦しい雰囲気は続き、誰1人としてしゃべろうとしません。

私達は、これから自分達が行おうとしている事の重要性を感じているのです。

第10章 ヘーラクレース座 のアルケイデース

PART1 ヘーラクレース座のラスアルゲティ の秘密

私達はペガサス座のエニフ星から、再び光の通路を通してアスクレピオス様の元へと戻ります。

今回は、前回のような幻影はなく、すぐにアスクレピオス様の癒しの神殿へと入る事が出来ました。

アスクレピオス様がにこやかに私達を招き入れてくれます。

「今回はごくろうさまでした。

私達と連絡を取る方法を覚えたみたいだね。私達は、肉体だけの存在ではなくスピリットで動いているので、心がつながっている人のところにはすぐにいけるのです。

これから、皆さんにもたくさん仲間が増えてきますが、全ての仲間が何時も皆さんと一緒に行動できるわけではありません。

しかし、あなたが仲間の事を思い浮かべ、名前を呼んでくれたら、私達はすぐに駆けつける事が出来ます。

私達は、スピリット体ですので、同時に異なる場所にも存在できるのでいつでも呼んでください。」

私達は、旅をしながら、宇宙の秘密をひとつずつ学んでいける事がとても楽しくなりました。

そしていろんな仲間が増えていく事も。

「アスクレピオス様、本当にいろんな事を教えていただきありがとうございます。
私達にとっては、驚くような事ばかりが起きて、とっても興奮しています。」

アスクレピオス様は、私の言葉を聴くと、にっこりと笑います。
「それでは、もっと皆さんを興奮させる所にご案内しましょう。
一緒に来てください。」

そう言ってアスクレピオス様は、すぐ近くにあるヘーラクレース座のラスアルゲティ星へと光の通路を作ります。
「ここには、私の昔からの友達がいるはずです。
うまくいけば、君達の力強い味方になってくれるはずだから、ぜひ訪ねてごらんなさい。」

私は、アスクレピオス様に尋ねます。
「私達は、この星に行って誰を訪ねたらよいのですか、教えてください。」
アスクレピオス様は、私の問いに笑って答えます。
「その誰かを探すのが、楽しいのではないですか。」

私達は、言われるがまま、光の通路を通してラスアルゲティ星へと向かいます。
しばらくして、私達はラスアルゲティ星につきましたが、何かどんよりとしてすっきりしない星です。

太陽の光が地上に届いてなく、重たい雲が立ち込めた暗い星です。
私達がこの星についても、誰も迎えに来ませんし、誰かがいる気配もしません。

私達は、来るべきところを間違えたのかと思
い不安になりますが、周りを調べてみます。

美緒さんが不安そうな声で言います。

「この星暗いよね、なんか気持ち悪くないで
すか。」

確かに、今迄の星のように歓迎モードではあ
りませんが、アスクレピオス様の友達を探し
出す必要があります。

しばらく歩くと、山肌に何か扉に閉ざされた
洞窟のようなものがあります。

他には、人工的な建物も見えませんが、と
りあえずこの中に人がいないか、扉を叩いて
みる事にしました。

扉をたたくと、中で重たい鎖を引きずるよう
な音がして、大きな男が扉を開けます。
大きな男は、私達を胡散臭い目でみます。

おそらく、アスクレピオス様から連絡が入っ
ていたと思われますが、何か私達を疑うよう
な目で見ています。

彼は、首を部屋の中に向け、入ってもいいぞ、
というそぶりをします。

私達は全員で入ると窮屈なので、私と葵さん、
美緒さんの3人で中にはいり、後のメンバー
は外で待ってもらおう事にしました。

美緒さんと葵さんが目を見合わせ「ちょっと、
やばい！」という顔をしています。

私は、その大男に自分達の自己紹介をします。
「私は地球から来た龍治と「宇宙の光」のメン
バーです。

アスクレピオス様から、この星を尋ねるよう
に言われましたが、アスクレピオス様から何
かお聞きになっていませんか、
もしかしたら私達は人違いをしているので
しょうか。」

大男は懺然とした表情で「話を聞いている」という仕草をしました。

「それは良かったです。

それであなたは、どなたでしょうか、私達に名前を教えていただけませんか。」

大男は、私の方を見てつぶやきますが、最初の「アル」という言葉がkarouじて聞こえたくらいで名前がしっかりと聞き取れません。

私はどうしたものかと考えていたら、美緒さんが、私につぶやきます。

「ここはヘーラクレス座だから、もしかしたら、、、」

私は美緒さんの言葉を聴いてピンとききました。

「あなたは、あの有名なヘーラクレス様ですね。

ギリシア時代の最大の勇者であるあなたの功績は今でも私達に伝えられています。

あなたがたどった冒険の旅は、天の川銀河の星座としても残っていますから、誰でもあなたの事を知っているのです。

なんて素晴らしいのでしょうか、ヘーラクレス様にあえて、私達はとてもうれしく思います。」

美緒さんは少しはしゃいだ声で言いました。

他の仲間達も、ヘーラクレス様に会えた喜びではしゃいでいます。

しかし、ヘーラクレス様は私達の喜びとは反対に、迷惑そうな沈んだ顔をしています。これでは、私達の仲間になってくれそうな気配が全くしません。

「ヘーラクレス様、一体あなたはどのようにこのような場所に閉じこもっているのですか。

この宇宙には、あなたをしのぐ勇者はいない
と思うのですが。」と私は言いました。

ヘーラクレース様は吐き捨てるように答えます。

「私にはこの場所が似合っているからここに
いるまでだ。

それに私は、あなた方が言うように勇者でも
なんでもない、ただの老いぼれだ。」

ヘーラクレース様の機嫌をどうやら損ねた
ようです。

私達はこの場を退散したほうが良いよう
です。

私達は、ヘーラクレース様にお詫びの言葉を
いって逃げ出すようにその場を離れました。
私達は、ヘーラクレース様と仲良くなれな
かった事に、大きな挫折感を感じて、地球に
戻る事にしました。

PART2 ヘーラクレースではなくアルケイ デース

私はヘーラクレース様の態度がとても気
になっています。

そして、彼が名前を尋ねられたとき「アル」
という言葉が発した事も気になります。

私は、ヘーラクレース様の事を詳しく調べる
事にしました。

そして大切な事に気づいたのです。

それは、オリンポスの大神ゼウスとペルセウ
スの孫に当たるアルクメーネーの子供とし
て生まれたヘーラクレース様の本名は「アル
ケイデース」という名前だったのです。

アルケイデースの事を知ったゼウスの妻であるヘーラーが、自分の夫と他の女性との間に生まれた子供を見逃す訳がありません。勇者として名高いアルケイデースは、ヘーラーによって狂気を吹き込まれ、自分の愛する子供達を火の中に投げ込み殺してしまったのです。

アルケイデースは、深い悲しみに捕らわれ、家を捨てて、自分の罪をあがなうために、ミュケーナイ王エウリュステウスに仕え、有名な12の偉業を果たす事になりました。しかし、アルケイデースは、デルポイの巫女から「ヘーラーの栄光」という意味を持つ「ヘーラクレース」という名前で呼ばれる事になりました。

しかし、ヘーラーこそが、ヘーラクレースの全ての災いを作った張本人でもあるので、アルケイデースにとっては、ヘーラクレースと呼ばれる事自体が苦痛であり、彼の自由を封印するための呪いの言葉となったのです。私達は、その事が分かると、すぐにラスアルゲティ星に戻り、アルケイデースの洞窟へと向かいました。

私達が再び洞窟を尋ねると、彼は失望した顔をして、私達を部屋の中に招きいれます。私は思い切って彼に言います。

「あなたは、アルケイデースですね。」

アルケイデースは、その言葉を聴くと、顔をあげ喜びの表情を見せます。

「そうです。私は、アルケイデースです。誰かがアルケイデースと呼んでくれる事で、ヘーラーの呪縛が解き放たれ、私は自由になるのです。

龍治さん、本当にありがとうございます。

あなたは、私をヘーラーの呪縛から解き放ってくれました。
これで、私は再びアルケイデースとして生きていく事が出来ます。
どうか、あなたのお供をさせてください。」

アルケイデースは、私達に今迄の苦悩を話してくれました。

彼は英雄と称されながらも、危険な冒険を幾度も命じられました。

彼はたとえ、英雄と称されようとも、自分がヘーラクレースと呼ばれている間は、憎んでも憎み切れないヘーラーの呪縛に捕らわれていたのです。

そして、自分の正気が失われ、子供達を火の中に投げ込んだ幻想に悩まされ続けました。彼は、その苦しみから逃れるために、自分の死を顧みず、無謀な戦いに何度も駆り出されていったのです。

アルケイデースは、戦いが終わって死を迎え、神々の座に迎え入れられたとしても、ヘーラクレースと呼ばれているうちは、自らをヘーラーの呪縛から解き放つ事が出来ず、自分を罪人として責めさいなみ続けていたのです。その為に、あのような薄暗い洞窟の中で、自分を罪人として、誰の眼にも触れないように閉じ込め続けていたのです。

私達は、アルケイデースが喜びと共に大きな力と勇気に満ち溢れていく様子が分かります。

アルケイデースは、自分の大切な剣をもち、足についていた鎖を剣で粉々に砕きました。そして洞窟の部屋の扉を、強靱な剣さばきで一撃のもとに弾き飛ばします。

アルケイデースは、私を肩に担ぐように持ち上げ、洞窟から外に出ていきます。

私は、その力強いパワーに圧倒され涙が出てきそうになります。

私は、私達の仲間となっているさそり座騎士団、ペガサス騎士団、アスクレピオス様やベガの仲間達をここに呼びだします。

そして私は大きな声で叫びます。

「今、アルケイデースは、ヘーラーの呪縛を解き放たれ真の勇者となった。

これから、アルケイデースはヘーラクレースの名前を捨てアルケイデースとして生きる事になった。

誰1人として、彼をヘーラクレースと呼んではいけない。

真の勇者アルケイデースとして、私達の仲間
に迎えよう。」

集った仲間達が大きな歓声を上げ、こぶしを振ります。

アルケイデースは、私を肩に担いだまま片手で大きな剣を空に向かって突き上げます。
剣の先から稲光のような光が空に向かって放たれます。

するとどんよりとしていた空から雲がなくなり、まぶしいばかりの太陽が輝き始めました。

荒涼としていた星の風景も、風が吹き抜ける美しい野原や樹木が生い茂る山々に変わります。

私達はここに力強い仲間を得る事になりました。

アルケイデースは、それからというもの常に私のそばにいて私を守り、様々な叡智で私を助けてくれる事になりました。

それから後で知ったのですが、アルケイデースの働きは、地球上にとどまるのではなく、今の私達のように、宇宙の星々を旅しながら行った偉業もたくさんあるようです。

第11章 北極星の創造主

PART1 ベガ星 マスター・ベガからのメッセージ

私達は、「大きな白鳥の六芒星」の秩序を取り戻すために、今日もベガ星に向かいました。ベガ星で、ベガリタス様の神殿に向かったところ、私達を待っていたのはベガリタス様ではなくベガ星のスターピープル達の意識を抱合する大きな女性マスターの意識でした。

彼女はベガ星の惑星意識に近い母性的なエネルギーを持つ存在で、マスター・ベガと呼ばれています。

頭には黄金色に輝く冠をつけ、体の至る所に光り輝く宝石がきらめいているようです。だれかが「紅白歌合戦に出る小林幸子みたい。」と言いました。

確かに、その派手な輝きぶりは普通ではありません。

私達がそのような事を考えていると、葵さんの言葉が心に響きました。

「皆さん、私達が考えている事は相手にすぐ伝わりますので、あまり変な事はかんがえないようにしてください。」

葵さんもそう言いながら少し笑いかけているようです。

マスター・ベガは、いつもはこのベガ星から動く事はないようですので、地球で働くためにベガリタス様の意識を作り出し、ベガリタス様をとおして私達を導きサポートしていたという事です。

マスター・ベガはとても大きな存在ですので、彼女の声は私達の頭の中に直接響いてきます。

「地球から来てくれた偉大なる勇者達よ、皆さんにお会いできた事をとてもうれしく思います。

私達は、皆さんに天の川銀河のとても大切な仕事をお願いする事にしました。

あなた方はきっと、この仕事を成し遂げ、天の川銀河をより良いものにしてくれる事でしょう。」

ベガ星のマスターは、私達にさまざまな事を教えてくれました。

「私は皆さんにいくつかのお話しをしたいと思います。

この話を聞く事によって、皆さんはこの宇宙がどのような物か理解が深まる事でしょう。まず皆さん方がすんでいる日本の神様についての話です。

皆さんはベガリタスを見たときに、日本の神様である天照大御神を連想したと思います。それはもともと日本の神様は、このベガ星から地球に行った者達が作り上げたものです。

その当時は、私達ベガ星だけでなくアンドロメダ座やシリウス星などのスターピープル達が地球に降り立ち、地球人を指導していました。

私達は、ベガ星の風土とよく似た日本を愛し、日本の人々を導いていったのです。

私達はいくつかのグループに分かれ、異なる神を生み出し、皆さんに多様性の学びを行ってもらいました。

ベガ星から地球に行った者達は、ベガの自然を神格化したものでもあります。

海であればサラスバティ、太陽であれば天照大御神、月であれば月読尊、火であれば素戔嗚尊、自然の実りであれば大国主というようにベガ星の自然界の波動を神格化してこの地球に伝え、地球とベガ星の波動を同調させていました。

そのために日本の人々は自然を愛し、太陽や山や海なども信仰の対象としたのです。」

私達はベガ星のスターピープルと日本の神々がとても近い存在であるとベガリタス様に教わりましたが、このような理由があったのだということに納得しました。

この時、怖いもの知らずの隆子さんが、マスター・ベガに質問をしました。

「私達はどうして地球人として生まれたのか、おしえてください。」

マスター・ベガはにこやかに笑って答えました。

「それはいい質問ね、皆さんにとってはとても重要な事ですからね。

皆さんが地球に生まれた目的は、物理次元の制約が多い地球で、自らの目的の為に苦労しながら生きていく事によって、皆さんの魂を飛躍的に成長させることができるからなのです。

地球では、皆さんは肉体を持って物理次元で生活することで、様々な次元の存在や星の人達と出会い、多くの事を学ぶ事ができますのです。

私達のように完全にスピリチュアルな存在になって肉体を失ってしまえば、おなじ波長の人としか出会えません。

異なる波長の人とは接触することができませんし、その様な世界にも行けませんので、大きな学びを得ることが出来なくなります。

しかし人間は肉体を持つことで様々な世界や存在と交流する事ができるので、自分に必要な体験ができるのです。

実は、天の川銀河を再建するために皆さんが選ばれたのはこの地球人の特質が重要だったのです。

ただし、人間として生まれたならば、皆さんのスピリットや魂の事はよくわからなくなるので、皆さんが本当は誰なのかも、分からなくなります。

また過去の記憶も失いますが、学びのためにはその方が都合がよいのです。」

マスター・ベガの話を聞いて、私達が天の川銀河の再建のために選ばれた理由が少しだけわかりました。

葵さんも納得したような表情をしています。

私達は、マスター・ベガから大切なメッセージと光をたくさんいただいた後に、ベガリタス様と共に次の目的地に向かってベガ星を出発することにしました。



PART2 北極星の守護者 小熊座のコカブ星

ベガリタス様が私達を前にして言いました。
「今回の旅の目的は、創造主様が待っている
っしゃる小熊座のポラリス（北極星）へと向
かう事です。

皆さんは創造主様にお会いすることは初めて
かもしれませんが、これから皆さんが旅を
続ける中でさまざまな創造主様にお会いす
る事ができると思います。

地球では創造主様は1人という概念があり
ますが、決して1人ではありません。

創造主様の役割や働く場所によっていく人
もの創造主様がいらっしゃいます。

まずそのことを覚えておいてください。」

私達はその時は創造主様の事をよく理解で
きていなかったので、ベガリタス様の言葉
を受け流してしまいましたが、この事は大変重
要な意味を持っているということが私達の
活動が進むにつれ分かってきました。

私達はベガリタス様を先頭にして進みまし
た。

神龍（シェンロン）達は進みながら光の通路
を作っていきます。

さすがに北極星までは遠く、次元もかなり異
なるので時間がかかるようです。

私達は途中で小熊座のコカブ星に入りました。

このコカブ星は、北極星の入り口であり、北
極星に入るための大切なゲートの様です。

最初は暗くて、周りの状況が見えなかったの
ですが、マスター・ベガに頂いた光を自分達
の胸から広げていくと、周りが朝焼けのよう
な美しい光景に変わり、コカブ星の容姿が見
えてきました。

そして、そこに現れたのは、テディベアの様
な姿をした男の子です、さすが小熊座です。

「君たちは地球からやってきたのかい。
それも日本からやってきたようだね、
もう梅雨はあけたかい、もうすぐ七夕だね。」

私達はいきなり梅雨や七夕の話が出てきた
ので驚きました。

美緒さんが驚いた声で聴いています。

「えー、どうしてそんなこと知っているの
ですか。

それに・・・熊がしゃべっている。」

確かに見た目はテディベアですが小熊座の
マスターであることには変わりないよう
です。

「人を見かけで判断してはいけないよ。
このコカブ星には宇宙の図書館があつて
宇宙の事は何でも分かるのさ。

皆さんが住んでいる日本の事も調べたら
すぐわかるよ。」

私達が日本から来たとわかれると、新聞紙で折
った紙の兜（昔子供の日に作ってもらった）
をかぶって見せたり、自分の名前を、小熊に
乗った金太郎を真似して、小熊座の金太郎と
呼んだりしていました。

皆さん爆笑でした。

宇宙にもこんな茶目っ気のあるマスターが
いるなんて驚きでした。

葵さんが珍しくマスターにお願いをしてい
ます。

「あの金太郎さん、もし宜しければ宇宙の図
書館を見せていただきたいのですが・・・」
葵さんのお願いに金太郎マスターは、「いい
よ」と軽く返事をしてすたすたと歩き始め
ました。

私達も後を追います。

金太郎マスターは、私達を宇宙の図書館に連れて行ってくださり、自分にとって必要な情報を調べるように伝えてくれました。

私達は、初めて出会う宇宙の図書館に、たじろいでいます。

すると小熊座の金太郎マスターは、図書館の使い方を教えてくれました。

「この宇宙には、いくつかの星に、宇宙の大切な情報や星々の歴史や特性などがおさめられている図書館があるんだよ。そこに行くと自分が欲しい情報が手に入るんだ。

使い方は簡単さ、たくさんある本棚から、その情報が書かれている本を探してもいいんだけど、僕だったらこうするね。」

小熊座の金太郎マスターは、目の前にパソコンのようなものを出して見せます。

そして、キーボードにカチャカチャと知りたい情報の事を入力してボタンを押すと、パソコンの画面に知りたい情報が出てきます。つまり、自分の机にあるパソコンで情報を検索するのと同じ方法のようです。これなら、私達も簡単にできます。

私達も目の前にパソコンをイメージして、今回の旅で訪れる星座や星の名前を入力していきます。

すると、私の心の中に次々と情報が入ってくるようです。

私達は、自分達のハートに必要な情報をどんどん入れて持ち帰る事にしました。

金太郎マスターはそのような私達の姿を見てにこりと笑いました。

PART3 北極星の創造主と出会う

コカブ星から、さらに光の通路を作り、私達は北極星へと入りました。

北極星に入ると荘厳な光のドームがあり、そこに入ると私達の意識は光の中に吸い込まれていきます。

私達が、光のトンネルを抜けた所に待っていてくれたのは、北極星の創造主様のようです。創造主様は神々しい光に包まれ、とても大きな存在です。

私達の体はとても小さく感じられ、最初は、創造主様の足の親指くらいしか見えません。創造主様は、私達をその掌にすくい取り、自分の顔の所まで持ち上げてくれましたので、ようやくそのお顔を拝見する事ができました。

「やあ、皆さん、お待ちしておりました。皆さんが、地球人としてここに来てくれた初めての人達です。

皆さんにお会いできた事を、心から嬉しく思っています。」

私達が思っていたよりも、何かフレンドリーな創造主様です。

「あの、私達を待っていて下さったなんて光栄です、ありがとうございます。

私達は、ベガリタス様に言われた通り動いているだけですので、それほど、大した存在ではないのですが。」

私は、創造主様を前に言葉を失ってしまいました。

「やはりベガリタス達が言うように、正直者ですね。

でも龍治さん、今回の仕事は、地球の人達にぜひお願いしたい仕事なのです。

こと座のベガ星とわし座のアルタイル星は、皆さんにとってはとてもなじみが深い星です。

何しろ、天の川の織姫と彦星ですからね、この2つの星は地球にとっては古代からの古い友達なのです。

しかしアルタイル星は、闇の支配を受け、私達の光を受け付けなくなっていました。私達は、自分達と近い次元の星々には自由に行く事が出来るのですが、アルタイル星のように、闇の中に落ちた星には私達はいれないのです。

光がある星や闇に落ちた星等、様々な次元の世界に自由に入れるのは、天の川銀河の中でも地球の方だけなのです。

地球には、様々な次元や世界につながる多次元通路というものがあります。

そこを通って様々な星や世界にいける人が、地球にはごく少数ですが存在しているので

す。

それが龍治さん、あなたなのです。

私達は、あなたと共に行く事で、あなたの助けを借りてどのような星にも入る事が出来るのです。

今回、闇に落ちたアルタイル星を助けるために、あなたの力がどうしても必要なのです。」

何かしら、大変な話になっています。

まさか、創造主様からお願いされるなんて思いもありません。

「あ、はい、そうですね。」

私の頭は、創造主様から言われた事を理解するのでいっぱいです。

もはや混乱しているといってもよいくらいです。

「龍治さん、私が言った事をすぐに理解する必要はありません。

あなた方地球人にしてみれば、他の星にスピリット体でいける事だけでも信じがたい事ですし、このように創造主と面と向かって話をしているなんて、普通の人は信じる事もできないでしょう。

しかし、私は、あなたの前にいます。

どうか、この事を受け入れてください。」

「あ、はい、わかりました。

私達の常識をすてて行動するようにします。」
自分でも何を言っているのかわからなくなっています。

仲間達が、私の動揺ぶりがおかしくて笑っています。

創造主様は、さらに私達に宇宙の話をしてくださり、また私達1人1人にもメッセージをいただきました。

創造主様が、最後に私達に特別な事をしてくれるようです。

「それでは、これから皆さんに、北極星の創造主の印を施しましょう。

この宇宙の星々には、様々なスターピープルやマスター達が存在しています。

しかし、この宇宙に存在する者達は、創造主の命令には従うものです。

皆さんの額に、これから北極星の創造主の印をつけたいと思います。

この印がある事で、皆さんは北極星の創造主の使いという立場になります。

私に従うスターピープルやマスターは、きっと皆さんの仕事をお手伝いしてくれる事でしょう。

そして、天の川銀河の他の創造主達も、皆さんの事を大切な友人として迎えてくれる事でしょう。

これからの旅が、実り豊かなものになるように、私も見守っています。」

私達の額を、温かい光が貫いていきます。創造主様は、私達の額に特別な印を作ってください、私達の光を高めてくれました。皆さん、創造主様のすごいエネルギーに汗が流れおちているようでした。

私達は、帰りは、ポラリス星からデネブ星を通してベガ星に戻りました。これで、ベガ星からポラリス星、ポラリス星からデネブ星、デネブ星からベガ星というきれいな二等辺三角形の光の通路ができて、この3つの星の間にエネルギーが循環できるようになりました。

ベガ星とデネブ星は、このポラリス星の創造主の光を直接受ける事によって以前にもまして光輝いています。そのためか、ベガ星に帰ってきた時、マスター・ベガの姿が、一回り大きく輝きもましたように見えました。そして私達も地球へと戻りました。

帰り道、遥さんや美緒さんが小熊座の金太郎の話をしています。遥さんは、かわいいものが好きなのでお気に入りになったようです。私と葵さんは、心の中で創造主が言われたことを思い返しています。今夜は初めて会えた創造主様の事を夢見ながら眠りにつけそうです。

第12章 大天使ラジエル様 と光の六芒星

PART 1 大天使ラジエル様と光の六芒星

今夜の「星のツアー」が始まりました。
皆さん、前回創造主に会えたおかげで今まで
以上にパワフルになっています。
自分達の可能性がどんどん広がっていつて
いるのを感じます。
今日は再びベガ星に向かいました。

ベガ星に降り立つと、いつもの様子と少し異
なります。
天女のような方が、ひらひらと空から降りて
きて、私達を山の頂へと導いていきます。
私達は、何が起きるのか、まったくわからな
いまま、天女達についていきます。

山の頂に神社のようなものがあります。
まさに神聖で秘められた神社の奥宮のよう
な雰囲気です。
中に入ると禊の水のようなものがあり、私達
は、その水で心と体を清めます。
すると、その場所に白い光が満ちてきて、私
達は吸い込まれるように上の世界へと導か
れます。

私達はどんどん上がっていくと、さらに高い
山の頂きにある展望台のような場所につき
ました。
しかし、私達の眼下に見えるのは、大地や海
ではなく、煌めく星々です。

私達は、いつもの「大きな白鳥の六芒星」の星々ではなく、とても高い次元に来た事がわかります。

葵さんが私に言います。

「この場所はすごいエネルギーです。自分の意識を保つ事がとても難しいわ。気が遠くなりそう。」

メンバーは意識を保つ事が困難になるくらい、すごい光で包まれていたようです。そしてそこに、現れたのが大天使ラジエル様です。

大天使ラジエル様は、この宇宙の神秘を司り、秘密の領域を管理する偉大な大天使です。

「皆さん、大天使の光の世界へようこそ、地球の人々がここに来る事は、本当に珍しい事です。

この天の川銀河にたいして大きな役目を持っている人達だけがこの世界に入れるのです。

皆さんは見たところ、北極星の創造主の印をお持ちです。

という事は、皆さんが行う仕事は、創造主が計画された仕事であるという事になります。私達は、創造主の仕事を手伝う立場にありますので、皆さんの事もお手伝いさせていただきます。」

メンバー達が大きな歓声を上げます。

彼女達にとって大天使は、あこがれの的であり、夢の存在です。

やはり隆子さんが、大天使ラジエル様に近づいて話をします。

「大天使ラジエル様、あなたは、私達の憧れでした。

あなたにあえて、みんなが喜んでいます。」

大天使ラジエル様にサインでももらいそうな勢いで、メンバーの女性達が大天使ラジエル様を囲んでいます。

「はい、皆さんわかりました。
私は、いつも皆さんの事を守護し導いていますよ。
いつでも皆さんのそばについていますから安心してください。
もちろん魔法のワンドも差し上げますからね。」

女性達の勢いに圧倒されたのか、大天使ラジエル様があわてて、女性達をなだめています。そして自分の羽の間からいくつもの輝くワンドを取り出してメンバー達に配っています。
さすがの葵さんもワンドをもらってはしゃいでいます。

「龍治さんはこのワンドをお使いください。これはあなたの力をもっと引き出してくれるでしょう。」

そうやって私にアメジストの大きな石がはめ込まれた特性のワンドを差し出しました。

「私も頂けるのですか、大天使ラジエル様ありがとうございます。」

大天使ラジエル様がにっこりと笑い、「あなたはもともと私の魔法学校の生徒でしたから。」と言いました。

メンバー達が落ち着いたところで大天使ラジエルは、私達に話しを始めました。

「皆さんは、今回この宇宙で初めての仕事に取りかかっているわけですが、この宇宙では、地球の常識とは異なる法則があります。

それは、自分が思い描いた事が現実となるという事です。

皆さんが地球の常識で、これが出来る、これは出来ない、と決めている事が、幻想である事に気づきます。

宇宙では、自分が出来ると決めた事は出来るようになりますし、自分がこのようになって欲しいと思っている事はそのようになります。

これをみなさんの言葉では「魔法」と呼んでいるのです。

しかし、宇宙では、この魔法こそが常識です。これから、宇宙で仕事をする為には、自分自身を制限する事なく魔法を大いに使ってください。」

大天使ラジエルは、私達に「魔法の杖（ワンド）」見せて言います。

「さて、これは皆さんが、欲しいと願った大天使ラジエル特製の魔法のワンドです。

素敵なクリスタルがついていてとても神秘的ですね。

でも、これは皆さんの気持ちを高めるための物です。

本来は、このワンドには特別な力はありません。

このワンドを持つ事で、皆さんが魔法使いになった気分にしてくれるだけでも十分です。まず何事も形から入らないとね。」

そう言って大天使ラジエルは、ワンドを振りながら、「美しい花をここに！」と言います。すると美しい花が、ワンドの周りから溢れるように出てきます。

女性達は大喜びで、自分達もワンドを振りながら、花やクリスタルを出して喜んでいます。

「大切な事は、自分を信じる事です。自分は望んだ事を実現する力があると信じる事です。」

大天使ラジエルは、そういつて私達のハートに、「魔法の光」を灯していきます。
自分を信じる気持ち、相手を信じる気持ち。
自分を愛する気持ち、相手を愛する気持ち。
私達の心の中に、大天使ラジエルの言葉が響きます。

PART2 光の面（フロアー）

私達の心に光を満たすと、大天使ラジエルは言います。

「さあ、それでは、真面目なお話をしましょう。

今回の仕事の目的は「大きな白鳥の六芒星」と呼ばれている星達に光の通路を繋ぎ、その光を高めていく事ですね。

その為に、皆さんは星と星の間に光の通路を作り、エネルギーの循環を良くしていかなければなりません。

しかし、光を線でつなぐだけでは、その光は決して大きくなりません。

星と星の間に描かれた線を広げて面で繋ぐ事によって、六芒星を繋ぐ星々は完全なエネルギーの循環を可能にするのです。

そしてすべてが同じ面で繋がれた時、私達は、その上をスケートで滑るように、軽やかにそしてスムーズに移動できるのです。」

この宇宙空間に作られた光の通路を広げて面にする。

私の中で大天使ラジエルの言葉が、何度も反復されます。

「そうです、その為に皆さんは魔法を使うのです。

最初に、昨日作ったベガ星からデネブ星そしてポラリス星を繋いでいる二等辺三角形をすべて光で埋め尽くし、光の二等辺三角形の面を作ってみてください。

まるで、自分がとても大きな姿をした創造主であるかのように考えて下さい。

あなたの両手の上に、昨日作った星々をつなぐ光の二等辺三角形があります。

今はまだ、線でつながっているだけですが、あなたの想像で、線をどんどん大きくして、二等辺三角形が光で埋まる様子を想像して下さい。」

私は、大天使ラジエル様が言うように、自分の前に、光で満ち溢れた二等辺三角形を想像します。

「次に、二等辺三角形の短い線を固定して、二等辺三角形の長い線が重なった頂点を、わし座のアルタイル星に持って来て下さい。

これで、ポラリス星、ベガ星、アルタイル星、デネブ星が繋がる光の面が出来ましたね。

そして同じように、一つの面を固定して、光の二等辺三角形をひっくり返していくと、やがて白鳥の六芒星と呼ばれる星の全てに光が繋がります。

それも線ではなく光の面で繋がっているのです。」

私達が体の前で想像しながら作っている白鳥の六芒星すべてが光の面でつながりました。

「さあ、みなさん見てごらん下さい。」

大天使ラジエルが、私達に、先程まで星々が輝いていた宇宙を指さしました。

するとそこには、星の光をすべて包み込むように、美しい光の面（フロアー）が出来ていました。

勿論、闇に落ちたといわれているアルタイル星も、美しい光の面（フロアー）の中で輝いています。

星々の高次元の世界では、もうすでにアルタイル星も光に輝いているのです。

「皆さんは、高次元に作った光の面（フロアー）を通して、白鳥の六芒星の中にある星のすべてに自由に行き来ができるようになります。

さあ、次はこの高次元に作った光のフロアーを、少しずつ下におろして、現実世界にまで光を満たしていきましょう。」

私達は、高次元に創った光の六芒星のエネルギーを、どんどん下の次元にまで降ろしていきます。

この高次元の場所に最初に「光のフロアー」ができる事により、下の次元で何が起きようとも、この光のフロアーは消える事がないそうです。

そのために、私達をこの高次元にまで一気に引き上げ、少しずつ下の次元にまで光のフロアーを作る仕事をさせたのだという事がよく理解できました。

私達が作った光のフロアーは、物質世界から高次の世界まで何層にも分かれて光輝いています。

これで、星々の移動がとても自由になります。しかし、この光のフロアーの素晴らしさを知るのは、アルタイル星を攻略する為に、多くの星からたくさんの星の人達が一斉にアルタイル星に入る時となるのです。

第13章 白鳥座の北十字を 輝かせる星々

PART1 女神アルターニャ様の願い



私達は大天使ラジエル様と別れた後、白鳥座のデネブ星に呼ばれていきました。

デネブ星に行くと聞いただけでも、メンバー達は大喜びです。

皆さん女神アルターニャ様とフェアリー達に会いたくて仕方がないのです。

私達は、神龍（シェンロン）と一つになり、光の通路を使ってデネブ星に入りましたが、今までよりも早くそしてスムーズに移動できているのは、やはり大天使ラジエル様の教えで光の面（フロアー）を作ったおかげでしょう。

デネブ星の神殿で女神アルターニャ様が私達を持っています。

今日は今までよりも女神アルターニャ様がさらに輝いて見えます。

いえ、女神アルターニャ様だけでなくデネブ星のすべてが輝いているのです。

女神アルターニャ様が嬉しそうに私達を迎えてくれます。

「龍治さん、そして皆さん、本当にありがとうございます。

皆さんが私達の星と北極星の創造主様の光をつないでくれたおかげで私達の星は今までと同じように輝き始めました。

私も、そしてフェアリーやホビット達も生命力が増し光輝いています。」

私と共に来ているメンバー達も、更に輝きを増した女神やフェアリー達を見て喜んでいきます。

大天使ラジエルからもらった魔法のワンドを見せて、「魔法のワンドのおかげよ。」と言っているメンバーもいます。

女神アルターニャ様が、私達を前にあらたまった顔つきで話を始めました。

「龍治さん、白鳥座にはいくつもの星があり、いくつもの異なる種族が住んでいます。

私達は、たとえ異なる種族であったとしても、とても仲が良く、白鳥座の北十字と呼ばれて、共に活動していたのです。

しかし私達の星々もアルタイル星の影響を受け、うまくコミュニケーションがとれなくなり、いつしか心が離れ離れになってしまった。

お互い存在している次元が異なってきたために、会うこともできなくなってしまったのです。

私達は、出来ればこの機会に、もう一度白鳥座の星々を繋ぎ合わせ、白鳥座の北十字を復活させたいと思います。

その為に、龍治さん達にお願いして、ひとつひとつの星を巡り、どのような状況になっているか調べてもらい、その問題を解決してもらいたいのです。

アルタイル星を光の星に戻すためには、白鳥座の星々がひとつにまとまる必要があります。

私達の北十字がしっかりと輝くことで、アルタイル星の闇を取り除く力も生まれてくるのです。

どうかよろしくお願いします。」

女神アルターニャ様は、私達が忙しい事はよくわかっていて、本当に申し訳ないという顔をして頼んできます。

でも女神アルターニャ様の頼みを断れる人などいるはずもないのです。

私よりも先に遥さんたちが答えました。

「女神アルターニャ様、お任せください。私達が一生懸命に、女神アルターニャ様の願いをかなえるように努力します。」

隆子さんも答えます。

「私も、白鳥座の星々が今まで通り輝くように力を尽くします。」

いつの間にか彼女達の中にも私達が行っている活動への責任感や積極性が出てきたようです。

あるいは、女神アルターニャ様のお役に立ちただけなのか、分かりませんが・・・

女神アルターニャ様は、遥さん達の言葉をとて嬉しく思っているようです。

目にきらりと涙が光りました。

「白鳥座の北十字の中央にあるのが、サドルという星です。

この星は海の中の世界です。

イルカやクラゲ、魚がいて非常に透き通った生命体が存在しています。

この星には私のように海の女神がいるはずですので、彼女をさがしてください。

またアルビレオ星は、白鳥座の北十字の中ではとりわけ文明が進み偉大なるマスター達が住んでいました。

白鳥座の北十字の中心となって活躍し、地球にもとても深い関係を持っていたのがこのアルビレオ星です。

しかし、アルビレオ星は隕石に襲われてしまったという話も聞きましたし、今はそのマスター達とも連絡がつかないのです。

この2つの星と、サドル星をサポートする白鳥の両翼にあたるギユナ星ともう一つの星がひとつになって輝き始めると、白鳥座の力は、数倍にもなるのです。」

PART2 サドル星 海の女神

私達はまず、サドル星に神龍（シェンロン）に乗っていきました。

私達が進む方向を導く女神アルターニャ様の意思を強く感じます。

私達は、神龍（シェンロン）と共に、海の中に入ります。

この星では、地球の海と同じように、色とりどりの魚達が群れを成して泳いでいます。イルカや小型のクジラ達も泳いでいるようですが、私達が海の中に入っていくと魚達は驚いて逃げて行ってしまいました。

私達はしばらく海底を巡っていると、美緒さんが急に声を挙げました。

「龍治さん見て、向こうにまるで大きな貝を組み合わせたような建物がありますよ。」
まるで様々な貝が折り重なるように建物の壁に張り付いて、中の建物を守っているようです。

私達がその前で立ち止まり、中を覗こうとしたら、中から異変に気づいて3人のマーメイド達が出てきました。

急にマーメイドが出てきたので私達も驚いたのですが、遥さんと隆子さんの不思議な生き物が大好きなコンビが前に出ました。
そしてマーメイドと心の中で会話をしているようです。

「あなた方は、どなたですか、何のためにここに來たのですか。」

マーメイド達はいぶかしげに問いたします。

「私達は地球からやってきた人間です。
デネブ星の女神アルターニャ様から白鳥座の北十字を復活させる手伝いをしてほしいと頼まれましたので、ここにやってきました。
お邪魔だったでしょうか。」と隆子さんが答えました。

マーメイド達は、女神アルターニャ様の名前を聴くと嬉しそうな表情を見せます。

「しばらくお待ちください。」とマーメイドの1人は声をかけ、建物の中に入っていました。

マーメイドの様子を見た「宇宙の光」のメンバー達はとてもうれしそうです。

残っている2人のマーメイドの近くによって話しをしています。

先ほどのマーメイドが戻ってきました。

「皆さんが、このサドル星に来られた事を、女神様も大変うれしく思っているようです。どうぞ中にはお入りください。」

私達は、神龍（シェンロン）を外に待たせて建物の中に入っていきます。

中には、まるで透き通ったような白い肌を持つ女神が、にこやかな顔をして立っています。

「皆さん、このサドル星に良くいらしてくださいました。

私はサドル星の海の女神ジェンダーです。私達の星は、ご覧のとおりすべてが海です。海に生きる生命達が、この星の住人なのです。」

隆子さんが言いました。

「女神ジェンダー様、本当に美しい海ですね。地球の海よりも純粹でさらに美しい海です。私達も心が癒されるようです。しかし、女神アルターニャ様が皆さんの事を心配していましたが、何か起こったのですか。」

女神ジェンダー様は、少し悲しそうな顔をして答えます。

「私達の星に直接被害はなかったのですが、アルビレオ星とギユナ星に、隕石が落ちてしまい、この2つの星が大きな被害を受けてしまいました。

この星に住んでいたマスターとも連絡が取れないのです。

私達の星は、女神アルターニャ様の星も含めて、白鳥座の北十字をつくる4つの星の中心となる星です。

この4つの星のバランスが大きく崩れてしまったために、私達の星も力を失い、女神ア

ルターニャ様と連絡を取る事さえもできなくなってしまったのです。

どうか、アルビレオ星とギユナ星を訪ねて、マスター達を助けてあげてください。

そうする事で、私達の星のパワーも回復してきます。」

「女神ジェンダー様、よくわかりました。皆さんが言われた通り、それらの星も尋ねてみて、マスターの事を探してみしましょう。」私は答えました。

私の横で、美緒さんが、女神ジェンダー様に尋ねます。

「このサドル星のパワーとはなんですか、教えてください。」

女神ジェンダー様は、私達の仲間の女性達を見て、少し大人っぽい表情をしてみせます。

「このサドルという星は、女性性の象徴でありハートのエネルギーに深く関係しています。

この星とデネブ星の光が一つになる事で、愛と美の力が広がってくるのです。

もちろんその時には、皆さんにもたっぷりとこのエネルギーをお分けしますね。」

女神ジェンダー様の女性らしい表情から、愛と美の力という言葉が出るだけで、女性達は興奮しています。

素敵なプレゼントになりそうです。

PART 3 ギユナ星と叡智のクリスタル

私達は、サドル星を出て、白鳥座の翼の場所に位置するギユナ星へと向かいました。

最初は幻影がかかっていてうまく入れませんが、ある扉の場所に私達が立つと、私達の額にある創造主の印が光り始めました。

最初は何が起きたのか、私達は見当がつきません。

創造主の印から光がはなたれ、扉にあたると、その扉が左右に開きます。

最初見えて来たのは、隕石が衝突して荒野となってしまった世界です。

そのすさまじい有様に私達はたじろいでしまい、どうしようかと思いました。

私達は恐る恐る中に入ると、荒野となった世界がすーっと消えて、地下世界のような場所が見えてきました。

ここに住んでいた人は、隕石の衝突や地上での生活の危険性を知って、あらかじめ地下世界を準備していたのかもしれませんが。

そこは、とても美しい文明都市のような感じですが、あまり人々がたくさん住んでいる様子がありません。

私達が、地下都市に入ってきた事に気づいたのか、ギユナ星のマスターが、私達の前に現れました、

彼は背が高く、白い服を身にまとい、長い白髪を後頭部のほうでまとめた姿をしています。

「あなた方は、どちらからいらしたのですか。この白鳥座の方ではないように思われますが。」

私は丁寧にあいさつをして答えます。

「私達は地球からきた地球人です。

闇に落ちたアルタイル星を救って欲しいとベガリタス様から頼まれて、白鳥座やペガサス座の星々を回っています。

ここには、女神アルターニャ様から、白鳥座の北十字を復活させるために、白鳥座の各星を回ってほしいと頼まれてきました。」

「そうだったのですか、最近この白鳥座のエネルギーが大きく変わってきたのはそのせいだったのですね。

本当にありがとうございます。」

そうするとギユナ星のマスターは、私達を町の中に導き入れてくれました。

美しい街並みを歩きながら、美緒さんと葵さんは、あの建物素敵ね、とかここではみんなどんな生活をしているのかしら、などとたわいもない事を話しています。

遥さんと隆子さんは、この星にはどんな不思議な生き物がいるのかしらと町の中をきょろきょろと見回しています。

ギユナ星のマスターは静かなホールのような場所に私達を案内してくれました。

ここは地球のように太陽の光が当たらない地下世界なのにどうして明るいのだろうと私は考えました。

ギユナ星のマスターの勧めで椅子のようなものに座りましたが、お尻が椅子についているというよりも体が椅子の上で浮いている感じがします。

地球によく似たところもありますが地球よりも科学力が進んでいるようです。

ギユナ星のマスターが語り始めました。

「ある時に、この星に大きな隕石が急に落ちてきたために、星の地軸が変化して星のエネルギーのバランスが崩れてしまいました。そして、星は次元降下して他の星との連絡が取れなくなってしまったのです。

この隕石は私達の星だけでなくアルビレオ星にも落ちたのだと私達は聞きました。

私達はこのような事態を予測して、小さな地下都市を作っていましたので、そこに避難できた者は助かったのですが、隕石の落下により多くの人々が亡くなりました。かろうじて生き残った者達は、この地下都市で暮らし、星の復興のために努力してきました。

ところが先日、突然この星のエネルギーが変わったのです。

今迄、降下していた次元から、少しだけ前の次元に戻ってきたのです。

そのために、私達にも生命力が戻り元気になったような気がします。

これも、あなた方がなさった事でしょうか。」

美緒さんが、少し自慢げに答えます。

「もちろん、そうです。

大天使ラジエル様と一緒に、白鳥の六芒星と呼ばれる星々を光で包み、さらにその全域を光で満たし、光のフロアーを作ったのです。大天使ラジエル様は、光のフロアーが出来る事で、全ての星が光に包まれるとおっしゃっていました。」

美緒さんは大天使ラジエルから頂いたワンドを振りながら、マスター達に説明します。

ギユナ星のマスターの周りには、話を聞いて多くの人達も集まってきました。

皆さん、この話を聞くと、口々に「なんてすごいんだ、」

「さすが大天使ラジエル様。」

「この方達は、大天使様の使いの人達なんですネ。」

と、私達の事を褒めたたえています。

私はすこし気まずくなってマスターに言います。

「私達はベガ星の女神様や女神アルターニャ様から言われた通りの事をしているだけです。

私達が決して偉いわけではないのです。

それで、皆さんの星は元に戻ったのでしょうか。」

マスターはうなずきながら答えます。

「もちろん完全ではないのですが、あとは自分達で何とかできます。

これで女神アルターニャ様や女神ジェンダー様とも連絡がつきますのでご心配なく。」

マスターはお礼に、クリスタルを一つずつ私達にプレゼントしてくれました。

「どうか、このクリスタルをお持ちください。このクリスタルは、あなた方の思考を活性化し意識を高めてくれるサポートをしてくれるでしょう。

これから皆さんが行おうとしている事は、地球の人々にとっては、初めての経験となるはずですから、きっとこのクリスタルが、皆さんを助けてくれますよ。」

メンバー達は澄み渡ったクリスタルを手に取り、とても喜んで、お互いのクリスタルを見比べています。

「そして、これから行くデルタ星は、私達の星の影響で大変な事になっているかもしれません。

どうかデルタ星の女神を見つける事が出来たら、助けてあげてください。

きっと皆さんでしたらできるはずです。」

とギユナ星のマスターは、私達にお願いしてきます。

私達は、マスターにお礼を言って次の星へと向かいます。

PART4 デルタ星の泉に眠る女神

私達は神龍（シェンロン）とひとつになってギユナ星を飛び立ちます。

女神アルターニャ様の意識が、私達をこれから向かう星へと導いています。

私達が来たのは、ギユナ星と対極をなす翼の星、デルタ星です。

デルタ星に降り立とうとすると深い霧に覆われて周りが見えません。

アンタレスの騎士団の団長であるアトラス様が私達を止めました。

「この星は非常に危険な状態ですので、私達が調べてきます。

それまでしばらくお待ちください。」

そういつてアンタレス騎士団とペガサス騎士団は星に降り立っていきました。

やはり、彼らは宇宙の事をよく知っているの
で、どこに危険があるか感じる事ができる
ようです。

しばらくして騎士団が戻ってきました。

「この星はエネルギーの状態が不安定な
ので、神龍（シェンロン）達が一度に入ると危
険かもしれません。

ここは少ない人数でペガサスに乗って移動
されたらよいと思います。」

私達はアトラス様の指示に従い、私と4人の
メンバー達で降りることにしました。

デルタ星は、深い霧に覆われた星です。
元々は美しい花が咲き乱れる野原や動物達が暮らす森だったようですが、ギユナ星が隕石の落下の影響で次元降下してしまったせいで、この星も影響を受けバランスを崩してしまったようです。
今では、霧に閉ざされたひっそりとした星になってしまったようです。

美緒さん達が、身を寄せながら不安がっています。

「ここ、怖いよね、帰ろうよ。」
隆子さんが、そんな美緒さんを見て「ここでも何かもらえるかもしれないよ。頑張ろうよ。」と訳の分からないフォローをしています。
私達も、ここで帰る訳にはいかないのです。

私達の額につけられた創造主の印が光ると、深い霧が少しずつ晴れてきました。
すると、荒れ果てた森の中に、大きな角を持つ一頭の牡鹿が私達の前に立っています。
牡鹿はしばらく私達を見つめていると、私達について来いと言わんばかりに、森の中の小道を歩き始めました。

私達は、鹿にいざなわれて泉に辿り着きました。
その泉はひっそりと静まりかえり鳥の声さえもありません。

私達が、牡鹿の後をついて、その泉を半周ほどすると、泉のほとりに、意識を失って倒れている美しい女神様がいらっしゃいました。

そこだけ太陽の光が当たっているように明るく、花々が周りを美しく飾っています。
私達は、この眠りについた女神達をどのようにして目覚めさせたらよいかわかりません。

目覚めるように祈って見ましたが変化はありません。

魔法使いのロイドもいろんな呪文を試していますが効果がないようです。

その時、葵さんが、ギユナ星のマスターからもらったクリスタルを取り出しました。

「この星は、ギユナ星と深い関係がある星でしょう。

ギユナ星のマスターも、きつとこの星の状態は知っていると思うの。

そしたらその為に役に立つ物を私達にくれるはずだから、もしかしたら、あの時のクリスタルが、この女神を目覚めさせる役に立つかもしれないわ。」

葵さんが、クリスタルを女神の頭の横に置きます。

他のメンバー達もクリスタルを取り出して、女神を取り囲むように置きました。

そして私達が、祈りをささげていると、温かい光が一つ一つのクリスタルから放たれ、眠っている女神を包み込み始めます。

すると、女神がうっすらと目を開け始めました。

女神の頬にも赤みが差し、体全体も呼吸に伴って緩やかに動き始めます。

女神がかすかに体を動かし始めました。

美緒さんがその様子を見て言います。

「ギユナ星のマスターもすごい事考えるよね。

クリスタルの光で眠りについた女神を目覚めさせるなんて、まるで映画みたい。」

葵さん目覚めてきた女神の手を取り座らせます。

女神はようやく自分が目覚めた事に気づいたようです。

「私は一体どうしたのかしら。
あなた方は、一体誰なのかしら。
突然大きな地震のような揺れが起きたかと思うと、気を失ってしまったのです。」
女神は自分の記憶の糸を少しずつ解きほぐしているようです。

「女神よ、目覚める事が出来て本当に良かったです。

私達もそしてギユナ星のマスターも、きっとあなたに出会えると信じていました。」
私は言いました。

ペガサス騎士団のアトス様が白鳥座で起きたことについて女神に話しています。

「白鳥座のいくつかの星が大規模な隕石の落下により被害を受けました。

特にアルビレオ星とギユナ星は、隕石が直撃して大きな被害を受け、星の次元降下を起こしてしまいました。

また白鳥座の他の星も、いくつかの星が次元降下したためにバランスを崩し、本来の働きを行うことができなくなったのです。

そのために白鳥座の星々の人達はお互いに連絡を取る事ができなくなってしまいました。

あなたの星も、ギユナ星の次元降下の影響で次元が降下したようです。

そのショックで、あなたは意識を失い眠りについたのでしょう。

あなたは長い間意識を失っていたようですが、何かの力で守られ、あなたの生命が失われることはなかったようです。

でも白鳥座の皆さんは、あなたの事を大変心配しておりました。

ギユナ星の人達も、地下都市で暮らし、星の復興を行ってきましたが、ギユナ星のマスターはあなたの事を大変気にしていました。

そして喜ばしいことに、先日龍治さん達のグループが、北極星の創造主様と白鳥座のデネブ星、こと座のベガ星を繋ぎ、創造主様の光をこの白鳥座にも満たしてくれました。

そのおかげで白鳥座の次元降下した星々も次元を上昇させることができたのです。

あなたの星も、今までは私達が入ろうとしても入ることは出来なかったのですが、この星も次元上昇を行った事とどの次元にでも入れる龍治さん達の手助けによって私達はあなたを発見する事ができたのです。」

「そうだったのですか。

白鳥座の星々は大変な災害に見舞われたのですね。

他の星の事も私は心配です。

とりわけアルビレオ星のマスター達は怎么样了か。」

女神は弱々しく言いました。

「アルビレオ星のマスター達の所在はまだわかりません。

これから私達は龍治さんと共に、アルビレオ星に行く予定ですのでその様子に関しては後程ご報告いたします。

それよりも女神は、しばらくこの地を離れ、デネブ星の女神アルターニャ様のもとで休まれたらどうでしょうか。

白鳥座の仲間達もその方が喜ぶとは思いますが。」

さすがに天の川銀河を守るペガサス騎士団の団長です。

状況を的確に判断して説明する能力は私達など比べ物になりません。

そして相手を思いやる言葉に私達も心を打たれます。

「アトス様ありがとうございます。

私もそうして頂いた方が良いと思います。それでどなたが私の事を目覚めさせてくださったのですか。」

「それはこちらにいらっしゃる龍治さん達です。」

アトス様は、女神の体を持ち上げて、私達のほうを向かせてくれました。」

葵さんが、私達が行った事を女神に説明しています。

「ギユナ星のマスターは、あなたが眠りにについている事をご存じだったのでしょう。

私達に思考を活性化するためのクリスタルを分けてくださいました。

このクリスタルを使用する事により、あなたの眠りについていた思考と意識を目覚めさせる事ができたようです。」

「そうだったのですか、ギユナ星のマスターはお元気だったんですね。

本当に良かったです。

でも、皆さんのおかげで助かりました。

ありがとうございます。」

彼女は、大地にひざまずくと、自分が目覚めた事を、デルタ星の大地とギユナ星のマスターに感謝を捧げています。

「偉大なる大地よ、今まで私をお守りくださりありがとうございます。

私はいつもあなたと共にいます。

この星のすべての生命はあなたから生まれ、
あなたのもとに帰っていきます。

私達は、あなたと一つです。

ギユナ星のマスターよ、私を見守り助けてく
ださってありがとうございます。

そして偉大なる大地よ、私を助けるために見
たこともない勇者達を派遣してくださり心
から感謝いたします。」

私達も女神の真摯で敬虔な姿に心を打たれ
共に祈りました。

すると、私達を導いてきた牡鹿は女神の祈り
を聞き届け、安心したかのような表情を浮か
べ一筋の光となって大地の中に消えていき
ました。

きっとこの星の意識が女神の事を守ってい
たのでしょう。

私達は、この女神を大切に思う星の意識に涙
が出てきそうになりました。

祈りが終わると、女神は私達に向かって言い
ます。

「私とこの星を助けてくださって本当にあ
りありがとうございます。

もし皆さんが、この星に来て下さらなければ、
やがて私の生命も枯果て、この星は深い闇に
閉ざされるところでした。

あなた方は、私とこの星にとって大切な命の
恩人です。

あなた方は白鳥座の人ではないようですが、
どこからいらっしゃったのですか。」

「私達は、地球から来た地球人です。

ベガ星のベガリタス様に頼まれて、アルタイ
ル星を闇から救出するためにやってきたの
です。

今は、女神アルターニャ様にお願いされて、
白鳥座の星々を回り、白鳥の北十字を甦らせ

るために働いているところです。」と私は答えました。

女神の顔がとても明るくなりました。

「アルビレオ星のマスターの予言は本当だったのですね。

やがてこの地に地球人がきて、私達を救ってくれる、そのために、自分達は地球に行って地球人達を教育するのだといっていましたから、アルビレオ星のマスター達は素晴らしい教育を地球で行ったのですね。

なんてすばらしいのでしょうか。」

私の頭にいきなりクエッション・マークが飛び込んできました。

アルビレオ星のマスターが私達の事を予言していた？

アルビレオ星のマスター達が地球に来ていた？

私は、これから訪れるアルビレオ星の事がとても気になります。

私達は、これからアルビレオ星に向かって旅立つことになりましたが、傷ついた女神はペガサス騎士団の騎士達が女神アルターニャ様のもとに連れていく事になりました。

PART5 アルビレオ星のマスターの目覚め

私達は、神龍（シェンロン）と共に、デルタ星から白鳥座のくちばしにあたるアルビレオ星へと向かいました。

アルビレオ星は隕石の直撃を受けているために、すぐには星の地表には降りず、しばらく星の周りを神龍（シェンロン）で廻りながら様子を見ていました。

本来であれば、素晴らしい叡智に満ちたマスター達がいる星なのですが、今は草木も生えていない荒れ果てた星になってしまいました。

あちらこちらに隕石の落下した後が見えます。

地面が避け、痛々しい姿です。

ただしところどころに、大きな遺跡の様なものも見えます。

形は崩れているのですが、ピラミッドや石造りの神殿の跡がはっきりと残されています。遺跡が大好きな隆子さんが、遺跡を見て、地球のマヤの遺跡に良く似ている事を伝えてくれます。

私達は、この遺跡を作った人々の手掛かりを探すために、神龍（シェンロン）で地表の上を飛び回り手がかりを探しました。

すると、ある場所で、動物のようなものが動いている様子を美緒さんが発見しました。

「龍治さん、何か動いている物がいますよ。そこに降りてみましょう。」

美緒さんは、神龍（シェンロン）の首を下げ、星の地表に向かって急降下していきます。彼女の神龍（シェンロン）さばきはとても素晴らしく、メンバーの中でもかなう者はいません。

私達は注意深く、その動いている物の近くに降りてみました。

まるで岩の塊のようにも見えますが、動いている様子は2本足で立っている熊のようでもあります。

私達が近づくと、その存在も気づいたようで、テレパシーで話しかけてきます。

私達は、まさかその存在がテレパシーを使える叡智ある存在だとは思っていませんから驚きました。

「なにこれ！私達に話しかけてくる！まさか、これって岩人間。」

美緒さんが驚いて叫びます。

私達はその存在の事を「岩人間」と呼ぶ事にしてコンタクトを取ります。

「私達は、この星が隕石の衝突によって潰滅してしまう事を知ったマスター達によって生み出されました。

この星に残された建物を守り、この星のマスターが復活する時のために準備をしておくように命令されたのです。」

確かに、彼らはこの荒野の中でも生きていける体の構造をしているようです。

しかし、吹き荒れる砂嵐の前では、この星の建物を守る事は難しかったようです。

多くの建物が砂と風によって壊れています。

ただ、彼らとうまくコンタクトを取れたという事は、きっとマスター達にも会えるに違いありません。

私達は、岩人間にこの星のマスターに会いたい事を伝えました。

「あなた方は、地球から来られた方ですか？」
岩人間が、私達に聴いてきましたので、私達はそうだと答えました。

「私達のマスターは、あなた方を待っていました。

私がお案内しますので、どうぞこちらにいらしてください。」

やはりそうです。

このマスターは私達が来る事を予測して、岩人間達をこの地上に待機させていたのです。

私達は、岩人間に案内されて、大きなピラミッド型の山のように見える建物の中に入っていました。

暗く荒んだ通路を通り抜けていきます。まるでエジプトのピラミッドの回廊を歩いているような気分です。

「宇宙の光」のメンバー達がドキドキした気分で歩いているのがわかりますが、奥には何があるかわかりません。

美緒さんが言います。

「この通路の奥には何が待っているのかしら、もしかしたらファラオのミイラが襲ってくるかも。」といって遥さんを襲うしぐさをしました。

怖がり屋の遥さんは、「キャーやめて！」と叫んでいます。

通路を抜けるとそこはピラミッドの内部のような石造りの部屋でした。

中に入ると、暗い部屋に石棺が5つおいてありました。

誰かが怖くなったのか、「えー怖い」とつぶやいています。

石棺には、古代マヤや古代エジプトと同じように様々な象形文字が描かれ、美しいラピスラズリーの石がたくさんはめ込まれています。

「まさか、この中にマスターが眠っている可能性ってある？」

美緒さんがびくびくしながら石棺を指さしながら言いました。

私は念のためにさそり座のアトラス様に調べてもらうようお願いしました。

私達が遠巻きにして見ているところでアトラス様は石棺を叩いたり、機械のようなもので調べたりしています。

「特別に問題はなさそうですが、この中に何が入っているかはあけてみないとわかりません。」

ただし、この石棺はかなりの重さがあるので私達ではあける事ができません。

その時「私が石棺をあけましょう。」と大きな声がしました。

振り返るとアルケイデース様が、ようやく自分の出番が来たとばかりに前に進み出ます。この場は彼以上の適役はいないでしょう。

アルケイデース様とアトラス様が石棺の頭側と足側に立ちゆっくりと石棺からふたを取り外し床に起きました。

中から怖いミイラが出てくるかと思った美緒さんたちはペガサス騎士団のアトラス様の後ろに隠れています。

「アルケイデース様、石棺の中には誰がいるのですか、教えてください。」

美緒さんが言いました。

アルケイデース様は、石棺を覗き込むと「これはアルビレオ星のマスター達ですね。」と言いました。

美緒さんは「ミイラになっていないですか。」と聞きました。

「いや、不思議な事に今でも生きているような雰囲気ですよ。」とアルケイデース様は答えます。

私達はその言葉に安心して石棺の中を覗き込みました。

確かに古代エジプトのファラオと同じように黄金の仮面をかぶっていますが、来ている服もきれいですし変なにおいもしません。

アルケイデース様はアトラス様と一緒に他の4つの石棺のふたも開けてくれました。他の石棺もまるで生きたファラオが眠りについているような人物が横たわっていたのです。

デルタ星の女神が、アルビレオ星のマスターが、将来、自分達を救ってくれる地球人を教育する為に、地球に行って教育を行ったという言葉の意味が分かりました。

彼らは古代エジプトや古代マヤに降り立ち、人類を導いていたのだと思われます。

そしてアルビレオ星のマスター達が持っていた「石棺で自分の肉体を保存する方法」などを受け継いだのだと思われます。

「龍治さん、5人のマスターを見つけたのはいいけれどどうしたらいいの。

アスクレピオス様のお力をお借りしたらどうかしら。

ほら前に、生死の境にいる人がいたら自分を呼びなさい、と言っていたじゃないの。

これってある意味生死の境じゃないかしら。」と葵さんが言いました。

私もその言葉にはっと我に返り、心の中でアスクレピオス様の名前を何度も呼びました。

PART6 アルビレオ星のマスターの目覚め

心の中で、アスクレピオス様にお願いすると、彼はすぐにやってきてくれました。

そして、石棺の中で横たわっている5人のマスターを見て驚いたようです。

「このような場所に彼らは眠っていたのですね。

この宇宙の中でも素晴らしい叡智を誇る聖人であり、偉大なる指導者です。

この星に隕石が落ちて、星が壊滅しましたが、これほどの叡智を持つ人が、その犠牲になるとも思えませんでしたので、私達は、彼らがどこに行ったのか、心配していたのです。このような場所で、自ら眠りについていたとは思いませんでした。」

アスクレピオス様は、5人のマスター達を綿密に調べています。

「龍治さん、大天使ラジエル様を呼んでもらえませんか、
彼らは、自分達に封印をかけていますので、私の力だけでは難しいようです。」

私は先日、私達に魔法の講義を行ってくれた大天使ラジエル様を呼び出します。

大天使ラジエル様は、今日は一回り大きく美しく輝く杖を持って現れます。

その姿に魔法使いのロイドも大興奮です。
天の川銀河でも偉大な聖者に会えたうえに、聖者にかけられた封印を大天使ラジエルが解く様子を見れるのですから、こんな機会はめったにありません。

「龍治さん、そしてアスクレピオス様、お困りのようですね、私もお手伝いしましょう。」
大天使ラジエル様は、その様に言うと、1人1人のマスターの頭上に立ち、魔法の杖を使って特別な神聖幾何学を描きながら祈りの言葉を唱えています。

するとマスター1人1人の上に異なる神聖幾何学の光が浮かび上がってきました。大天使ラジエル様は、神聖幾何学を描き終わると、この部屋の上空に光のゲートを作り創造主様の光を呼び寄せているようです。部屋全体が明るい光に満たされてきます。

「龍治さん、皆さんはギユナ星のマスターから、意識を活性化させるクリスタルをもらいましたね、それが重要です。皆さんのクリスタルをマスターの周りに置いてください。」

私達は、急いで5人のマスターを取り囲むように、クリスタルで六芒星を描きました。「そうです、六芒星はエネルギーを活性化させるとともに安定させます。そしてこのクリスタルの光が、マスター達を包み、彼らの光を高めて目覚めるように祈ってください。」

葵さん、美緒さん、遥さん、隆子さん、ロイド、そして私が六芒星の先端に立ち祈ります。他のメンバーも六芒星を取り囲むようにクリスタルを置き、自分が置いたクリスタルのところで、跪いて祈り始めました。

クリスタルの光が、メンバー達の祈りに呼応してどんどん大きくなり広がっていきます。大天使ラジエル様は、さらに高度な神聖幾何学を描き、複雑な呪文のような言葉を口にしています。

やがて大きな光がアルビレオ星の5人のマスター達を取り囲みました。光がスパークし火花が飛び散っています。アルビレオ星のマスター達の封印がとけたようです。彼らは目を開け、ゆっくりと起き上がります。

アスクレピオス様が駆け寄り、体の様子を調べているようです。

マスターの1人が起き上がり周りを見渡します。

そして、何かに納得したような表情で嬉しそうに語ります。

「ようやく、その時が来たようだ、私達は眠りから覚め、白鳥座や多くの星々とひとつになって、この偉大なる「白鳥の六芒星」の光を取り戻す時が来たのだ。」

5人のマスター達は、少しよろめきながら立ち上がり、石棺から出ると、お互いの肩を抱き合って、祝福しています。

「それで、私達を目覚めさせてくれたのは、あなた方ですか。」

とても体格が良いアルビレオ星のマスター達を前に、きょとんとした顔で立っている小さな地球人を見て、マスター達はどう思ったのでしょうか。

「これは愉快だ、あなた方は体も小さく、まだ宇宙の叡智に対する知恵も足りない。

しかし、あなた方の中には、誰にも負けない純粋な愛と正義が満ちている。

まさに、光り輝くクリスタルそのもののパワーを秘めた地球人がやってきてくれた。

偉大なる神の導きに、私達は感謝しよう。」

マスター達は、自分達が眠っていた石棺から、ラピスラズリーを外すと、メンバーの1人1人に感謝の言葉を言いながら、私達の小さい手に握らせてくれました。

「このラピスラズリーは、私達の生命力の象徴であり、大いなる守護の石です。

どうかこれからの旅に、このラピスラズリーを同行させてください。

皆さんのお役に立つ事でしょう。」

彼らは、私達を伴って、この部屋から出ていきます。

アルビレオの星の地表に出ると、星のエネルギーはとても穏やかになり砂嵐も止んでいます。

岩人間達もたくさん集まってきました。

「偉大なるアルビレオの大地よ。」マスターの1人が呼びかけます。

「私達は、長い間の眠りから目覚めました。今ここに、新たなる時がアルビレオの大地に巡り、神聖なる光がアルビレオに宿ります。偉大なる光のマスター、偉大なる創造主達よ、この星に、神聖なる光を導きたまえ。」

他のマスター達も、光の杖を掲げ、祈りを捧げています。

すると空が明るく晴れ渡り、美しい光がアルビレオ星のマスター達を照らします。

そしてアルビレオ星がゴースと大きな地響きを立てながら激しく揺れます。

私達は転げそうになって大地にしがみつきます。

アトス様が羽で私達を支えながら言いました。

「アルビレオ星が次元上昇を行っているのです。」

私は星が次元上昇するという事を初めて体で感じました。

地響きが収まり揺れが止まると、今までのアルビレオ星とは異なる星の様子が広がっていてびっくりしました。

植物たちがとても速い勢いで育っています。空には鳥が舞い心地よい風が吹いています。

どこからか、小川が流れてきて大地を潤しています。

アルビレオ星のマスターが「白鳥座に創造主の光が満ちているようだが、誰が光を繋いだのですか？」と、ペガサス騎士団のアトス様に聞きました。

アトス様は「地球から来た龍治さん達のグループです。」と答えました。

「そうか、私達の予言は間違いなかった。地球の人達によって再び「大きな白鳥の六芒星」のエネルギーは復活し、アルタイル星は闇の手から解放されることになっているのだから。

それで、アルタイル星の解放は終わったのかい。」とマスターは言いました。

「いえ、それはこれからです。皆さんを目覚めさせ、「大きな白鳥の六芒星」の星々の仲間をひとつにまとめてから行う予定です。」とアトス様は答えました。

「それは良かった。私達抜きでアルタイル星の開放などではしないからな。

それにこれほど大きな事はなかなか経験できないから、私達も楽しみにしていたんだ。」とマスター達は声を合わせて笑っています。どうやら、みんなでアルタイル星の開放を行う事をマスター達は心待ちにしているようです。

笑い終わると、アルビレオ星のマスターは、私達に向かって言いました。

「それでは、私達が復活した証に、デネブ星の女神のもとにご挨拶に行きましょう。」
そう言うと、大きな白鳥が5羽、マスターの前に現れました。

マスターは、白鳥に乗ると、大きな羽をはばたかせ舞い上がります。

私達も、急いで神龍（シェンロン）を呼ぶと、神龍（シェンロン）にのってデネブ星へと向かいます。

アスクレピオス様も大天使ラジエル様も共に、デネブ星へと向かいます。

デネブ星では、女神アルターニャ様をはじめ、サドル星の女神ジェンダー様、ギユナ星のマスター、そしてデルタ星の女神も私達を待っています。

そこに、アルビレオ星の5人マスターと私達が到着しました。

フェアリーやホビットがお花をまき散らし祝福します。

アルビレオ星のマスター5人が、女神アルターニャ様の前に進み出て、再会の喜びを表しています。

そして、サドル星の女神ジェンダー様、ギユナ星のマスター、そしてデルタ星の女神達にも、再会の喜びを表しています。

女神アルターニャ様は、私達を自分の横に座らせるために手招きをします。

私達が女神アルターニャ様の横に座ると、女神アルターニャ様は私達に深い感謝の気持ちをささげます。

「偉大なる地球の人々の働きによって、私達の仲間が目覚め一つとなりました。

これで白鳥座の星々は一つにつながり北十字星の輝きが戻ります

この輝きは、アルビレオ星をとおして、アルタイル星へと送られる事でしょう。

私達は、必ずや「白鳥の六芒星」の星々を復興し、新たな光の世界を開く事でしょう。皆さん力を一つに合わせて、しっかりと働きましょう。」

女神アルターニャ様の言葉に、長い年月の間、眠りにについていたアルビレオのマスター達、デルター星の女神、そしてその事を心配していた女神ジェンダー様やギユナ星のマスター達が涙を流して喜んでいます。

彼らの語らいは、しばらく終わる様子はないようです。

私達は、大事な任務を終え、地球に戻り休む事にしました。

第 14 章 偉大なるマスター と龍達

PART1 ケフェウス座のアルデミラン 浄化 と変容の光



私達は「大きな白鳥の六芒星」の輝きを取り戻すために、まだ行った事もない星を訪ねる事にしました。

私達はアルケイデース様の勧めでケフェウス座のアルデミラン星に向かいます。

この星座は、アンドロメダ座のアンドロメダ姫のお父さんの星座ですね。

その中心に輝くのがアルデミランという星です。

この星は切り立った渓谷の様な場所が多く、私達は神龍（シェンロン）にのって、注意深く進んでいきます。

私達の前に、突然とても大きな体をしたマスターが現れます。

マスターは、マスターアルデミランと名乗りますが、とても大きな大天使のエネルギーを持っているように思えます。

そのエネルギーにいきなり隆子さんが反応します。

「この方は大天使と通じるエネルギーをもっているみたい。」

私は丁寧にあいさつをしました。

「偉大なるマスターよ、あなたにお会いできて、私達はとてもうれしく思います。

私達は、地球人ですが、ベガ星のベガリタス様からのお願いで、アルタイルの星の闇を開放する為の仲間を探しています。」

マスターアルデミラン様は、しばらく私達の様子を見えています。

そして、私達に話し始めました。

「皆さんが、地球からやってこられたという事は、地球での物の考え方に慣れていらっしゃるようですので、少しお話をさせていただきます。

私達は、本来は光と闇の対立という事を考えていません。

闇は、光が持っていない力や働きをもっています。

闇を恐れ、闇を憎む事自体が、皆さんの心に怒りと憎しみの感情を芽生えさせてしまいます。

闇は、本来は創造的なものです。

まるで、昼と夜のように分かれています、皆さんの地球では、昼と夜のどちらも大切です。

昼の時間は、創造的に活動し様々な仕事を行いますが、夜の時間になると、皆さんは体を休め、新たなる創造の為に準備を行います。また夜の夢の中で、さまざまなアイデアやひらめきを受ける事もあります。

あなたの中に2つの物を区別し、どちらが良い、どちらが悪いという価値判断をなるべくしないようにしてください。

そうしなければ、物事の大切な面を見落としてしまう事になるでしょう。」

マスターアルデミラン様は、主に癒しと浄化のエネルギーを司るマスターのようで闇と光の事についてもかなりお詳しいようです。私達に「決して闇と戦ってはいけない。」という事を教えてくださいます。

話が終わると、マスターアルデミラン様は、私達1人1人に浄化と癒しの光を送ってくださいました。

メンバーによっては、体からモクモクと黒い煙が湧き上がってくるように見える人もいますし、体の内側から光が大きく輝き始める方もいます。

それぞれが独自のやり方で心やスピリットからネガティブなエネルギーを放出してゆく様をお互い見ていました。

葵さんや美緒さんはもちろん、遥さんもお互いに起こっている事を見ています。

きっと終わってからいろんな事を言いあうのでしょうね。

マスター自らが行うヒーリングは、とても素晴らしいものです。

見ているだけで感動を覚えるくらい美しくパワフルです。

マスターアルデミラン様は、私達の中に、憎む心や怒る心を持たないようにする事で、これからアルタイル星の浄化を行う時に、闇の力に惑わされないようにしてくれたのだと思います。

マスターアルデミランに深い感謝をささげて、私達は次の星へと向かいます。



PART 2 りゅう座 トウバン星のマスター オブドラゴン

私が今回の星座の中でも、もっとも行きたかったのが、実はこのりゅう座です。

りゅう座は、北極星を取り囲むように大きく広がっている星座ですので、おそらく偉大な神龍(シェンロン)達がいるのではないかと、私は考えていました。

りゅう座の入り口であるトウバン星に降りるとそこはまさに雄大な大地が広がっています。

ひとつひとつの山や川も、驚くほど大きくて、私達人間の大きさなんて問題になりません。私達は、神龍(シェンロン)にのって大きな渓谷を抜けると広い場所に出ます。

空には大きな神龍(シェンロン)達や龍達がゆうゆうと飛んでいる姿が見えてきます。神龍(シェンロン)と龍は同じ龍なのですが、神龍(シェンロン)は通常の龍よりも大きめ

のサイズで光も強く、動くスピードも速いようです。

それは、神龍（シェンロン）はひとつの星だけに関わるのではなく、いくつもの星や宇宙に関わる役目を持っているからです。

この広い場所の中央に立っているトゥバン星の神殿はとても大きく威厳があります。

私達の神龍（シェンロン）がとても小さく見えるくらい大きな神殿です。

私達は神龍（シェンロン）にのって恐る恐る神殿の中に入ります。

龍が大好きな美緒さんが、左右をキョロキョロ見渡しながら喜んでいきます。

「こんなに大きくてパワフルな神龍（シェンロン）を見た事がないわ、すごすぎる。」
隆子さんや遥さんも興奮状態です。

トゥバン星の神殿の中には、私達の神龍（シェンロン）よりも数倍大きくてパワフルな神龍（シェンロン）達が勢ぞろいしています。その中央に、光り輝く神龍（シェンロン）の長老様が、私達を待っています。

神龍（シェンロン）達は、私達が来る事は分かっていたらしく、喜んで迎えてくれました。

「偉大なる地球の人よ、そして私達の大切な兄弟である地球の神龍（シェンロン）達よ、あなた方が、ここに来てくれた事、そして神龍（シェンロン）が、ここに戻ってきてくれた事を、私達は心から嬉しく思います。

神龍（シェンロン）達よ、あなた方は、地球の人々をここに導く事で、見事な仕事を果たしてくれました。

しかし、この地球の人々の役目は、これだけで終わるものではありません。

これからも地球の人々と共に、宇宙のために働いてください。」

神龍（シェンロン）の長老様の言葉に、私達の神龍（シェンロン）が喜んでいる様子が伝わってきます。

心と体が躍動していくようです。

「とはいうものの、初めて経験する事ばかりで、あなた方も大変なお疲れになられた事でしょう。

今日はすこしばかりここで休んでください。皆さんの神龍（シェンロン）達も、ここで休むことで新たな力を得ることでしょう。」

神龍（シェンロン）の長老様がそういうと、私達の神龍（シェンロン）は、神殿の床にすっと降り立ち、体をくねらせながら休んでいます。

神殿の床からは大地のパワーがふつふつとわき起こり、神龍（シェンロン）達を癒しています。

そして横たわった神龍（シェンロン）の上からは、この星の神龍（シェンロン）達が金粉を降らし、神龍（シェンロン）達の生命力を高めています。

私達の神龍（シェンロン）も、多くの仲間に出会えた事で、とても嬉しそうにくつろいでいます。

その間、私達はこの宇宙に存在する神龍（シェンロン）や龍達の話をお聞かせいただきました。

「龍達の本質は光であり、この宇宙の創造のエネルギーや循環のエネルギーをその身にたたえて、星々や宇宙を巡っているのです。特に神龍（シェンロン）達は創造主達の指示に従っていくつもの星をめぐり、星の創造や運営にも携わるのです。

神龍（シェンロン）達にも、天使達と同じようにいくつかのレベルがあり、ひとつの星を守護する龍、ひとつの星座を守護する神龍（シェンロン）、そして宇宙規模で活躍する神龍（シェンロン）達があります。

神龍（シェンロン）達もその役目に応じて変容を繰り返すのです。」

トゥバン星の神殿の長老様から神龍（シェンロン）に関わる多くの話を聞かせていただきましたが、私達が神龍（シェンロン）に導かれて、自らを成長させ、このトゥバン星にくる事を待っていたそうです。

それも今回の、白鳥の六芒星の光を取り戻すために。

これからトゥバン星の神龍（シェンロン）達も、私達と共に活動してくださる事になりました。

ただし、いつも同行するのではなく私達がお呼びした時に来てくれるという事でした。

もちろんここでは、偉大なマスター神龍（シェンロン）によって、私達の神龍（シェンロン）を大きく変容させていただきました。

メンバーの神龍（シェンロン）達は、マスター神龍（シェンロン）から、素晴らしい光を受け取り、さらに大きくなり能力が高まりました。

これで、アルタイル星での活躍も期待できます。

今日の星のツアーはこれで終了することにしました。

私達の仲間集めもこれで終了です。

これからは、アルタイル星の闇の開放のために行動する事になります。

時も流れ、天の川がはっきりと見える7月になりました。

ベガ星とアルタイル星のお祝いである七夕までもうすぐです。

七夕には特別なエネルギーが地球に入ってくるためのゲートが開きますので、それまでにアルタイル星の開放を行いたいと願っています。

第15章 白鳥の六芒星の 結束

PART1 白鳥の六芒星の結束を固める

私達は、今夜の星のツアーでアルタイル星へと入る予定ですが、本当のところ、アルタイル星で何をおこなえばよいのか分っていません。

ただ、闇に落ちたアルタイル星を救わなければならないという使命感で、仲間達を集めてきました。

マスターアルデミランの言葉でも、闇を憎む事をしてはいけないといわれ、本心では、どのようにしたらよいか迷っています。

前日の夜、私は不思議な夢を見ました。

私の夢の中に現れた女性は、自分の名前を「ビジョン」と語り、私にアルタイルのマスターを救ってくれと懇願してきます。

彼女自身も大変やつれており、意識もはっきりとはしていないようですが、私にあるビジョンを見せてくれます。

それは、私達がアルタイル星に入り、目印となった場所から地下に入り、地下でとらえられているマスターを救出するというビジョンです。

その為に、どの場所をどのように進めばよいかという具体的な道案内に役立つ目印を私達に見せてくれていました。

私が驚いて目を覚ますと、女性の姿も消えてしまいましたが、これは今日のアルタイル星の攻略には大切な情報のようです。

夜の２２時になると、私達の星のツアーが始まります。

参加している皆さんは、普通の会社に勤務している会社員や主婦ばかりなので、夜の遅い時間からでないと始められません。

そして３時間近くの間、私達はスピリットとなり宇宙を駆け巡るのです。

私は、窓から夜空を見上げます。

私達の頭上には、これから向かうベガ星とアルタイル星、そして天の川が輝いています。

今夜は、「大きな白鳥の六芒星」を司る星々からアルタイル星への救出が行われますが、地球からもアルタイル星へ光を送る準備をしています。

女神ガイア様の神殿からさそり座のシャーマンやホビット達、地球のマスター達、そして星のツアーに参加できなかった「宇宙の光」のメンバー達が協力して共に地球からアルタイルに向けて光を送ります。

私達はまずこの地球から、アルタイル星に向かう大きな光の通路を作り、地球からアルタイル星に向けて光を送る準備をしました。そして、アルタイル星が闇から解放され、「大きな白鳥の六芒星」が無事動き始めると、アルタイル星からの大きな光が、この地球にも降り注いでくる事でしょう。

今回の目的は、闇によって支配されているアルタイル星を光の星に戻していく事です。それも闇と戦うのではなく、闇を認め闇に光をもたらす事によって、アルタイル星を取り戻していく事になります。

そして、夢の中で見たアルタイル星のマスターを救出する事が、私達の使命です。

私達は、ガイア様の神殿を飛び立ち、神龍（シェンロン）に乗って、ベガ星に入りました。先日作った光の通路＆フロアーによって「大きな白鳥の六芒星」の星達が光でつながり輝いています。

この光のフロアーを使う事で、今迄よりももっと簡単に各星へと移動ができます。

ベガ星の神殿に降りたち、マスター・ベガ様に挨拶をし、今日の計画について報告しました。

アルタイル星のマスターが閉じ込められている事に関しては、マスター・ベガ様もよくご存じのようで、私達がマスターの存在に気づき助けてくれる事を心から願っている事を伝えてくださいました。

「龍治さん、そして「宇宙の光」の皆さん、ついに私達の願いが叶う時がやってきました。

わし座のアルタイル星と琴座のベガ星は深い関係で結ばれています。

地球にも彦星と織姫の伝説があるように、この2つの星は、地球にとっても大切な役目をしています。

それは、創造主の素晴らしい光を、アルタイル星を通して、地球に送る事なのです。

アルタイル星が、闇に落ちてしまった今、私達は自由にアルタイル星へ入る事が出来なくなりました。

あなた方、地球の人々は、地球の多次元通路を利用して、アルタイル星に入る事が出来ます。

そして、私達もあなたと共に行動する事によって、アルタイル星に入り、アルタイル星の闇を取り除き、アルタイル星のマスターを助ける事が出来るのです。

皆さんが、頼りなのです。

今日の行動によって、アルタイル星だけでなく、この天の川銀河全体が素晴らしい光の世界になるように祈っています。」

マスター・ベガ様は、今回参加してくれたメンバー達に祝福の光を送ってくださいました。

私達は、ベガ星の神殿を出て、白鳥の六芒星の結束を固めるために、今迄の星を巡りマスター達と気持ちを一つにしていきます。ベガ星の神殿を出て、最初に向かったのは白鳥座です。

先日、同じ白鳥座のアルビオレ星、ギエナ星、デルタ星のマスター達を目覚めさせた事で、白鳥の北十字の光を取り戻し、白鳥座は昔ながらの光に戻ってきているようです。

今日は、白鳥座のマスターや女神達は、気高く力に満ちた白鳥と共に、アルタイル星に一番近いアルビオレ星に多くの仲間達を従えて集まっています。

そこでアルターニャ様と共に旅立つ時を待っているようです。

先頭には、勇ましい鎧を身に着けたアルビオレ星の5人のマスターが控えています。

彼らは、私達を見ると手を振って応えてくれます。

アルビオレ星を出て次に向かったのは、ペガサス座のエニフ星です。

エニフ星のマスターであるヒュードラ様は、以前来た時は、闇のエネルギーを自分の体に引き受けていたせいか、体もまだら模様で弱り切っていました。

それ以降、私達も何度も訪れできうる限りの癒しの光を送ってきました。

またベガ星のベガリオン様やアスクレピオス様も何度も来てくださりヒュードラ様を守り癒してくださいました。

そして、この星のエルフやペガサス達も親身になってお世話をしてくれたおかげで、今は美しいきれいなペガサスに戻りました。

ここはペガサス騎士団の精鋭部隊が、勇壮なペガサス達を従えて、アルタイル星の闇の浄化に努めるために出番を待っています。

そして、この星の気高きエルフ達も、勇敢そうな鳥にまたがり、手に光の槍を持って待ち構えています。

空を埋め尽くすばかりのペガサスと鳥の大群に、私達も驚いています。

私達が到着すると、ペガサス達が高い声で鳴きます

PART2 創造主のもとにマスター達が集合

トゥバン星の神龍(シェンロン)達を最後に、白鳥の六芒星にかかわるすべての星のマスター達がそろいました。

これから、仲間達で協力してアルタイル星へ入り、アルタイル星へ光を送ります。

もしかしたら、闇の力から反撃を受けるかも知れませんが、今回は、創造主をはじめ、多くのマスター達がいるので安心です。

私達と各星のリーダー達が、北極星（ポーラスター）の創造主のもとに集まりました。

創造主は、いつもの老人のような姿ではなく、とても若々しい男性と女性のマスターに分かれていました。

まるで、東洋思想の太極から陰と陽が生まれ、新たな創造活動が始まる時の様です。

創造主もこの方が動きやすいから、と笑っています。

それぞれの星の中心メンバー達が創造主の前に勢ぞろいしています。

ベガ星からはベガリオンを中心にしたベガ星のマスター達のグループ。

デネブ星からは大きな白鳥に姿を変えた女神アルターニャ様。

エニフ星からは真っ白い羽を広げたペガサス騎士団のリーダーであるアトス様

ケフェウス座のアルデミラン様は、今日は大天使の姿で参加されるようです。

圧巻なのは、やはりトゥバンの神龍（シェンロン）達でしょう。

その大きさもパワーも桁違いで、群れを成して空を飛んでいます。

私達も、トゥバン星ほどではないのですが神龍（シェンロン）達がそろっています。

そして、さそり座のアンタレス騎士団とアルケイデース様も私達を守護し、行動を共にします。

創造主から、私達のメンバーには、額や体に創造主の光の現れであるシンボルをいただきました。

これは、闇のエネルギーに惑わされないように私達を守ってくれるためのシンボルのようです。

偉大なる創造主様が、天地に響き渡るような声で仲間達を激励します。

「偉大なる光のマスター、女神、大天使、騎士団、そして神龍（シェンロン）達よ。

私達は今ひとつになってアルタイル星を闇の中から救い出さなければならない。

アルタイル星が光の世界に戻る事によって、私達の星々は、昔のように輝き始めるだろう。

私達は、天の川銀河の中において、神聖なる光を他の星々へと分かちあわなければならない。

その為に今日の日を迎えたのだ。

ここに集った者達の心をひとつにして挑んでいただきたい。」

創造主からメッセージをいただいた後に、それぞれの星からアルタイルへ星と向かい、閉じ込められたマスターの救出が始まります。

第16章 アルタイル星のマスターの救出

PART1 アルタイル星の救出活動



創造主の言葉が終わると、アルタイル星を闇のエネルギーから救いだすための行動が開始されました。

アルタイルの星に、真っ先に入ったのは、トゥバン星の神龍（シェンロン）達でした。やはりアルタイル星には何が待ち構えているかわかりませんので、体も大きく空から活動できる神龍（シェンロン）に様子を見てもらい、出来る限り闇の浄化をしてもらう必要があるようです。

神龍（シェンロン）達は、アルタイル星の空を飛びながら、星を浄化しているようです。「神龍（シェンロン）達は、まるで稲光のように、アルタイル星の上空から地上へと光をはなつことで星のエネルギーと闇のエネルギーを分離し、闇を光に変えているのだよ。」とアトラス様が教えてくれました。

しばらくの間、アルタイル星は闇の中で稲光が光り輝き、まるで嵐のような光景を繰り広げています。

闇のエネルギーをこの星に持ち込んできた者達との争いがあるのか、あるいは闇と光のエネルギーがぶつかり合っているのか、あちらこちらで光がスパークする様子が見えます。

遠くから見ていても、稲光が闇の中で輝くさまは壮大です。

白銀の光が闇を貫き、闇を光に変えていきます。

時として、白銀に輝く神龍（シェンロン）の体を大きな闇が飲み込み、白銀の姿が消えていきます。

すさまじい光と闇の応酬がしばらくの間続きます。

仲間達は、その勇壮な戦いを前に、アルタイル星に入る事も出来ず、祈りながら見ています。

神龍（シェンロン）達の稲光が収まってくると、アルタイル星の闇が晴れて、少しずつ明るくなってきました。

神龍（シェンロン）達は、次に体から金粉をたくさん降らして、闇のエネルギーをどんどん浄化しています。

その様子を見て、ペガサス騎士団とエルフ達がアルタイル星に入ります。

ペガサス達は高く空を飛びながら羽から銀の粉をまき散らし、アルタイル星のエネルギーを浄化します。

エルフ達は手にした光の槍をもって鳥の背に乗って地表に近いところを飛び回ります。ところどころに固まったまま残っている闇の塊に、光の槍をつきたて、闇のエネルギーを破壊しています。

さそり座のアトラス様は、私達がまだアルタイル星にはいるのは危険だという事で、私達を押しとどめています。

私達も、中で何が起きているのか、全く理解できない以上、むやみに入る事は控えなければなりません。

なにせ、私達は闇の事さえもよく知らず、闇と戦うことも統合することもよく理解できていないのですから、ここは様子を見る事しかできません。

ペガサス騎士団達が、空中だけでなく地上にも降り立ったようです。

エルフ達も、鳥から降りたり乗ったりしながら、森の中や山々を駆け巡っているようです。すごい速さと機敏さでいくつもの山々を調べまわっています。

その時、ペガサス騎士団のアトラス様から連絡が入りました。

「闇のエネルギーはだいぶ浄化を終わったようですが、未だ地表にはたくさんの闇のエネルギーが残っています。

地上部隊を派遣してください。」

その言葉と共に、さそり座騎士団や白鳥座のマスターやフェアリー達、ベガ星のベガリオン様のグループがアルタイル星へと入ります。

彼らは、アルタイル星の各所に分かれて行動しています。

そして地上に隠れている闇のエネルギーを見つけだし、光へと変えていきます。

彼らによって星のエネルギーは、さらに清らかなエネルギーへと変わっていつているようです。

その様子を見届けたさそり座騎士団のアトラス様は、私に向かって言いました。

「それでは龍治さん、私達も入りましょう。アルタイル星のマスターは、あなた達でなければ助け出せないのです。」

PART2 アルタイル星のマスターの救出

私達も神龍（シェンロン）に乗って、アルタイル星に入ります。

私は、夢で「ビジョン」と名乗る女性から、マスターの救出をお願いされていました。

彼女は、自分に残されていたすべての力を使い、マスターが地下にとらわれている事を伝えてきたのです。

そしてその場所に至る道筋のビジョン（映像）も送ってくれました。

最初の目標となるのは、闇の六芒星で閉ざされた大地の裂け目です。

神龍（シェンロン）に乗って先に走っていた美緒さんが、その場所を見つけました。

彼女の行動力はとても機敏で、神龍（シェンロン）の探査能力もとても優れています。

「龍治さん、見つけたわよ、あそこに目印があるわ。」

この六芒星の封印をとけば入れそうよ。」

彼女は、神龍（シェンロン）の首をぐっと下に向けると、急旋回して大地の裂け目の上で止まります。

私達も、急いで後を追います。

大地に描かれた六芒星は、夢に見たビジョンでは、地下神殿につながる入り口です。

私達は創造主様から頂いた額の六芒星の光を使い、闇の六芒星に光を送ります。

すると闇の六芒星は大きくはじけ飛び、その下に大地の裂け目が道を開きます。

私達は、神龍（シェンロン）を操ってその裂け目から大地の中に入りました。

大地の裂け目を通り抜けると、中は空洞が広がっています。

私達は神龍（シェンロン）に乗り、岩と岩の裂け目を抜けるようにして進んでいきます。美緒さんを先頭に葵さんや遥さんも神龍（シェンロン）にのって走っていきます。

さそり座のアトラス様は赤い神龍（シェンロン）に乗って周りを注意深く見渡しながら進んでいます。

アルケイデース様は、危険から私達を守るために、私達にぴったりと張り付いて見張っています。

時折飛んでくる岩石などを、私達に当たらないように剣で叩き落としてくれています。

まさに宇宙船で飛び回るスピルバーグの映画の様に、光景が移り変わっていきます。夢で与えられたビジョンの通り、私達のいく手を阻むように大きな岩壁が前に現れてきました。

私達は、岩壁の前で一度止まります。

「龍治さん、少しお待ちください。私達が安全を確認してきます。」と言ってさそり座の騎士団の団長が騎士達に合図を送ると騎士達が四方八方に飛び散り、闇の存在達が残っていないかしらべに行きました。

ところどころで光がスパークするような音がしています。

決してこの中も安全ではないようです。

その時、夢で見た女性のエネルギーをかすかに感じます。

きっとアルタイル星のマスターがこの先にいることは間違いないようです。

葵さんも目を閉じて耳を澄ましています。彼女も「ビジョン」のエネルギーを感じ、どこからこのエネルギーが来ているのか探っているようです。

葵さんが言いました。

「さあ、行きましょう。

この岩壁の天井部分には隠された通路があるはずです。

そこを通りぬけていけば先に進むことが出来るはずです。」

その言葉を聞いてアルケイデースがすぐに岩壁の天井部分を調べています。

「確かに穴があります。

この穴は決して大きくないので、神龍（シェンロン）を小さくして1人ずつ通り抜けてください。」

アルケイデース様はそういうと先に通路の中に入りました。

葵さんが何かに引き寄せられるように穴の中に入っていました。

私達も続いて入ります。

アトラス様は騎士団を呼び寄せ通路の中を抜け、私達を追うように指示を出しました。私達の後をさそり座の騎士団が続きます。

昨夜の夢では、ここから侵入者を追い返すためにいくつかの仕掛けがあるようです。

私達が注意深く進むと、水の壁のトリックが仕掛けられている壁がありました。

壁全体が滝のようになっていて、ちょっと見た目には通り抜けられないように見えるのですが、これは幻影ですので、その根元のところを通り抜けていきます。

次は、火の壁のトリック、その場所はまるで地下火山が噴火しているように見えますが、これもトリックですのでその場所を急いで通り抜けます。

私達が通り抜けた後に、さそり座のアトラス様がその仕掛けを素早く破壊していきます。さすが、連戦練磨の強者という感じです。

そして広い空間に出ました。

地下にあるとは思えないくらい大きな空間です。

人工的な空間ですから、この場所で何かが行われていたのでしょうか。

向い側にある出口には、闇のシールドが張っており、バチバチと火花が散っています。

私に送られてきたビジョンでは、この広間にマスターが鎖でつながれていたのですが、マスターの姿が見当たりません。

私は、深呼吸をして目を閉じました。

するとそこに繋がれていた人の幻影が浮かび上がってきます。

おそらく私達がアルタイル星に入ってくる事を予想してマスターを別の場所に移した可能性もあります。

その時葵さんが言いました。

「マスターは、あの火花を散らしている出口の先に閉じ込められているようです。あの出口を開いて先に進みましょう。」

私達は火花を散らしているシールドを破って、中に入っていかなければなりません。

「私に任せて。」といって美緒さんが、手にした岩をシールドに向かって投げってみました。

すると岩が、シールドにあたると、火花を散らして粉々に砕け散ってしまいました。

「龍治さん、これ、かなりやばいですね。」と美緒さんが言います。

言われなくても、見ればわかります。

私は、さそり座騎士団のアンタレス様にこのトラップを解消できないか尋ねてみましたが、アンタレス様も困った顔をしています。アンタレス様やアウディケウス様が様々な方法を試みますが、通常の方法では、このトラップは解除できないようです。

魔法使いのロイドも、様々な呪文を試しているようですが効果がありません。

ロイドはすっかり自信を失ってうなだれてしまい「大天使ラジエル様、私を助けてください。」とつぶやいています。

私はその時はっと気づきました。

アルデミラン星のマスターが言った事です。

「闇と戦ってはいけない、闇の力を認めるのだ。」という言葉です。

私達はこの闇の扉と戦ってはいけない、戦えば戦うほどこの闇の扉は頑強になり私達を追いかえます。

戦わないとしたら、どういう方法があるのだろう、と私は考えました。

そして仲間達にも問いかけました。

みんなが沈黙しました。

しばらくすると、ロイドが自信なさげに言いました。

「僕は昔おじいちゃんから魔法の事を習ったときに、こういう話を聞かされた事があります。

光と闇は裏と表です。

光なくして闇はありません。

また闇なくして光はありません。

光と闇の両方とも創造主様の愛おいしい子供達なのです。

もしかしたら、創造主様の光を当てる事が大切なのではないのでしょうか。」

「きっとそうよ、闇の扉を壊そうとするのではなく、闇の扉を創造主様の子供のように思っ
て愛を込めて光を送ればいいんじゃないかしら。」と葵さんが言いました。

「それじゃ、その方法でやってみましょう。」と美緒さんも言います。

私達は扉の前に立ち、自分が創造主になったような気持ちで「愛おいしい闇よ。」という気持ちを大きくしながら額の印から光が扉に向かって放たれるようにイメージしました。闇の扉は、しばらくの間、火花を散らしながら光に対抗していたのですが、やがて火花が治まり、最後にはすーと消えていきました。皆さんから大きな歓声が上がります。アトラス様も「お見事です。」と言って拍手をしています。

私達は、シールドで隠された部屋の中に入ってマスターを探しましたが見つかりません。部屋の奥には、六本の柱が、六芒星を描くように立っていて、ふたが閉められている場所があります。

そこはある意味、石棺のようにも見えます。アルケイデース様がその蓋を力任せに開けようとしたのですがあきません。

「この封印も額の光で破れそうね。」と葵さんが言います。

私達はその柱の封印を額の六芒星の光で破ると、そこに地下へと続く階段が現れました。

階段から、下に降りると、そこには捕えられたマスターの姿があります。

金属製の鳥かごのようなものの中に閉じ込められているマスターは力なく気絶しているようです。

本当にどれだけ長い間、ここに閉じ込められていたのでしょうか、想像もつきません。

遥さんが「かわいそうに。」と言って泣き崩れてしまいました。

隆子さんも遥さんの肩に手をかけたまま、慰めの言葉を言う前に自分も泣き出してしまいました。

ここは、創造主様の力ではなく、アンタレス様とアウディケウス様が、自分達の剣を使って、金属製のかごの柱を曲げ、人が出入りできるような隙間を作りました。

さすがにこの2人では体が大きいのでかごの中に入れませんので、私とロイドが中に入り、マスターを引っ張り出す事にしました。

私達はマスターをかごから出してあげたのですが、ぐったりとして動きません。

私は、すぐに心の中でアスクレピオス様を呼びました。

アスクレピオス様はすぐに私達のもとに来てくれました。

アスクレピオス様は、マスターの姿を見るとあわてて、体に液体のようなものを塗りこんだり、緑の光の玉を使ったりしながら懸命の治療を続けます。

大天使ザドギエルと大天使ラジエル様もやってきて、マスターの魂とスピリットに大天使の光も送っています。

このまま、マスターが亡くなってしまうと、取り返しがつかない事になります。

その間、私達は傷ついたマスターの周りを取り囲み、意識を活性化するためのクリスタルとラピスラズリーを周りに置き、マスターが早く回復してくれるように祈りを捧げます。

その時に葵さんが、次のようなメッセージを受け取りました。

「これは すべての途上である。

「苦しみや痛みを伴わなければ救われない。」という考えが、あまりにも嚴重に意識そのものを捕えている。

もう そのステージは終了している。

私達は、そこを高く飛び越えてゆく。

磔にされた意識は解き放たれる。

新たな世界はそういうところであると誓う。

みつけてくれてありがとう。」

きっと捕えられていたマスターの心の声なのでしょう。

私達だけでなく、私達よりも進化した星の人達であったとしても、罪悪感やネガティブな感情をすべて捨てざる事は出来ないのかもしれない。

そしてそのような思いが闇のエネルギーとつながっていく原因になっているのかもしれない。

私達もそのような感情を早く手放していく事で、自分の中にある光と闇のエネルギーを対等に見て統合していけるのでしょう。

しばらくすると、傷付いたマスターの意識が戻ってきたようです。

目はかすかに開き、指先が動きましたが、未だしゃべれないようです。

このまま移動するのは少し危険かもしれません。

私達が困っていると、大天使ラジエル様がいきました。

「このような時は魔法を使うのです。
龍治さん達が、このマスターを抱いたまま、
星の地表に立っている様子を想像してください。」

私はアルケイデース様に傷付いたマスター
を抱きかかえてもらおうと、皆で周りを取り囲
み、手を結びました。

そして、この地下への入口だった場所に立っ
ている姿を想像し祈りました。

すると、私達の姿はその地下室から消え、地
上に立っていました。

美緒さん達が歓声を上げ喜んでいます。
私は、一瞬何が起きたのか分からなかったの
ですが、自分達の意識の力を使って場所を移
動することが出来たようです。

私達がマスターの救出を終ると、フェアリー
達やホビット達が早速その洞窟のお掃除を
しています。

きっと星の至る所でお掃除や星の光を取り
戻すための作業が行われているのでしょう。
このマスターと同じように、閉じ込められて
いた存在達も、みんなの手によって助けださ
れたようです。

私達が、この地下の洞窟から出ると、ペガサ
ス騎士団が迎えに来ています。

PART3 次元上昇していくアルタイル星

ペガサス騎士団のアトス様がいきました。

「龍治さん、そして皆さん。
無事マスターが救出できてよかったです。」

きっと皆さんは大喜びされることでしょう。マスターはまだ危険な状態ですので、私達でアスクレピオス様の癒しの神殿に運びますのでご安心ください。

光のフロアーができたおかげで、私達も安全にそして早くマスターをアスクレピオス様の癒しの神殿に運ぶことが出来ます。」

そうするとペガサス騎士団の騎士達がアスクレピオス様とマスターを取り囲み、瞬時に移動していきました。これで私達も安心です。

私達は、ペガサス騎士団のアトス様の案内で、この星の神殿のような場所に連れてこられました。

壊れかけた神殿は、白鳥座のホビット達によって、片付けられ修復が行われています。神殿の前の広場には、ペガサスやエルフによって助け出された人達が傷ついた体を横たえています。

キャットピープルの看護婦達、そしてたくさんの方々のフェアリーやベガ星の癒しの得意なベガリータのグループの人達が一緒になって、彼らの傷の手当てをしているようです。

エニフ星のエルフ達は近くの星から薬草などをたくさん集めてきて共に看病に当たっています。

ベガ星の人達は自分達の星から、食べる物や飲み物をたくさん運んできて傷ついた人達に与えています。

助け出された人達は、傷ついて力なく横たわっていますが、1人1人の顔には喜びと希望が満ち溢れているようです。

私達のメンバーもベガ星の人達と共に食べ物や飲み物を配ったり、創造主様の光を使って傷ついた人達を癒しています。

沢山の神龍（シェンロン）達が、空中で舞いながら星のエネルギーを高めるために金粉をまき散らしています。

私はみんなの働いている様子を見ていました。

そして、初めて星の救出を行ってみて、宇宙の中には、このように闇のエネルギーによって被害を受けた星がたくさんあるのだろうな、と辛い思いで考えています。

闇の力によって、いったいどれほどのマスターや人々、あるいは動物達が不幸な目に合っているのだろうか。

私達は、闇を憎むことなく受け入れ、光に戻していかなければならないのだろうか、あまりにも辛すぎる。

神殿ではベガリタス様が、各グループのリーダー達を呼び集めて大切な話をするようです。

私と葵さんそしてアルケイデース様、各騎士団の団長や白鳥座の星々のマスターや女神達、ペガサス座のエルフの女神が集まってきました。

「皆さん本当にご苦労さまでした。

アルタイル星は闇のエネルギーから解放されてアルタイル星のマスターや人々も助け出すことが出来ました。

しかし、これから何が起きるか分かりません。私達は、祈りをひとつにしてアルタイル星の次元上昇を行いたいと思います。

アルタイル星は元の次元から数段落ちてしまいました。

一度の次元上昇では完全に返ることが出来ませんが、ここで一度次元上昇をしておくことで星の生命力が高まり、この星にすむ人々の傷も癒され、星の復興をスムーズに行うことが出来ると思います。

これから全員でアルタイル星を次元上昇するための祈りを行いますので各グループに戻り、仲間の皆さんと共に祈りを行うように準備してください。

フェアリーやホビット、エルフの皆さんはアルタイル星の人達に寄り添い、共に祈りを捧げてください。」

ベガリタス様の言葉を仲間達は真剣に受け止めています。

このアルタイル星を何度か次元上昇させて、自分達の星と同じ位置にまで持ってくる事が出来たときに、アルタイル星は、初めて本来の働きが出来るようになります。

そのために、これから最初の次元上昇を行うようです。

各グループのリーダーは神殿に集まり、アルビレオ星の5人のマスター達の指示に従い、複雑な配置に座ります。

これは「神聖幾何学の形を人で描くことでアルタイル星に特別なエネルギーを与え、星の次元上昇を行うエネルギーを生み出すのだよ。」とアルビレオ星のマスターが教えてくれました。

私と葵さん、アルケイデース様、魔法使いのロイドも配置の一つの場所に座りました。そしてギユナ星のマスターからもらったクリスタルとアルビレオ星のマスターからもらったラピスラズリーを手に握ります。

「宇宙の光」のメンバー達も神殿の片隅に集まって同じようにクリスタルとラピスラズリーを手に持って祈ります。

アルビレオ星の5人のマスター達が祈りを捧げ始めました。

その声はまるで歌っているようにも聞こえます。

マスターの祈りの声が、私達が作っている「神聖幾何学」に反響し、神殿からアルタイル星の全域に広がっていくようです。私達の体に熱いエネルギーが伝わってきます。

神龍（シェンロン）達もアルタイル星を循環しながら金粉を今まで以上にたくさんさん降らしています。

この金粉はアルタイル星の物質的なエネルギーを高め星にパワーを与えていくようです。

私はアルビレオ星の5人のマスターの祈りと共に、多くの人の祈りが一つに融合されていく様子を感じました。

ふと空を見上げると、「天使の星」でお会いした大天使の長老様と多くの大天使達が光を放っている様子が見えます。

私の心の中に大天使の長老様の声が流れ込んできます。

「龍治さん、そして皆さん、本当にご苦労さまでした。

皆さんは素晴らしい仕事をしてくれました。しかしまだ油断しないでください。

この星が次元上昇すると、思ってもいない事が起きてきます。

しかしそれは、アルタイル星にとって必要な事です。」

私は、大天使の長老様の言葉に一瞬大きな不安を感じましたが、その不安を打ち消すように祈りに集中します。

すると今度は大天使様達の上に、アルタイル星を包み込むような大きな創造主様の姿が浮かび上がってきました。

男性性と女性性の創造主様に分かれて、このアルタイル星を持ち上げているようなイメージが私達に伝わってきました。

きっと、創造主様が低い次元に落ちてしまったアルタイル星を次元上昇させているのでしょう。

その瞬間、アルタイル星が大きく揺れました。私はよろけそうになり、手をついて体をささえました。

アルタイル星が、ごーという音と共に動いています。

きっとアルタイル星が次元上昇を起こしているのでしょう。

アルビレオ星の5人のマスター達の祈る声がさらに大きく響きます。

私達を包むエネルギーが大きく揺らぎ変わっていく感じが感じられます。

しばらくして動きが止まると、アルビレオ星の5人のマスターの祈りの言葉が止まり、今度は創造主様への感謝の言葉を述べています。

私達は、マスターの感謝の言葉が終わることを待って立ちあがりました。

皆さんとても大きな達成感に満ち溢れた顔をしています。

1人1人が喜びを表現しています。

涙を流している人もいれば、お互い抱き合っている人もいます。

創造主様に感謝の言葉を述べている人もいます。

PART4 金太郎の姿をしていた大天使メタトロン

私達は「宇宙の光」の仲間の元にもどりました。

「宇宙の光」のメンバー達も初めて経験する事にどのように対処していいか分からずに、ぼ一つとしています。

涙を流している人もいれば大きなため息をついている人もいます。

でも皆さん、心の中に自分達はやり遂げたんだ、という強い気持ちを持っているようです。誰一人として言葉を発しません、お互いの絆を強く感じているようです。

私達の所に、コカブ星の金太郎が、紙の兜をかぶって新聞紙で丸めた紙をふりまわしながらやってきました。

美緒さんが、「この子は一体何をしているんだろう、」と言います。

「宇宙の光」のメンバー達も、そのあまりの可愛さに、みんなで爆笑しています。

でも、私はおかしいなと思い、金太郎に、あなたの本当の姿を見せてくださいと頼みました。

すると周りを大きな光がつつみ、金太郎は大きな羽を広げた大天使メタトロン様に姿を変えました。

大天使の中でも、最も神に近い叡智の存在。メンバー達のあっけにとられてしまった顔を見ながら、大天使メタトロン様は、私達を褒めてくれました。

「皆さん、今回は本当に素晴らしい仕事をしてくれてありがとう。

皆さんが、仲間達を信頼して、アルタイル星の救出を行ってくれたおかげで、多くの人達が救われました。

そして、これから「大きな白鳥の六芒星」は光を取り戻し、天の川銀河も大きく変わっていく事でしょう。」

大天使メタトロン様に褒めてもらって、「宇宙の光」の女性達は舞い上がっています。特に隆子さんや遥さんは、あこがれの大天使様の登場に言葉を失っています。

これほど素晴らしい大天使様と、身近で語り合い、行動できる事がまるで夢のようです。大天使メタトロン様は、喜んでいる女性達を見て微笑んでいます。ふっと私の方に顔を向けると、一言「これも試験なんだよ。」とおっしゃいました。

試験・・・きっと地球の人類が、他の星の人々と協力して、自分達のためでなく、天の川銀河や宇宙の為に働く事ができるのか、異なる星の人達を助けてあげる気持ちと能力があるのか、私達は試されているのです。

私達に、もしその能力も気持ちもないという事がわかったら、地球を汚し破壊し続けてきた人類は、この地球にいる意味がなくなり、すべてが終わる。

大天使メタトロン様の思いが、私のハートに伝わってきます。

今まで地球人のエゴの為に、苦しめられた地球といくつもの星の人達。

私にできる事なら、皆さんの為に働きたい地球に人類をそのまま残したい・・・という思いが、私の心の中に広がります。

私達は、アルタイル星の人々を介護する人達と星を浄化する作業を行う人達を残して、引き上げる事にしました。

皆さん少し疲れたようですが、素晴らしい仕事をした達成感に満ち溢れています。

そして、これでアルタイル星が光の星に戻る事が出来、自分達の星も共に輝く事が出来る事を喜んでいます。

各星のリーダーは、北極星の創造主様のもとに集まります。

これから、このアルタイル星をどのように浄化し元の星に戻していくのか、あるいは傷ついた星の人々をどのようにサポートしていくのか会議を行うようです。

しかし私達は、初めての体験で疲れ果ててしまいました。

私達の星のツアーは、今日はこれで終わりにして地球に戻る事にしました。

私達は、皆さんの拍手と歓声の中、神龍（シェンロン）にまたがって、地球に戻り、それぞれの家に帰っていきます。

さすがに、今日の星のツアーが終わった後は、そのままお布団の上に転がりこんで寝てしまいました。

第 17 章 アルタイル星への 再生

PART1 アルタイルへの再訪



アルタイル星のマスターを救出し、アルタイル星を次元上昇させてから、1 週間がたちました。

今日の星のツアーでは、アルタイル星の様子を見に行くために、再度アルタイル星に向かいます。

アルタイル星のエネルギーはとてもきれいになっているのですが、未だ人々の傷も癒えておらず、星が復興するには、まだ長い時間がかかりそうな気がします。

しかし、1 段階次元上昇したことで、アルタイル星の自然も回復してきており、植物も育ち始めています。

空では鳥達もさえずり、植物達も育ってきています。

小さな林のようなところでは、小さな虫たちや動物達も集まってきています。

アルタイル星には周りの星からもたくさんの光が届けられ、星のエネルギーがさらに高められていきます。

多くの星々の助けで、必ずこの星は素晴らしい星に戻るはずです。

私達は、前回多くの人達を介護していた広場に行きます。

今は、神殿と広場を中心に、たくさんの家のようなものが作られ、傷ついた人々はそこに移されて看病をうけています。

元気な人や他の星からお手伝いに来た人達は、この神殿を中心に、アルタイル星の人達が住む家をつくり、アルタイル星の人達の生活を整えるお手伝いをしています。

その中でもひとまわり大きな家では、ベガ星の人達を中心に食事の準備も行われているようです。

ベガ星からたくさんの野菜や食物、水などが運び込まれ、アルタイル星の人々がこの場所で一緒に食事ができるようにしています。

この食堂は、アルタイル星の人にとっては大切な安らぎの場所です。

人々は笑顔でおいしい食事を分かち合っています。

そして、修復された神殿は、星の復興を行う為の準備をする場所になっており、様々な星の人達が出入りをしています。

私達が、その場所に近づくと私達が助け出したマスターがそこに待っていました。

体もだいぶ癒されてアスクレピオス様の癒しの神殿から戻ってきたばかりのようです。彼は、横に同じような顔立ちをした女性を伴っています。

私はすぐに、彼女こそが、私にマスターの居場所を教えてくれた女性である「ビジョン」である事が分かりました。

アルタイル星のマスターと「ビジョン」がすぐに私達の前に来て丁寧に挨拶をします。

「龍治さん、そして「宇宙の光」の皆さんよく来てくれました。

私達の星の人々を闇から救い出し、この星に新たな希望を与えてくれた事に、私達は感謝しています。

私の名前は、アルタイル星のビジョンという名前です。

彼女は、私のパートナーであり、私達は2人で一つの働きをします。

私達は、心もスピリットも深くつながっていて、決して別々の存在ではありません。

どちらかに話しかけても、同時に2人に伝わりますので、区別する必要はありません。」とマスターは言いました。

私は、2人に手を差し伸べながら言いました。

「いえ、皆さんを助けてくれたのは、北極星の創造主様であり、ベガのベガリタス様やこの星系の仲間達です。

彼らは、皆さんの星を救うために一生懸命働いてくれました。

特にトゥバン星の神龍（シェンロン）達は、危険を顧みず、最初にこの星に入り、闇を浄化してくれました。」

「もちろん、私達は皆さん全員に深く感謝しています。

私達が、自分達の力を誇示し、この星域の星々を自分達が支配できると思って傲慢な行動に出た事を私達は深く反省しています。

自分達の思い上がった気持ち、自分達の星だけでなく、大切な仲間だった星々の調和を見出し混乱に陥れた事を心から謝罪したいと思います。

そして、皆さんに大変なご迷惑をかけた私達を、まるで自分達の星のように、一生懸命救ってくれた皆さんの行動に心からお礼を言いたいと思っています。

私達は、これから皆さんのために働くことを心に決めております。」

「マスターよ、これはもう過ぎた事です。これから、皆さんは、再び真夏の空に輝く星々となって、星の住人と共に素晴らしい星を作ってくださいれば、それが恩返しとなってくれる事でしょう。」

私達は再会を喜びあいました。

マスタービジョンは、私達に丁寧に救出してくれたお礼を言い、再び過ちは繰り返さないと何度も言いました。

そして私達も、共にアルタイル星の再建のために力をつくす事を誓います。

「龍治さん、手伝っていただきたい事があるのですが。」とマスタービジョンは、申し訳なさそうな顔をして私に言います。

「このアルタイル星には、様々な種族の人や生命達が住んでいたのですが、皆さん、この星が闇に落ちてから別の星や次元に避難してしまいました。

出来れば、彼らがこの星に戻って来れるように助けていただきたいのですが・・・」

どうやら、皆さんアルタイル星から逃げ出す時に急いで逃げ出したために、様々な次元に入り込んでしまい、そこから抜け出すことが出来ないでいるようです。

普通の星の人達ではそのような異なる次元に開いている通路がないために、私達が関わらないと、自分達と異なる次元にいる人達を探し出すことが出来ないようです。

私達は、マスターの願いを聞いて、アルタイル星に住んでいた人々を呼び集める事にしました。

私は、白鳥座の女神アルターニャ様をお願いして、多くの白鳥達に、他の次元から出る事ができない人達やアルタイル星が復興している事を知らない人達をアルタイル星に連れてきてくれるようにお願いしました。

私達のメンバーも葵さん、美緒さん、遥さん、隆子さんのグループに分かれて、白鳥と共に飛び立ちました。

またりゅう座のトゥバン星のマスターにもお願いして、別の次元に逃れている存在達を神龍（シェンロン）達の力で、アルタイル星の次元に戻してくれるようにお願いしました。

アルビレオ星の5人のマスターと私は、アルタイル星の人達が星にもどってくるまでにやらなければ、ならない事があります。それは、アルタイル星のパワーをさらに高め、彼らが無事にアルタイル星に入る事が出来るようにする事です。

様々な星や次元から人々が戻ってくるためには、星の通路をさらに広げ、アルタイル星の光を高めていかなければなりません。そして、自然がまだ育ち切れていないアルタイル星をその光によって甦らせていくのです。

私達は、アルタイル星と他の星をつなぐ通路や光のフローに多くのクリスタルを配置し光を強化して行きます。

もちろん大天使ラジエル様から頂いたアメジストがついた魔法のワンドを使用して、光が増幅していくようにイメージしました。キラキラとしたクリスタルのエネルギーが、アルタイル星と光の通路に吸い込まれるように流れ込んでいきます。

白鳥の六芒星全体が、クリスタルの光で輝きこの宇宙の中に美しく輝き始めます。

光はどんどんアルタイル星の中に満ちていき、星が輝き始め元気を取り戻していくようです。

PART2 アルタイル星の新しい始まり

アルタイル星に、豊かな自然が広がり始めた頃、アルタイル星に白鳥達が降り立ちました。その白鳥の背から飛び降りてきたのは、とてもかわいい小人（ホビット）達でした。

白鳥座のフェアリーもホビットと一緒にあって、白鳥から飛び降りてきます。

沢山のフェアリーとホビット達が、一緒になって新しいアルタイルの星で大騒ぎです。彼らが駆け巡ると、そこに新しい花が開き、小さな昆虫のような生命も生まれてくるようです。

新たな自然の循環が、アルタイル星に生れていきます。

また他の白鳥からは穏やかなエネルギーを持ったエルフ達も降りてきます。

彼らは自然界に生きる鳥や魚、動物達のお世話をする事が役目のようです。

彼らが森の中に入ると動物や鳥達が集まってきました。

私達は、美しい花々や樹木で飾られた神殿へと移動します。

すでに数名の神官達が、神殿の中で祈りをささげ舞い踊っています。

神殿の横には、大きな光の塔のようなものが立ち輝いています。

光輝く塔はアルタイル星の再生を知らせる塔ですので、その輝きを目指して、多くの存在達が集まってきました。

やがて、トゥバン星の神龍（シェンロン）達に連れられて、ほかの次元に逃れていた存在達も戻ってきました。

彼らはアルタイル星の人々やマスタービジョンと同じような姿をした人々です。

きっと彼らがこの星の代表的な種族なのかもしれません。

彼らは、星に降り立つと、マスタービジョンと力強く握手をしています。

そして、鷲に乗った騎士団達も空から到着しました。

彼らは、非常に勇敢で叡智にあふれたわし座の騎士団ですが、アルタイル星が闇に蔽われて次元が降下したために、アルタイル星にいる事が出来なくなって、異なる次元へと退避していたようです。

勇壮な姿で、鷲に乗って飛び回る騎士団を見てたくさんの人々が歓声を上げています。

わし座の騎士団が、アルタイル星に戻ってきた事を、みんなが喜んでいます。

彼らは、マスタービジョンと再開の挨拶をするために、神殿へと降り立ちました。

沢山のホビット達やエルフ、星の人々そして騎士団が、アルタイル星に戻ってきました。皆が再会を喜び合い、歌ったり踊ったりしています。

そしてみんなで、家や野菜畑、果実園等いろんなものを作り始めました。

ビジョン様は、アルタイ星の働きに関しても語ってくれました。

「このアルタイル星は、宇宙の様々な星に光を送ることが役目です。

皆さんが様々な星を巡られてお分かりになったと思いますが、この「白鳥の六芒星」と呼ばれる星系は、白鳥座を中心にいくつかの星座と星々が集まった集合体です。

私達は、北極星にいらっしゃる創造主様を中心として、まるで家族のように深いつながりを持って存在しているのです。

創造主様の光の中でも、創造や愛、ファンタジーに関するエネルギーは、白鳥座のデネブ星に流れ込み、海の生命体がたくさんいるサドル星から叡智のマスターの星であるアルビレオ星を通して、私達の星へ送られます。また創造主様の光の中でも、秩序や意識の進化、浄化などに関するエネルギーは、こと座のベガ星を通して私達の星に流れ込みます。

また、トゥバン星を持つりゅう座の神龍（シェンロン）達は、この宇宙に大いなるエネルギーとパワーを生みだします。

そして、エルフとペガサスが活躍するペガサス座は、叡智や守護の力を作り出します。アスクルピオス様の星は、お分かりのように癒しと浄化の力をもたらしてくれます。

北極星の創造主様と白鳥座の六芒星に関わる星々の中で生み出されたパワーが、全てアルタイル星へと流れ込んでくるのです。

私達は、これらの素晴らしい光をひとつに統合して、地球をはじめ、いくつもの星々に光を送ります。

私達は、この宇宙の中でも、これから育っていかねばならない星や傷ついて助けを求める星などに光を送っているのです。

そして、アルタイル星は、白鳥の六芒星の光を紡ぎながら、宇宙の中で新しく生まれる星に対しても光を送ります。

皆さんの地球が成長する過程においても、このアルタイル星からたくさんの光を送りました。

その事によって、地球には、皆さんのような優れた生命達が生まれ育っていったのです。

私達は、かつて自分達が果たしている重要な役割に対して非常に傲慢になりました。

私達が、さもこの宇宙を支配しているかのような幻想に陥ってしまったのです。

私達の行いを戒め、真実の心に引き戻そうとアルビレオ星の賢者達が何度も忠告をしてくれたのですが、私達は自分の力に酔いしれて、彼らの言葉を受け入れませんでした。

いえ、反対に私達の邪悪な心に宿った闇の力が、アルビレオ星と白鳥座のいくつかの星に隕石を落としてしまったのです。

その結果、私達はさらに深い闇に飲み込まれる事になりました。

そして私達の心だけでなく、アルタイル星も闇の中に落ちてしまい、次元降下を引き起こしてしまいました。

多くの者達が、この星を去りました。

私達を常に守護していたわし座の騎士団も私達の前から姿を消してしまいました。私達は、その直後、闇の力によって自由を奪われ、長い時間、闇の世界に閉ざされてしまったのです。」

アルタイル星のマスターは、自分の間違いを戒めるように、こぶしを固く握ります。

「しかし、皆さんのおかげで、私達は自分達の心の闇からも自由になりました。

アルタイル星と私達は、再びその力を取り戻します。

そして、今迄のように、白鳥の六芒星の光を統合し、この光を必要とするすべての星に、光を分かち合いたいと思っています。

アルタイル星が再び活動し始めたら、この宇宙の星々は再び美しく光輝き始める事でしょう。」

アルタイル星のマスタービジョンは、この宇宙や星々に対して素晴らしいビジョンを作りあげ、新しい星や新しい宇宙を作りあげていくお手伝いをしているようです。

私達は、仕事が終わった後に、ビジョン様から、私達のハートとサードアイを開き、私達がビジョンを見る能力を高めてもらう事にしました。

私達は、見えない世界を見る力、自分の内なる真実を知る力をくださいと、共に祈りました。

私達のハートに美しい光が輝き始めます。

第18章 アルタイル星の心臓 に絡んだ闇の根

PART1 アルタイル星に残る闇の根っこの除去

私達がアルタイル星を再訪してから数日後、葵さんから連絡がありました。

彼女は、大天使やマスター達からメッセージを受け取り、私にそのメッセージを伝える事で、大切な問題が発覚するという事が良くあります。

「龍治さん、大天使の長老様から頂いたペンダントが光始めたので、目を閉じてペンダントに意識を合わせると、長老様から大切なメッセージを頂きました。

長老様は、アルタイル星の心臓と思われる部分に、闇の根が絡んでいて星の心臓を締め付けているとおっしゃっています。

この根をそのままにしていたら、また闇が復活する恐れがあるので、ラスアルハゲ星のアスクレピオス様に取り除いてもらわなければならないようです。」

私達は、「大きな白鳥の六芒星」の仲間が、一緒になって再生させてくれた星を、再び闇の手に渡すわけにはいきません。

私達は急いでこの闇の根っこの撤去作業を行う為に行動する事にしました。

なぜなら、闇の根は、星の魂である心臓（コア）に寄生して、星の生命を吸い取っていくからです。

私達はまず、このメッセージをくれた大天使

の長老様にアドバイスをもらうために、天使の星へと行きました。

私と葵さんが天使の星に行くと、大天使の長老様は私達を待っていてくれたようです。

「龍治さん、今回は本当にご苦労でした。私達大天使も、アルタイル星の事をとても気にしており、解決を願っておりました。龍治さん達が、その仕事をする事は分かっていたので、皆さんに早く成長してもらおうと、私達も様々な方法で、皆さんの能力を高めるお手伝いをしていたのです。

アルタイル星の事は、皆さんのおかげでうまくいきましたが、ひとつだけ厄介な問題が残っております。

それがアルタイル星の闇の根っこです。これは、アルタイル星が次元上昇した事によって、そこにそぐわないエネルギーとして浮かび上がってきたのです。

私も、星が次元上昇する時は、星が次元降下する原因となった問題が明らかになり、その問題を除去しなければならないという事を度々見てきました。

恐らくアルタイル星でも、同じような事が起きるだろうと予測していたのです。

しかし状況は私達が思っていたよりも深刻です。

私達もお手伝いしますので、アスクレピオス様をお願いして、闇の根をどうか取り除いてもらってください。

私達からも大天使ラジエルをお手伝いに送りましょう。」

私達は、大天使の長老様から、闇の根を除去した後に、この種を植えなさいと、チュリップの球根のような大きな種をいただきました。

これは、星に希望と調和を生みだすための種
のようです。

そしてこの作業を手伝うために、大天使ラジ
エル様が同行してくれる事になりました。

私達は、その種を持って、アルタイル星へ向
かいます。

アルタイル星のマスターであるビジョン様
とお話をしますと、ビジョン様は闇の根の事
を知らなかったようで大変驚かれました。

「そのようなものがアルタイル星にまだ残
っているとは驚きです。

しかし、闇の力はとても大きく根深いもので
す。

それがこの星の心臓であるコアに入り込んで
いては、アルタイル星も再び闇の力に置か
されてしまいます。

どうか取り除いてください。」

そのように言って、マスターは、アルタイル
星の中心メンバーや騎士団を呼び出し、私達
の仕事を助ける準備に入ります。

私達は、アスクレピオス様の待つラスアルハ
ゲ星に向かいます。

アスクレピオス様の神殿ではもうすでに準
備がしてあり、迷彩服のような格好の特殊部
隊がそばに控えています。

「龍治さん、私達も大天使ラジエル様から、
アルタイル星に関する話を聴いております
ので、すでに準備をしております。

今回は、アルタイル星の心臓に根付いた闇の
根ですから、通常の方法ではうまくいきませ
んのので、大天使ラジエル様にも協力していただ
き、魔法の力を使って、この闇の根を除去
したいと思います。」

どうやら内視鏡のようなものを取り付けて、魔法の力で闇の根っこを取り外していくようです。

私達は、大天使の長老様から預かった種を持って、特殊部隊と共にアルタイル星へと戻ります。

アルタイル星につくとすぐに作戦開始です。マスタービジョン達も、私達の行動をサポートしてくれます。

大天使ラジエル様が、特殊部隊に制限時間を知らせる砂時計を渡すと同時に、地表から地下に続く階段を作り出しました。

どうやら、魔法の力で、地球の地殻を抜けて星のコア（心臓）にたどり着く通路を作りあげたようですが、長い時間はこの魔法の通路を保つ事はできないようです。

アスクレピオス様の特殊部隊と私そしてアルケイデース様は、階段が現れるとすぐに、その階段を下りて惑星の中心へと向かいます。

曲がりくねった階段を下りながら下へ下へと向かっていきます。

アルケイデース様は、私を危険から守るように、私の前を注意深く進みます。

しばらく進むと、海のような水をたたえた場所につきます。

大天使ラジエル様は、魔法の言葉を唱え、水を二つに分けるとその間に通路を作ります。特殊部隊が、その通路を走り抜けて進むと、やがて突き当りのような場所に、巨大な心臓のようなものを発見します。

特殊部隊はその場所を調べると、背中に担いでいた器具をおろし、その壁に取り付けました。

取り付け終わると、すぐにテレパシーでアスクレピオス様に連絡を取っているようです。彼らはその事が終わると、大天使の長老様から頂いた種をその場において、こちらに戻り待機しています。

葵さんは、アスクレピオス様の神殿で、彼の仕事を見えています。

驚いた事に、そこは現代のハイテクな医療室のようです。

大きなモニターが何台もあり、そこにアルタイル星の心臓の様子があらゆる角度から写し出されています。

アスクレピオス様がボタンを押すと、特殊部隊が取りつけた器具が巨大化して大きなピンセットとピンセットを持つ手のような形の器具に変わります。

アスクレピオス様はマジックハンドのようなものを操作して、闇の根をピンセットのようなもので丁寧に取り除いています。

さすがに大天使ラジエル様に加わると魔法によって星の外科手術も可能になるようです。

闇の根の除去が終わり希望の種の埋め込みが終了すると、特殊部隊は心臓に取り付けられた機械をはずし、開いた傷口を縫合しています。

その作業が終了すると、私達は階段から急いで撤退します。

これで、アルタイル星の心臓から闇の根は取り除かれたのでひと安心です。

私達が地表に戻るとマスタービジョンが心配そうに「うまく行きましたか。」と尋ねてきます。

私は「アスクレピオス様と大天使ラジエル様

のおかげで無事に心臓に取り付いた闇の根を取りはずし、希望の種を植える事が出来ました。」と答えました。

その言葉を聞いてアルタイル星の人達は大喜びです。

お祝いの歌を歌ったりダンスを踊ったりしています。

私達も嬉しくて、アルタイル星の人達と握手をしています。

特殊部隊の人達は、感謝の言葉を後に、アスクレピオス様のもとに戻っていきました。

私達も、今日の星のツアーを終了し、地球に帰る事にしました。

PART2 闇のエネルギーが噴火する

前は、アルタイル星の心臓部分に残っていて、星のエネルギーを吸い尽くす闇の根を無事に除去する事ができました。

しかし問題は、これだけでは終わりません。私達は、マスタービジョンからメッセージを受け取りました。

アルタイル星の火山の様な場所から、大きな闇のエネルギーが噴出してきているようです。

私達はすぐに神龍（シェンロン）に乗ってアルタイル星へと向かいました。

私達がアルタイル星の様子を見に行ったときに、マスタービジョンが困った顔をして私の前に現れてきました。

「龍治さん、大変な事になりました。

突如火山のような島が吹き上がり、みんなが困っているのです。

そのガスがとても有毒で小人達も逃げ回っ

ています。」

アルタイル星は、ホビットやフェアリー達が戻って、各所にお花畑や野菜畑が出来ていました。

彼らは自然の中で楽しみながら仕事をするのが好きなのです。

ところが、彼らのお花畑から少し離れた所に海のように広くて水で覆われた場所があるのですが、そこから、海底火山のように、赤く燃えたぎったような島が盛り上がり黒い煙を噴き上げています。

それは、闇の力の残りかす、という感じの火山です。

火山の上空にいくと、赤黒いマグマのような粘着質な泥がうごめいて、時々黒い煙とガスをぶわーっと噴出していました。

この煙とガスをどうしたらよいかと、横にいるアルケイデース様に聞きました。

「このガスはとても有害なので片付けなければなりません、この火山に蓋をしても、いつかは蓋を突き破るでしょう。

この闇のエネルギーを根こそぎ浄化出来たらよいのですが。」と答えました。

私はしばらく目を閉じて考えます。

光の蓋をしてもいつかまた噴出するなら、蓋をするだけでは解決になりません。

すると、黒い岩でできた火山の下から、その黒い粘着質の泥を押し上げ、光の玉にいれて、光に還すイメージが浮かびました。

私は、魔法使いでもある大天使ラジエル様を呼び出しました。

「大天使ラジエル様、私は、この火山の中に残る闇のエネルギーを魔法で取り出し浄化したいのですが手伝ってもらえますか。」

大天使ラジエル様も喜んでほほ笑んでいます。

魔法で闇のエネルギーを取り去ると聞いて魔法使いのロイドも張り切っています。

このところ桁違いのすごい魔法を見せられて俄然やる気を出しているようです。

「私にも手伝わせてください。」と私にお願いしてきます。

私はホビット達に小さな反射板でできた銀色の箱を作ってもらいました。

そして私とロイドは、その箱を魔法でどんどん大きくして、火山の周りを大きな銀色の反射板でできた箱で取り囲みました。

火山の中にたまった泥が箱の中に流れ込んできます。

魔法の光によってその泥を反射板の中で光に変えていきたいのですが、あまりにも多量の闇の泥が流れ込んでくるので、私とロイドだけでは手におえません。

「龍治さん、私達だけの力では力不足です。皆にも手伝ってもらいましょう。」とロイドが言いました。

私は、葵さんや遥さん達になるべく多くの人達を呼び集め一緒に祈ってくれるように頼みました。

アルタイル星のマスター達も仲間を呼び集め私達のまわりを取り囲み、闇のエネルギーが光に変わるように祈り始めました。

アルタイル星を光の星にするために働いていた人達もその手を休め、火山の周りにどんどん集まります。

ホビットやフェアリー達をはじめ、エルフや異なる星の人々も集まります。

もちろんアルビレオ星の5人のマスターや
ベガ星のマスター達も手伝いに来てくれました。

そして皆さん一緒に祈り始めました。

皆さんで光を送ると、その四角い箱の中の黒い粘着質なかたまりが気化して、蒸気のように
なって箱から出ていきます。

黒い闇の固まりは、共に祈ってくれる皆さんの
力で、光に変わりどんどん小さくなっていきます。

更に、仲間も増え、アルタイル星の様々な種
族がひとつになって光を送ると、黒い固まり
と光が絡んで渦をまきはじめ、陰陽のマーク
のように回転し始めました。

私達は闇と光が一つに統合されるように祈
ります。

すると、その陰陽のマークがものすごい光を
発して光の爆発みたいになり、パーンとはじ
けました。

光は、大空に飛び散り、まるで星のように上
空にキラキラと散っていきました。

アルタイル星のたくさんの種族の人々達が
喜んでいます。

アルタイル星のいくつもの種族の人達も、共
に祈ることで一つになっていったようです。
新しいアルタイル星の歴史の始まりです。

私の心の中にベガリタス様の言葉が響いて
きました。

「龍治さん、「宇宙の光」の皆さん、本当に
有り難うございました。

これで、私達の「大きな白鳥の六芒星」の星々
も本来の働きを取り戻すことが出来ました。
多くの仲間達が、皆さんの働きに感謝してい
ます。

皆さんにとっては初めての体験で、正直言って理解できない事も沢山あったでしょう。でもそれを乗り越えて多くの仲間達と心をつなげて働いてくれた皆さんは立派です。創造主様や大天使の方々も、皆さんの働きを認めてくれました。ありがとうございます。」

私は、自分達の仕事がつましくいった事に大きな喜びを持ちました。これで地球人も認められて生き残る事が出来るのだと、思いました。しかし、ベガリタス様の言葉はこれで終わりませんでした。

「これで龍治さん達も少しは宇宙の事に慣れ、本格的な活動にはいる事が出来ますね。次はシリウス星の女神があなたにお願いがあるようです。」

私は一瞬言葉を失いました。私達が今回行ってきた事は、これから行われる活動の始まりの一步だったようです。でも、私の中で次は何が起きるのだろう、どんな仲間と会えるのだろうという期待も沸き起こってきました。

第 2 作目 天の川銀河の物語 2 ペテルギウスのダイヤモンドに続きます、